【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成27年3月12日(2015.3.12)

【公開番号】特開2015-3191(P2015-3191A)
【公開日】平成27年1月8日(2015.1.8)
【年通号数】公開・登録公報2015-002
【出願番号】特願2014-189059(P2014-189059)
【国際特許分類】
Ａ６３Ｆ　5/04　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６３Ｆ　5/04　５１２Ｃ
Ａ６３Ｆ　5/04　５１２Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成27年1月26日(2015.1.26)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
前面側に開口を有する筐体と、
前記筐体の内部に設けられたリールユニットと、
前記筐体の前面側で開閉可能であって閉状態で前記開口を閉塞する扉と、
遊技に関する制御を行う制御手段と、
前記開口を正面視した状態での左右両側から前記制御手段を支持する第１支持手段と、
前記第１支持手段を前記筐体の内部に支持する第２支持手段と、
前記左右両側から前記第１支持手段を前記第２支持手段に対して取り外し不可に連結する連結部材と、
を備え、
前記第２支持手段の前記左右両側の外側面は、前記リールユニットの前記左右両側の外側面よりも外側で且つ前記筐体の内側面の近傍に位置している
ことを特徴とする遊技機。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【発明の詳細な説明】
【発明の名称】遊技機
【技術分野】
【０００１】
この発明は、スロットマシン等の遊技機に関する。
【背景技術】
【０００２】
従来、遊技機の代表例として例えばスロットマシンがある。
【０００３】
このスロットマシンは、例えば、前面側に開口を有する箱状の本体キャビネットと、こ

の本体キャビネットの前面側で開閉可能であって閉状態で前記開口を閉塞する扉と、複数の図柄が表示された回転リールを本体キャビネット内部に複数個横並びに設けたリールユニットのような図柄変動表示手段と、当該スロットマシンの遊技に関する制御を行う制御基板がケースに収納された制御手段と、を備えたものがある（例えば、特許文献１参照）。

【先行技術文献】
【特許文献】
【０００４】
【特許文献１】特開２００３－２５０９６１号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００５】
しかしながら、このような構成を有する従来例の場合には、次のような問題がある。
【０００６】
すなわち、従来のスロットマシンでは、制御手段に対する不正行為を十分に低減できていないという問題がある。
【０００７】
本発明は、このような事情に鑑みてなされたものであって、制御手段に対する不正行為を低減できる遊技機を提供することを目的とする。
【課題を解決するための手段】
【０００８】
この発明は、このような目的を達成するために、次のような構成をとる。
【０００９】
すなわち、請求項１に記載の発明は、
前面側に開口を有する筐体と、
前記筐体の内部に設けられたリールユニットと、
前記筐体の前面側で開閉可能であって閉状態で前記開口を閉塞する扉と、
遊技に関する制御を行う制御手段と、
前記開口を正面視した状態での左右両側から前記制御手段を支持する第１支持手段と、
前記第１支持手段を前記筐体の内部に支持する第２支持手段と、
前記左右両側から前記第１支持手段を前記第２支持手段に対して取り外し不可に連結する連結部材と、
を備え、
前記第２支持手段の前記左右両側の外側面は、前記リールユニットの前記左右両側の外側面よりも外側で且つ前記筐体の内側面の近傍に位置している
ことを特徴とする遊技機である。
【発明の効果】
【００１０】
この発明に係る遊技機によれば、制御手段に対する不正行為を低減できる遊技機を提供することができる。
【図面の簡単な説明】
【００１１】
【図１】実施例１のスロットマシンの前面扉を閉じた状態の斜視図である。
【図２】実施例１のスロットマシンの正面図である。
【図３】前面扉を取り外した状態でのスロットマシンの内部を示す図である。
【図４】前面扉の裏面図である。
【図５】前面扉を空けて主制御装置を引き出した状態の実施例１のスロットマシンの斜視図である。
【図６】主制御装置が収納支持状態である実施例１の取付台を示す斜視図である。
【図７】回動枠体を水平姿勢に傾倒した状態の取付台を示す斜視図である。

【図８】水平姿勢の回動枠体からスライド枠体を引き出した状態の取付台を示す斜視図である。
【図９】引き出したスライド枠体の裏面を表向けるように反転傾斜姿勢とした状態の取付台を示す斜視図である。
【図１０】固定ベースと回動枠体とスライド枠体との連結を示す斜視図である。
【図１１】（ａ），（ｂ）は、固定ベースの前方斜視図，後方斜視図である。
【図１２】固定ベースと回動枠体との連結を示す斜視図である。
【図１３】固定ベースに回動枠体のみが起立姿勢で係止された状態での左端部分を示す部分平面図、（ｂ）は（ａ）に示すＡ－Ａ線断面図、（ｃ）は（ｂ）の部分断面斜視図である。
【図１４】（ａ）は、固定ベースと起立姿勢の回動枠体との縦断面図、（ｂ）は、固定ベースと傾倒姿勢の回動枠体との縦断面図である。
【図１５】（ａ），（ｂ）は、図１４（ａ），（ｂ）の断面箇所の拡大斜視図、（ｃ）は、図６の取付台の右端側の縦断面図、（ｄ）は、図７の取付台の右端側の縦断面図、（ｅ），（ｆ）は、図１５（ｃ），（ｄ）の断面箇所の拡大斜視図である。
【図１６】主制御装置のスライド枠体へのかしめを説明するための取付台の分解斜視図である。
【図１７】主制御装置の分解斜視図である。
【図１８】主制御装置のスライド枠体へのかしめを解除する手順を示す図である。
【図１９】（ａ）は、かしめ状態の二重かしめピン及び別被封止部の斜視図、（ｂ）は、（ａ）状態での別被封止部の斜視図、（ｃ）は、（ａ）状態での二重かしめピンの斜視図、（ｄ）は、切断された別被封止部を９０度回転させた状態の二重かしめピン及び別被封止部の斜視図、（ｅ）は、（ｂ）状態での別被封止部の斜視図、（ｆ）は、（ｂ）状態での二重かしめピンの斜視図である。
【図２０】（ａ）は、スライド枠体及び主制御装置のかしめ箇所の部分横断面図、（ｂ）は、（ａ）の横断面斜視図、（ｃ）は、スライド枠体及び主制御装置のかしめ箇所の部分縦断面右側視図、（ｄ）は、（ｃ）の縦断面右側斜視図である。
【図２１】（ａ）は、スライド枠体及び主制御装置のかしめ箇所であって切断された別被封止部を９０度回転させた状態での部分横断面図、（ｂ）は、（ａ）の横断面斜視図、（ｃ）は、スライド枠体及び主制御装置のかしめ箇所であって切断された別被封止部を９０度回転させた状態での部分縦断面右側視図、（ｄ）は、（ｃ）の縦断面右側斜視図である。
【図２２】前面扉を取り外した状態での実施例２のスロットマシンの内部を示す図である。
【図２３】前面扉を空けて主制御装置を引き出した状態の実施例２のスロットマシンの斜視図である。
【図２４】主制御装置が収納支持状態である実施例２の取付台を示す斜視図である。
【図２５】支持枠体を水平姿勢に傾倒した状態の取付台を示す斜視図である。
【図２６】取付台でのリンク枠体が伸張途中である様子を示す斜視図である。
【図２７】図２６に示した状態の取付台の側面図である。
【図２８】取付台のリンク枠体を伸張状態として主制御装置を引き出した状態の斜視図である。
【図２９】引き出した支持枠体の裏面を表向けるように反転傾斜姿勢とした状態の取付台を示す斜視図である。
【図３０】固定ベースとリンク枠体と支持枠体との連結を示す斜視図である。
【図３１】（ａ），（ｂ）は、固定ベースの前方斜視図，後方斜視図である。
【図３２】固定ベースとリンク枠体との連結を示す斜視図である。
【図３３】（ａ）は、固定ベースにリンク枠体のみが起立姿勢で係止された状態の平面図、（ｂ）は（ａ）に示すＢ－Ｂ線断面図である。
【図３４】（ａ）は、固定ベースと起立姿勢のリンク枠体との縦断面図、（ｂ）は、固定

ベースと傾倒姿勢のリンク枠体との縦断面図である。
【図３５】（ａ），（ｂ）は、図３４（ａ），（ｂ）の断面箇所の拡大斜視図、（ｃ）は、図２４の取付台の右端側の縦断面図、（ｄ）は、図２８の取付台の右端側の縦断面図、（ｅ），（ｆ）は、図３５（ｃ），（ｄ）の断面箇所の拡大斜視図である。
【図３６】（ａ）は、リンク枠体の第１腕部材と第２腕部材との連結状態を示す部分斜視図、（ｂ）は第１腕部材と第２腕部材との分解斜視図、（ｃ）は第２小歯車と第３小歯車とを示す斜視図である。
【図３７】支持枠体と第１腕部材との連結箇所を示す分解斜視図である。
【図３８】支持枠体と第１腕部材との連結箇所を示す部分斜視図である。
【図３９】主制御装置が装着されて水平姿勢の支持枠体と第１腕部材との連結箇所を示す部分斜視図である。
【図４０】主制御装置が装着されて反転傾斜姿勢の支持枠体と第１腕部材との連結箇所を示す部分斜視図である。
【図４１】（ａ）は、支持枠体を引き出して水平姿勢とした場合の第１回動連結部の部分側面図、（ｂ）は、（ａ）の支持枠体を反転傾斜姿勢とした場合の第１回動連結部の部分側面図である。
【図４２】（ａ）～（ｄ）は、リンク枠体が起立姿勢直前の状態から起立姿勢となる様子を示す取付台の側面図である。
【図４３】（ａ）～（ｄ）は、リンク枠体が起立姿勢直前の状態から起立姿勢となる様子を示す取付台の前方斜視図である。
【図４４】（ａ）～（ｄ）は、第１腕部材の支持ピンの車輪が第２腕部材の案内レールで案内される様子を示す要部部分を正面視した縦断面図である。
【図４５】（ａ）～（ｄ）は、第１腕部材の支持ピンの車輪が第２腕部材の案内レールで案内される様子を示す要部部分を前方斜視した縦断面斜視図である。
【図４６】（ａ）～（ｄ）は、第１腕部材の支持ピンの車輪が第２腕部材の案内レールで案内される様子を示す要部部分を前方斜視した横断面斜視図である。
【図４７】前面扉を取り外した状態での実施例３のスロットマシンの内部を示す図である。
【図４８】実施例３の取付台の引出姿勢規制部の分解斜視図である。
【図４９】（ａ）は、主制御装置が収納支持状態である実施例３の取付台を示す斜視図、（ｂ）は、回動枠体を傾けた状態の実施例３の取付台を示す斜視図である。
【図５０】（ａ）は、回動枠体を水平姿勢に傾倒した状態の実施例３の取付台を示す斜視図、（ｂ）は、水平姿勢の回動枠体からスライド枠体を引き出した状態の実施例３の取付台を示す斜視図である。
【図５１】引き出したスライド枠体の裏面を表向けるように反転傾斜姿勢とした状態の実施例３の取付台を示す斜視図である。
【図５２】（ａ）は、主制御装置が収納支持状態である実施例３の取付台を示す側面図、（ｂ）は、回動枠体を傾けた状態の実施例３の取付台を示す側面図である。
【図５３】（ａ）は、回動枠体を水平姿勢に傾倒した状態の実施例３の取付台を示す側面図、（ｂ）は、水平姿勢の回動枠体からスライド枠体を引き出した状態の実施例３の取付台を示す側面図である。
【図５４】引き出したスライド枠体の裏面を表向けるように反転傾斜姿勢とした状態の実施例３の取付台を示す側面図である。
【図５５】変形例のスライド枠体を示す斜視図である。
【図５６】変形例の支持枠体を示す斜視図である。
【発明を実施するための形態】
【００１２】
【００１３】
　以下、遊技機の一例としてスロットマシンの各種の実施の形態を、図面に基づいて詳細に説明する。

【００１４】
なお、本発明を弾球遊技機の一種であるパチンコ遊技機（以下、単に「パチンコ機」という）、特に、第１種パチンコ遊技機や第３種パチンコ遊技機（権利物とも呼ばれる）、コイン遊技機等の他の遊技機に用いることは、当然に可能である。
【実施例１】
【００１５】
図１は、実施例１のスロットマシン１０の前面扉を閉じた状態の斜視図である。図２は、実施例１のスロットマシン１０の正面図である。図３は、前面扉１２を取り外した状態での実施例１のスロットマシン１０の内部を示す図である。図４は、前面扉１２の裏面図である。図５は、前面扉１２を空けて主制御装置７０を引き出した状態の実施例１のスロットマシン１０の斜視図である。
【００１６】
本実施例のスロットマシン１０は、図１に示すように、前面側に開口部１１ａ（図５参照）を有する本体１１と、この本体１１の前面側で開閉可能であって閉状態で開口部１１ａを閉塞する前面扉１２とを備えている。前面扉１２は、図１，図２に示すように、その左辺を回転軸Ｊ１として、本体１１に回動可能（開閉可能）に取り付けられている。
【００１７】
また、スロットマシン１０は、図１，図２に示すように、前面扉１２を閉じた状態で施錠装置２０により前面扉１２と本体１１とが施錠される。
【００１８】
前面扉１２には、図１，図２に示すように、遊技の進行に伴い点灯したり点滅したりする上部ランプ１３と、遊技の進行に伴い種々の効果音を鳴らしたり遊技者に遊技状態を報知したりするスピーカ１４，１４と、各種表示内容を表示する液晶ディスプレイ１５と、後述する左回胴Ｌと中回胴Ｍと右回胴Ｒ（図３参照）とをそれぞれ透視可能な遊技パネル３０と、略中段付近にて各種ボタン５１，５３～５６，６１，６３やスタートレバー５２やメダル投入口５７が設けられた操作部５０と、機種名や遊技に関わるキャラクタなどが表示された下段表示部１６と、メダル払出口１７から払い出された遊技用媒体としてのメダルを受けるメダル受け皿１８とが装着されている。
【００１９】
また、スロットマシン１０の内部には、図３に示すように、電源ボックス８５と、ホッパ８６と、リールユニット２５と、主制御装置７０と、表示用制御装置９４（図４参照）とが装着されている。
【００２０】
電源ボックス８５は、図３，図５に示すように、オンされるとスロットマシン１０の各部に電源を供給する電源スイッチ８１を備えている。
【００２１】
ホッパ８６は、図３，図５に示すように、溢れるメダルの外部への誘導口８９を有し投入されたメダルを貯留する補助タンク８７とこの補助タンク８７内のメダルを払出用通路９２（図４参照）に通じる開口９３（図４参照）を介してメダル払出口１７へ払い出す払出装置８８とから構成されている。
【００２２】
リールユニット２５は、図３，図５に示すように、複数の図柄を表示する左回胴Ｌと中回胴Ｍと右回胴Ｒとを有し、これらの左回胴Ｌ、中回胴Ｍ及び右回胴Ｒを回転させることで複数の図柄を変動表示するものである。
【００２３】
主制御装置７０は、スロットマシン１０の遊技に関する制御を行うものである。また、主制御装置７０は、ＣＰＵを中心とするマイクロコンピュータとして構成されており、処理プログラムを記憶するＲＯＭや一時的にデータを記憶するＲＡＭや入出力処理回路がバスによって接続されている。
【００２４】

表示用制御装置９４（図４参照）は、ＣＰＵを中心とするマイクロコンピュータとして構成されており、主制御装置７０からの出力信号による液晶ディスプレイ１５の表示内容の制御を行う。なお、この表示用制御装置９４は、図４に示すように、前面扉１２の裏面側の上部箇所に取り付けられている。

【００２５】

遊技パネル３０は、図１に示すように、リールユニット２５の左回胴Ｌ、中回胴Ｍ及び右回胴Ｒ（図３参照）の停止中または回転中の様子を外部に露出する露出窓３１Ｌ，３１Ｍ，３１Ｒを備え、露出窓３１Ｌの左側に配設された５つのベットランプ３２，３３，３３，３４，３４と、この露出窓３１Ｌ，３１Ｍ，３１Ｒの下側に配設されている、スロットマシン内部に貯留されている枚数を表示するものであるクレジット枚数表示部３５と、ビックボーナス時にあと何回ＪＡＣ（ジャック）インできるかとかＪＡＣゲーム時にあと何回ＪＡＣ図柄成立が残っているかといった回数を表示するものであるゲーム数表示部３６と、有効ライン上に同じ図柄が揃って入賞したときに払い出された枚数を表示するものである払出枚数表示部３７とを備えている。

【００２６】

操作部５０は、図１，図２に示すように、前面扉１２の前面部に設けられたクレジットボタン５１と、スタートレバー５２と、左回胴用ストップボタン５３と、中回胴用ストップボタン５４と、右回胴用ストップボタン５５と、返却ボタン５６と、前面扉１２の水平段部に設けられたメダル投入口５７と、１枚ベットボタン６１と、マックスベットボタン６３とを備えている。

【００２７】

ここで、スロットマシン１０の主制御装置７０及びその主制御装置７０が取り付けられる取付台１００の構造などについて、図６～図１６を用いて、もう少し詳細に説明する。

【００２８】

図６は、主制御装置７０が収納支持状態である実施例１の取付台１００を示す斜視図である。図７は、回動枠体１２０を水平姿勢に傾倒した状態の取付台１００を示す斜視図である。図８は、水平姿勢の回動枠体１２０からスライド枠体１３０を引き出した状態の取付台１００を示す斜視図である。図９は、引き出したスライド枠体１３０の裏面を表向けるように反転傾斜姿勢とした状態の取付台１００を示す斜視図である。図１０は、固定ベース１１０と回動枠体１２０とスライド枠体１３０との連結を示す斜視図である。図１１（ａ），（ｂ）は、固定ベース１１０の前方斜視図，後方斜視図である。図１２は、固定ベース１１０と回動枠体１２０との連結を示す斜視図である。図１３（ａ）は、固定ベース１１０に回動枠体１２０のみが起立姿勢で係止された状態での左端部分を示す部分平面図、図１３（ｂ）は（ａ）に示すＡ－Ａ線断面図、図１３（ｃ）は（ｂ）の部分断面斜視図である。図１４（ａ）は、固定ベース１１０と起立姿勢の回動枠体１２０との縦断面図、図１４（ｂ）は、固定ベース１１０と傾倒姿勢の回動枠体１２０との縦断面図である。図１５（ａ），（ｂ）は、図１４（ａ），（ｂ）の断面箇所の拡大斜視図、図１５（ｃ）は、図６の取付台１００の右端側の縦断面図、図１５（ｄ）は、図７の取付台１００の右端側の縦断面図、図１５（ｅ），（ｆ）は、図１５（ｃ），（ｄ）の断面箇所の拡大斜視図である。図１６は、主制御装置７０のスライド枠体１３０へのかしめを説明するための取付台１００の分解斜視図である。

【００２９】

スロットマシン１０は、図３に示すように、その本体１１の内部奥側で、且つ、リールユニット２５の上方位置に取り付けられた取付台１００に、当該スロットマシン１０の遊技を統括制御する主制御装置７０が取り付けられている。

【００３０】

取付台１００は、図３，図６に示すように、主制御装置７０を本体１１の内部奥側で且つリールユニット２５の上方箇所に起立姿勢で収納支持する収納支持状態と、図５，図８に示すように、主制御装置７０をその前面及び裏面が視認可能に本体１１の開口部１１ａから引き出した状態で支持する引出支持状態とに変位するものである。

【００３１】
具体的には、取付台１００は、図５～図８に示すように、金属製の固定ベース１１０と、透明樹脂成型品である回動枠体１２０及びスライド枠体１３０とを備えている。
【００３２】
固定ベース１１０は、図１０，図１１に示すように、その正面視で横長の長方形状であり、金属製の板状部材で構成されている。また、固定ベース１１０は、図３，図５に示すように、本体１１の内部奥側面箇所で、且つ、リールユニット２５の上方箇所に固定されている。固定ベース１１０は、図１１に示すように、その両側箇所にそれぞれネジ挿入孔１１１が形成されており、このネジ挿入孔１１１にネジ１１７（図３参照）を挿入して本体１１にネジ止めすることで本体１１に固定されている。
【００３３】
なお、ネジ挿入孔１１１に挿入するネジ１１７のネジ山部分に接着剤を付けた状態で、固定ベース１１０を本体１１にネジ止めすることで、ネジを接着固定してしまい、このネジ１１７を取り外せないようにしてもよい。また、締める方向にしか回せないワンウエイネジや、締める方向に一定以上の力がかかるとネジ頭の一部が破断する破断ネジなどで、固定ベース１１０をネジ止め固定するようにしてもよい。
【００３４】
さらに、固定ベース１１０は、図１０に示すように、回動枠体１２０が取り外し不可に連結されており、当該回動枠体１２０を起立姿勢（図６参照）と傾倒姿勢（図７参照）とに回動自在に支持するものである。
【００３５】
具体的には、固定ベース１１０は、図１１（ａ）に示すように、その正面視下辺側に、前方方向に突出させるように折り曲げた水平突出部１１２を備えている。この水平突出部１１２は、その両端側がそれぞれに上方向に折り曲げられた一対の支持片部１１３，１１３を備えるとともに、この一対の支持片部１１３，１１３の前方側箇所に水平方向に貫通した挿入孔１１４が形成されている。
【００３６】
固定ベース１１０は、図１２に示すように、回動枠体１２０の両側下部箇所にそれぞれ形成された入口孔１２０ａと、ワッシャー１２０ｂ（座金）と、固定ベース１１０の一対の支持片部１１３，１１３の先端側の挿入孔１１４と、回動枠体１２０の入口孔１２０ａと同一軸心で間隔を空けて近設された軸孔１２０ｃ（図１３（ｂ），（ｃ）参照）とに、その順に、ベース用圧入ピン１１５を挿入した状態で当該ベース用圧入ピン１１５を回動枠体１２０の軸孔１２０ｃに圧入する（図１３（ｂ），（ｃ）に示すように、ベース用圧入ピン１１５は、固定ベース１１０の支持片部１１３の挿入孔１１４に対して遊嵌状態であり、回動枠体１２０の軸孔１２０ｃよりも僅かに径の大きいベース用圧入ピン１１５が強引に入れられて密着状態となっている）ことで、このベース用圧入ピン１１５が回動枠体１２０の軸孔１２０ｃから抜けなくなり、回動枠体１２０が固定ベース１１０に対して回動可能で取り外し不可に連結されている。
【００３７】
また、固定ベース１１０は、図１０に示すように、回動枠体１２０の左側面部１２２及び右側面部１２３の係止爪１２１と対向する各箇所に、その係止爪１２１が挿入されて係止される係止孔１１６をそれぞれ備えている。
【００３８】
また、固定ベース１１０は、図１２，図１４及び図１５に示すように、その水平突出部１１２の前端側が上方向に折り曲げられた折り曲げ部１１２ａを備えている。この折り曲げ部１１２ａは、その上辺部分が、後述する回動枠体１２０を傾倒姿勢（図７参照）とした場合に当該回動枠体１２０の段差部１２４ａに当接し、回動枠体１２０を水平な傾倒姿勢（図７参照）で支持するための構成である。
【００３９】
次に、回動枠体１２０は、図１０を用いて前述したように、固定ベース１１０の下辺側

を回動軸１２０ｄとして当該固定ベース１１０に対して回動可能に支持されている。

【００４０】

また、回動枠体１２０は、図１０に示すように、左側面部１２２及び右側面部１２３と、この左側面部１２２及び右側面部１２３の両下端側を結ぶ底面部１２４とを備えており、図１０に示す水平状態において平面視でコノ字形状に樹脂成型されたものである。

【００４１】

また、回動枠体１２０は、図１０に示すように、その左側面部１２２及び右側面部１２３の固定ベース１１０と対向する側の箇所に係止爪１２１がそれぞれ形成されている。

【００４２】

図６に示すように、回動枠体１２０を起立姿勢とした状態では、回動枠体１２０の係止爪１２１が固定ベース１１０の各係止孔１１６にそれぞれ係止されるので、回動枠体１２０が起立姿勢状態で固定ベース１１０に保持される。

【００４３】

また、回動枠体１２０は、図１２に示すように、その底面部１２４の上面側で、且つ、回動軸１２０ｄの近接箇所に、回動軸１２０ｄの方が一段下がった段差部１２４ａを備えている。段差部１２４ａは、図１４及び図１５に示すように、回動枠体１２０を傾倒姿勢（図７参照）とした場合に、固定ベース１１０の水平突出部１１２の折り曲げ部１１２ａに当接し、回動枠体１２０を水平な傾倒姿勢（図７参照）で支持するための構成である。

【００４４】

さらに、回動枠体１２０は、図１０に示すように、スライド枠体１３０が取り外し不可に連結されており、スライド枠体１３０を収めた収容位置（図７参照）とこの収容位置から進出した進出位置（図８参照）とに当該スライド枠体１３０を進退自在に支持する。

【００４５】

具体的には、回動枠体１２０は、図１０に示すように、固定ベース１１０に対して傾倒姿勢としての水平姿勢となった状態（図７参照）で、スライド枠体１３０を収容位置（図７参照）と進出位置（図８参照）とにスライド進退自在に支持するスライド支持部１２５と、スライド枠体１３０をスライド進出させて進出位置にある状態（図８参照）では、当該スライド枠体１３０を本体１１の開口部１１ａから引き出した水平状態で保持する水平保持部１２６とを備えている。

【００４６】

さらに詳細に言えば、回動枠体１２０は、図１０に示すように、その左側面部１２２及び右側面部１２３にそれぞれ形成された、スライド枠体１３０のスライド方向に長いスリット孔１２７（細長孔）を備えている。また、スライド枠体１３０は、図１０に示すように、平面視でコノ字状の当該スライド枠体１３０での両腕部１３１，１３１の先端側箇所それぞれにスライド方向に間隔を空けて２個形成された、回動枠体１２０と対向する側に開口したかしめ穴１３２を備えている。

【００４７】

そして、この回動枠体１２０は、図１０に示すように、スリット孔１２７とかしめ穴１３２とに、その順に、レール用圧入ピン１２８を挿入した状態で当該レール用圧入ピン１２８を圧入する（図１０に示すように、レール用圧入ピン１２８は、回動枠体１２０のスリット孔１２７の短幅よりも径の大きい頭部１２８ａと、スライド枠体１３０のかしめ穴１３２の径よりも僅かに大きい径のピン部１２８ｂとを備えたものであり、回動枠体１２０のスリット孔１２７に対して遊嵌状態であり、スライド枠体１３０のかしめ穴１３２よりも僅かに径の大きいレール用圧入ピン１２８のピン部１２８ｂが強引に入れられて密着状態となっている）ことでレール用圧入ピン１２８が抜けなくなり、スライド枠体１３０がスライド自在で取り外し不可に連結されている。

【００４８】

つまり、スライド支持部１２５は、スリット孔１２７とかしめ穴１３２とレール用圧入ピン１２８とで構成されている。また、水平保持部１２６は、図８に示すように、スライド枠体１３０を最大に引き出した状態で手前側及び奥側のレール用圧入ピン１２８が水平

方向のスリット孔１２７に位置することで構成されている。

【００４９】

また、回動枠体１２０は、図８に示すように、水平姿勢とした状態で左側面部１２２及び右側面部１２３の内側下部箇所に、後述するスライド枠体１３０の線状突起部１３３をスライド自在に受けるスライド用溝部１２９が上向き開口した状態でその辺方向に沿って形成されている。このスライド用溝部１２９は、図１２，図１３に示すように、回動枠体１２０の左側面部１２２及び右側面部１２３の辺方向に沿って形成されている。つまり、スライド枠体１３０の線状突起部１３３が回動枠体１２０のスライド用溝部１２９に摺動することで、スライド枠体１３０が回動枠体１２０に対してスライドする構成でもある。

【００５０】

なお、図７に示すように、スライド枠体１３０が回動枠体１２０の収容位置にある状態では、スライド枠体１３０の両側の線状突起部１３３が回動枠体１２０の両側のスライド用溝部１２９にスライド可能に支持されており、スリット孔１２７に挿入されたレール用圧入ピン１２８に対する負荷（主制御装置７０及びスライド枠体１３０によるレール用圧入ピン１２８に対する荷重）は低減されている。

【００５１】

スライド枠体１３０は、図１６に示すように、二重かしめピン１９３及びタッピンネジ１９７を用いて、主制御装置７０が装着（図８参照）されており、タッピンネジ１９７を取り外すとともに二重かしめピン１９３によるかしめを解除しない限り、主制御装置７０が取り外し不可に装着されている。

【００５２】

具体的には、主制御装置７０は、図１０に示す引出状態のスライド枠体１３０の上部からその両腕部１３１，１３１の間に位置させるように挿入され、図１６に示すように二重かしめピン１９３及びタッピンネジ１９７を用いて当該スライド枠体１３０に装着される。

【００５３】

次に、スライド枠体１３０は、図１０に示す水平状態において平面視でコノ字形状に樹脂成型されたものであり、幅方向に長い横長枠部１３４と、この横長枠部１３４の両端部から同一方向に延出した、回動枠体１２０に回動可能に連結される両腕部１３１，１３１とを備えている。この横長枠部１３４は、図１０に示す水平状態において、その下辺部が両腕部１３１，１３１と同一方向に延出し、且つ、その幅長さにわたる延出部１３５を備えている。この延出部１３５は、主制御装置７０の上端部分の少なくとも一部を支持するためのものである。さらに、この延出部１３５は、図１６に示すように、後述する二重かしめピン１９３が挿入されるピン挿入孔１３６が４個形成されている。また、両腕部１３１，１３１は、図１０に示す水平状態において、その内側下部箇所に、主制御装置７０の両端部分を支持するための支持用延出片１３７を備えている。

【００５４】

また、スライド枠体１３０は、図９に示すように、その左側面部１２２及び右側面部１２３での水平姿勢状態としたときの下部側でその側辺方向に沿った線状突起部１３３が形成されている。

【００５５】

また、図５に示すように、回動枠体１２０を水平状態にしてスライド枠体１３０を引き出した状態では、開いた状態の前面扉１２を閉方向に回動させることで、スライド枠体１３０の正面視で左側部分の一部が前面扉１２の内側右辺箇所（開閉軸Ｊ１に近い辺の一部箇所）に当接可能であり、かかる当接により前面扉１２が閉まるのを抑え止めているので、主制御装置７０の裏面の点検及び主制御装置７０の脱着作業等が容易となるし、前面扉１２の閉まりによる部品の破損を防止できる。

【００５６】

ここで、主制御装置７０について図１７を用いて説明する。図１７は、主制御装置７０の分解斜視図である。

【００５７】
主制御装置７０は、図１７に示すように、スロットマシン１０の遊技を統括制御する主制御基板７３と、この主制御基板７３を内部に収容する基板ケース７４とを備えている。
【００５８】
基板ケース７４は、主制御基板７３が取り付けられるケース上７１と、このケース上７１での主制御基板７３の取付面側に合わされるケース下７２とを備え、ケース上７１とケース下７２とを合わせた状態での内部空間に主制御基板７３を収容するものである。本実施例では、ケース上７１及びケース下７２は、例えば透明樹脂成型品としている。
【００５９】
この実施例では、主制御基板７３は、図１７に示すように、ＩＣ（集積回路）や各種スイッチ部品やコネクタなどの電子部品が実装される実装面を、ケース上７１の内側面に対向させた状態で、ネジなどの締結部品でケース上７１の内側面の所定箇所に取り付けられる。そして、主制御基板７３が取り付けられたケース上７１にケース下７２を合わせることから、主制御基板７３の半田面は、ケース下７２の内側面に対向した状態となる。
【００６０】
主制御装置７０は、図１７に示すように、スロットマシン１０をリセットするときに操作するリセットスイッチ８２や、図示しない設定キーを挿入することにより、スロットマシン１０の設定状態を変更可能にする設定キースイッチ８３を備えている。具体的には、主制御基板７３は、図６に示すように、右端上部箇所に上から順にリセットスイッチ８２（図１７参照）と設定キースイッチ８３（図１７参照）とを備えており、ケース上７１の右端上部箇所にそれぞれ設けられた開閉蓋７１ａを開いて、リセットスイッチ８２と設定キースイッチ８３とが操作できる。
【００６１】
基板ケース７４は、図１７に示すように、主制御基板７３が取り付けられたケース上７１でのその主制御基板７３の取付面側にケース下７２を合わせた状態でケース上７１またはケース下７２の少なくとも一方を当該合わせ面所定方向（本実施例では、例えば基板ケース７４の短手方向）にスライド移動させることでケース上７１とケース下７２とを係止するケース係止部１７０を備えている。
【００６２】
ケース係止部１７０は、図１７に示すように、ケース下７２の両辺箇所（短手辺の両箇所）に当該辺方向に並設された複数個（本実施例では３個）の鉤状突起部１７２と、ケース上７１の両辺箇所（短手辺の両箇所）に当該辺方向に並設された、鉤状突起部１７２が挿入されて係止可能な複数個（本実施例では３個）の被係止穴１７３と、を備えるとともに、図１７に示すケース上７１の各被係止穴１７３にケース下７２の各鉤状突起部１７２を挿入させるように当該ケース上７１とケース下７２とを合わせた状態にして、ケース上７１またはケース下７２の少なくとも一方をその短手方向にスライド移動させることで被係止穴１７３に鉤状突起部１７２が係止するものである。
【００６３】
続いて、封止部材１５０及び別封止部材１９０について、図１８～図２１も用いて説明する。
【００６４】
図１８は、主制御装置７０のスライド枠体１３０へのかしめを解除する手順を示す図である。図１９（ａ）は、かしめ状態の二重かしめピン１９３及び別被封止部１９２の斜視図、図１９（ｂ）は、（ａ）状態での別被封止部１９２の斜視図、図１９（ｃ）は、（ａ）状態での二重かしめピン１９３の斜視図、図１９（ｄ）は、切断された別被封止部１９２を９０度回転させた状態の二重かしめピン１９３及び別被封止部１９２の斜視図、図１９（ｅ）は、（ｂ）状態での別被封止部１９２の斜視図、図１９（ｆ）は、（ｂ）状態での二重かしめピン１９３の斜視図である。図２０（ａ）は、スライド枠体１３０及び主制御装置７０のかしめ箇所の部分横断面図、図２０（ｂ）は、（ａ）の横断面斜視図、図２０（ｃ）は、スライド枠体１３０及び主制御装置７０のかしめ箇所の部分縦断面右側視図

、図２０（ｄ）は、（ｃ）の縦断面右側斜視図である。図２１（ａ）は、スライド枠体１３０及び主制御装置７０のかしめ箇所であって切断された別被封止部１９２を９０度回転させた状態での部分横断面図、図２１（ｂ）は、（ａ）の横断面斜視図、図２１（ｃ）は、スライド枠体１３０及び主制御装置７０のかしめ箇所であって切断された別被封止部１９２を９０度回転させた状態での部分縦断面右側視図、図２１（ｄ）は、（ｃ）の縦断面右側斜視図である。

【００６５】

さらに、基板ケース７４は、図１６，図２０（ａ），（ｂ）及び図２１（ａ），（ｂ）に示すように、その上部２箇所に、主制御基板７３が取り付けられたケース上７１での主制御基板７３の取付面側にケース下７２を合わせた状態でケース上７１およびケース下７２を封止して当該基板ケース７４を開封不可とする封止部材１５０を備えている。

【００６６】

また、封止部材１５０は、図２０（ａ），（ｂ）及び図２１（ａ），（ｂ）に示すように、ケース上７１とケース下７２とを合わせた状態での所定箇所に連通形成された有底係止穴１５２を有する被封止部１５１と、この被封止部１５１の有底係止穴１５２に挿入されて係止される挿入係止部１６１と当該挿入係止部１６１の挿入後端側に位置する頭部１６２とを有するかしめピン１６０と、を備えている。つまり、かしめピン１６０を被封止部１５１に挿入すると、かしめピン１６０の挿入係止部１６１が被封止部１５１の有底係止穴１５２に係止し、かしめピン１６０を被封止部１５１から抜き出すことができず、図１８に示すように被封止部１５１のケース封止解除用被切断部１６６を破壊しない限り、基板ケース７４を開封できない構造としている。

【００６７】

また、取付台１００及び主制御装置７０は、図６，図９及び図１６に示すように、当該主制御装置７０をスライド枠体１３０に対して取り外し不可に封印する、封止部材１５０とは別の種類の別封止部材１９０を備えている。

【００６８】

別封止部材１９０は、図１６に示すように、スライド枠体１３０の裏面視の所定箇所に形成されたピン挿入孔１３６と、基板ケース７４を支持枠体１２０に取り付けた状態での所定箇所に連通形成された有底係止穴１９１を有する別被封止部１９２と、別被封止部１９２の有底係止穴１９１に挿入されて係止される外筒側係止部１９４ｂを有する二重かしめピン１９３とを備えている。

【００６９】

本実施例では、基板ケース７４は、図１６に示すように、その上部の４箇所に別被封止部１９２が設けられている。また、スライド枠体１３０は、図１６に示すように、前記４個の別被封止部１９２と対応する各箇所にピン挿入孔１３６が設けられている。そして、二重かしめピン１９３は、スライド枠体１３０のピン挿入孔１３６を介して、基板ケース７４の４個のうちの一つの例えば「Ｂ」と表記された箇所の別被封止部１９２に挿入されて、この別被封止部１９２に係止されることで、基板ケース７４がスライド枠体１３０に固定される。なお、残りの３個の「Ｃ」～「Ｅ」と表記された箇所の別被封止部１９２は次回以降のかしめに使用可能である。

【００７０】

二重かしめピン１９３は、有底係止穴１９１に挿入されると、その外筒側係止部１９４ｂが当該有底係止穴１９１の被係止部１９１ａに係止された状態となり、この二重かしめピン１９３を抜くことができない。また、二重かしめピン１９３は、スライド枠体１３０のピン挿入孔１３６に挿入された状態では、さらに挿入方向に挿入しようとしても、図２０（ｃ），（ｄ）に示すように、当該二重かしめピン１９３の後述するキー凸部１９４ｆの先端がスライド枠体１３０のピン挿入孔１３６の突起部分１３６ｂ（キー凹部１３６ａの終端突起部）に当たるため、抜出方向にしか戻せない。したがって、二重かしめピン１９３が有底係止穴１９１に挿入されて被係止部１９１ａに係止されると、主制御装置７０がスライド枠体１３０に固定された状態となり、図１８（ａ）に示す取付解除用被切断部

１９６を切断して別被封止部１９２をケース下７２から分離しない限り、主制御装置７０をスライド枠体１３０から抜き出すことができない。

【００７１】

具体的には、二重かしめピン１９３は、図１６，図１８（ｅ）に示すように、筒状の外ピン１９４と、この外ピン１９４の筒内に挿入される内ピン１９５とを備えている。

【００７２】

内ピン１９５は、図１６，図１８（ｅ）に示すように、外ピン１９４の筒内に挿入される胴部１９５ａと、その挿入方向後端側に形成された頭部１９５ｂと、を備えている。内ピン１９５の胴部１９５ａの先端側には、外ピン１９４の挿入方向先端側の切り欠き部１９４ｅに係止する係止爪１９５ｃが設けられ、内ピン１９５の頭部１９５ｂには、その周方向にキー突起部１９５ｄが設けられている。

【００７３】

外ピン１９４は、図１８（ｅ）に示すように、有底係止穴１９１（図１９（ｂ），図２０参照）に挿入される筒状本体部１９４ａと、この筒状本体部１９４ａの外側に形成された外筒側係止部１９４ｂと、筒状本体部１９４ａの別被封止部１９２への挿入方向後端側に内ピン１９５の頭部１９５ｂが嵌り込む嵌合部１９４ｃとを備えている。外ピン１９４の嵌合部１９４ｃには、内ピン１９５の頭部１９５ｂのキー突起部１９５ｄが嵌合するキー溝部１９４ｄが形成されており、内ピン１９５の頭部１９５ｂのキー突起部１９５ｄがキー溝部１９４ｄに嵌合した状態では、内ピン１９５の係止爪１９５ｃが外ピン１９４の切り欠き部１９４ｅに係止しており、内ピン１９５が回転しないようになっている。

【００７４】

図１８（ｄ）に示すように、内ピン１９５の頭部１９５ｂのキー突起部１９５ｄが外ピン１９４の嵌合部１９４ｃのキー溝部１９４ｄに嵌合するように筒内に挿入した状態の二重かしめピン１９３は、内ピン１９５の胴部１９５ａの先端側の係止爪１９５ｃが外ピン１９４の切り欠き部１９４ｅに係止され、内ピン１９５が外ピン１９４が抜くことができないようになるとともに、内ピン１９５が外ピン１９４の筒内に挿入されたことで外ピン１９４が筒内方向に撓まないようになるため、内ピン１９５が挿入された状態では外ピン１９４を別封止部材１９０から抜くことができないようになっている。

【００７５】

また、外ピン１９４の嵌合部１９４ｃの外周箇所には、キー凸部１９４ｆが形成されており、スライド枠体１３０のピン挿入孔１３６には、外ピン１９４のキー凸部１９４ｆが嵌合するキー凹部１３６ａが形成されており、外ピン１９４のキー凸部１９４ｆがピン挿入孔１３６のキー凹部１３６ａに嵌合した状態では、外ピン１９４が回転しないようになっている。

【００７６】

なお、かしめピン１６０及び二重かしめピン１９３としては、樹脂成型品や金属製の材質のものなどが挙げられ、本実施例では樹脂成型品を採用している。

【００７７】

さらに、別封止部材１９０は、図１６に示すように、主制御装置７０がスライド枠体１３０に固定された状態とするものであり、さらに、図１７，図１８に示すように、主制御装置７０の支持枠体１２０への固定状態を解除するべく破壊される、ケース下７２の所定箇所（別被封止部１９２の上側２箇所及び下側２箇所の合計４箇所）に形成された取付解除用被切断部１９６（図１８参照）を備えている。

【００７８】

取付解除用被切断部１９６は、図１８に示すように、ケース下７２とその別被封止部１９２とを上下で結ぶ合計４箇所の連結部としている。

【００７９】

図１８（ａ）に示すように、ケース下７２の４箇所の取付解除用被切断部１９６を切断すると、二重かしめピン１９３が別被封止部１９２の有底係止穴１９１に挿入されたままで、図１８（ｂ）に示すように、この切断された別被封止部１９２を回転させる（９０度

回転させる）ことができる。この９０度回転後の状態では、図１９（ｄ）～（ｆ）に示すように外ピン１９４の外筒側係止部１９４ｂを別被封止部１９２の有底係止穴１９１の被係止部１９１ａに係止されない状態となり、図１８（ｃ）に示すように、切断された別被封止部１９２を取り外すことができる。続いて、図１８（ｄ）に示すように、二重かしめピン１９３を抜出方向に抜くことができる。なお、内ピン１９５の胴部１９５ａの先端側の係止爪１９５ｃを内向きに押しながら内ピン１９５を抜き出し方向に移動させることで、この内ピン１９５の係止爪１９５ｃと外ピン１９４の切り欠き部１９４ｅとの係止を解除することができ、図１８（ｅ）に示すように、二重かしめピン１９３の外ピン１９４と内ピン１９５とを分離することもできる。

【００８０】

また、スライド枠体１３０は、図９，図１６に示すように、その右側の腕部１３１の所定箇所に貫通孔１３８が形成されており、この貫通孔１３８に例えばタッピンネジ１９７を挿入した状態で基板ケース７４の挿入穴７１ｂ（図１６参照）に螺入されることで、このスライド枠体１３０と主制御装置７０とがさらに固定されている。なお、タッピンネジ１９７とは、雌ネジ不要ネジのことである。

【００８１】

また、取付台１００は、図３，図６に示すように、本体１１の開口視で取付解除用被切断部１９６が見えないように主制御装置７０を本体１１の内部奥側箇所に起立姿勢で収納支持する隠蔽収納支持状態（前述した収納支持状態）と、図５，図８に示すように、取付解除用被切断部１９６を露出させるように主制御装置７０を傾倒姿勢（水平姿勢）にして本体１１の開口部１１ａから引き出した状態で支持する露出引出支持状態（前述した引出支持状態）とに変位するものであるとも言える。また、図３，図６に示す隠蔽収納支持状態では、ケース封止解除用被切断部１６６が見えないし、図５，図８に示す露出引出支持状態では、ケース封止解除用被切断部１６６が露出している。

【００８２】

取付解除用被切断部１９６及びケース解除用被切断部１６６は、図１８に示すように、主制御装置７０の裏面側上部箇所に設けられている。

【００８３】

また、スライド枠体１３０は、主制御装置７０の露出引出支持状態（図８参照）において取付解除用被切断部１９６及びケース解除用被切断部１６６の下方箇所に、図１０及び図１８に示すように、その破壊によって分離された破壊部品の落下を防止する延出部１３５を備えている。

【００８４】

また、取付台１００は、図３，図６に示すように、本体１１の内部奥側で且つリールユニット２５の上方箇所に起立姿勢で収納された収納状態（前述した収納支持状態）と、図５，図８に示すように、スライド枠体１３０の先端側部分がリールユニット２５よりも前側に位置するように本体１１の開口部１１ａから引き出された引出状態（前述した引出支持状態）とに変位して、引出状態においてリールユニット２５を保護するものであるとも言える。

【００８５】

具体的には、主制御装置７０がスライド枠体１３０に取り付けられ、取付台１００は、図３，図６に示すように、主制御装置７０を本体１１の内部奥側で且つリールユニット２５の上方箇所に起立姿勢で収納するようにスライド枠体１３０を支持する収納支持状態と、図５，図８に示すように、スライド枠体１３０の先端側部分がリールユニット２５よりも前側に位置するようにスライド枠体１３０を本体１１の開口部１１ａから引き出して支持する引出支持状態とに変位して、引出状態においてリールユニット２５を保護するものである。

【００８６】

また、スライド枠体１３０は、図１０に示すように、引出支持状態において主制御装置７０が載置される前述した延出部１３５及び支持用延出片１３７を備えている。延出部１

３５及び支持用延出片１３７は、図１０に示すように、引出支持状態のスライド枠体１３０の下部側に形成されており、水平姿勢の主制御装置７０の下面側での両端部分と手前端部分とを支持する透明支持部である。

【００８７】

また、取付台１００による引出支持状態のスライド枠体１３０（図５参照）は、主制御装置７０が延出部１３５及び支持用延出片１３７から持ち上げて取り外され、主制御装置７０が延出部１３５及び支持用延出片１３７に載置して取り付けられる。

【００８８】

さらに、取付台１００は、図９に示すように、主制御装置７０を本体１１の開口部１１ａから引き出した引出支持状態（図８参照）でその裏面を表向けるように姿勢変更する姿勢変更機構部１４０を備えている。

【００８９】

この姿勢変更機構部１４０は、図９に示すように、主制御装置７０を本体１１の開口部１１ａから引き出した引出支持状態（図８参照）でその裏面を表向けるように姿勢変更した表向き傾斜姿勢で保持する表向き傾斜姿勢保持部１４１を備えている。

【００９０】

具体的には、回動枠体１２０は、図９に示すように、水平保持部１２６で水平状態で保持されたスライド枠体１３０（図８参照）をその裏面を表向けるように姿勢変更した表向き傾斜姿勢（反転傾斜姿勢）で保持する表向き傾斜姿勢保持部１４１を備えている。

【００９１】

さらに詳細に言えば、回動枠体１２０のスリット孔１２７は、図１０に示すように、回動枠体１２０の右側面部１２２及び左側面部１２３において、軸孔１２０ｃの近傍箇所からスライド枠体１３０のスライド方向に長い水平スリット部１２７ａと、この水平スリット部１２７ａの先端側に連通して垂直方向に延びた垂直スリット部１２７ｂと、この垂直スリット部１２７ｂと水平スリット部１２７ａとの交点を軸として垂直スリット部１２７ｂの長さを半径として当該垂直スリット部１２７ｂの上端側に連通して当該上端側を軸孔１２０ｃの方に回動させた傾斜スリット部１２７ｃとを備えている。

【００９２】

図９に示すように、手前側のレール用圧入ピン１２８が傾斜スリット部１２７ｃに位置し、奥側のレール用圧入ピン１２８が垂直スリット部１２７ｂと水平スリット部１２７ａとの交点に位置することで、スライド枠体１３０が表向き傾斜姿勢で保持されることから、表向き傾斜姿勢保持部１４１は、これらのレール用圧入ピン１２８と垂直スリット部１２７ｂ及び傾斜スリット部１２７ｃとで構成されている。

【００９３】

なお、上述した本体１１が本発明における筐体に相当し、上述した開口部１１ａが本発明における開口に相当し、上述した前面扉１３が本発明における扉に相当し、上述したリールユニット２５が本発明における図柄変動表示手段に相当し、上述した主制御装置７０が本発明における制御手段に相当し、上述した取付台１００が本発明における変位支持手段、隠蔽露出変更支持手段、変位保護手段に相当し、上述したスライド枠体１３０が本発明における第１支持部、被取付体に相当し、上述した回動枠体１２０が本発明における第２支持部に相当し、上述した固定ベース１１０が本発明における第３支持部に相当し、上述した別封止部材１９０が本発明における封印手段、封止手段に相当し、上述した二重かしめピン１９３が本発明における係止部材に相当し、上述したピン挿入孔１３６が本発明における挿入部に相当し、上述した姿勢変更機構部１４０が本発明における姿勢変更手段に相当し、上述した表向き傾斜姿勢保持部１４１が本発明における表向き傾斜姿勢保持手段に相当し、上述した主制御基板７３が本発明における制御基板に相当し、上述した基板ケース７４が本発明における基板収容ケースに相当し、上述したケース上７１が本発明における第１ケース体に相当し、上述したケース下７２が本発明における第２ケース体に相当し、上述した封止部材１５０が本発明における封止手段に相当し、上述したケース係止部１７０が本発明における係止手段に相当し、上述した被係止穴１７３が本発明における

被鉤状突起係止部に相当し、上述した延出部１３５が本発明における破壊部品落下防止手段に相当し、上述した延出部１３５及び支持用延出片１３７が本発明における載置部に相当する。

【００９４】

ここで、実施例１の取付台１００への主制御装置７０の取り付け方法について説明する。

【００９５】

図１０に示すようにスライド枠体１３０を引き出した状態とし、図５，図８に示すように、主制御装置７０のケース上７１側を下面にして当該主制御装置７０をスライド枠体１３０の上部からその両腕部１３１，１３１の間に挿入するように載置する。図１０に示すように、スライド枠体１３０は、その横長枠部１３４の延出部１３５と、その両腕部１３１，１３１の支持用延出片１３７とが、主制御装置７０の上端部分の少なくとも一部と、主制御装置７０の両端部分とを支持する。

【００９６】

そして、図８に示すように進出位置にあるスライド枠体１３０を、図９に示すようにその裏面を表向けるように姿勢変更する。

【００９７】

図９に示すように表向き傾斜姿勢のスライド枠体１３０に対して、そのピン挿入孔１３６に二重かしめピン１９３を挿入して基板ケース７４の別被封止部１９２に係止させるとともに、図１６に示すように、スライド枠体１３０の右側の腕部１３１の貫通孔１３８を介して基板ケース７４の挿入穴７１ｂにタッピンネジ１９７を螺入することで、主制御装置７０をスライド枠体１３０にかしめ固定する。また、表向き傾斜姿勢の主制御装置７０に対して、ケーブル（図示省略）の接続を行うので、接続作業がやり易い。

【００９８】

そして、図９に示すようにスライド枠体１３０の裏面を表向けた姿勢状態から、図８に示すようにスライド枠体１３０の裏面を下向きに戻す。

【００９９】

そして、図８に示すように進出位置にあるスライド枠体１３０を、図７に示すように収容位置にスライドさせる。

【０１００】

そして、図７に示す水平姿勢の回動枠体１２０を、図６に示すように、起立姿勢にすると、回動枠体１２０の左側面部１２２及び右側面部１２３の係止爪１２１が固定ベース１１０の係止孔１１６に係止する。

【０１０１】

こうすることで、取付台１００への主制御装置７０の取り付けが完了する。

【０１０２】

次に、実施例１の取付台１００に取り付けた主制御装置７０の点検方法について説明する。

【０１０３】

図６に示す収納支持状態の取付台１００に対して、回動枠体１２０の左側面部１２２及び右側面部１２３の係止爪１２１を内向き方向（主制御装置７０の方に向ける）に押下して、係止爪１２１の固定ベース１１０の係止孔１１６への係止が解除された状態で、図７に示すように回動枠体１２０を水平姿勢にする。

【０１０４】

そして、図７に示すように収容位置のスライド枠体１３０を、図８に示すように進出位置にスライドさせる。図５に示すように、スライド枠体１３０を引き出した状態において、主制御装置７０の裏面側を目視点検することができる。なおこの状態で、主制御装置７０を下から見て、主制御装置７０の前面側を目視確認してもよい。また、スライド枠体１３０は透明であるため、主制御装置７０の天面や右側面や左側面も目視確認することができる。

【０１０５】
続いて、図８に示すように進出位置にあるスライド枠体１３０を、図９に示すようにその裏面を表向けるように姿勢変更する。図９に示すように、表向き傾斜姿勢とした主制御装置７０の前面側を目視確認することができる。
【０１０６】
こうすることで、取付台１００への主制御装置７０の点検が完了する。
【０１０７】
なお、主制御装置７０を元に戻す場合には、当該点検方法の逆の手順を行えばよい。つまり、表向き傾斜姿勢としたスライド枠体１３０を水平姿勢に戻して（図８参照）、スライド枠体１３０を進出位置から収容位置にスライドさせて（図７参照）、回動枠体１２０を水平姿勢から起立姿勢にする（図６参照）ことで、図６に示す収納支持状態に戻すことができる。
【０１０８】
次に、実施例１の取付台１００に取り付けた主制御装置７０の取り外し方法について説明する。
【０１０９】
前述の点検方法で説明したように、図６に示す収納支持状態の取付台１００から、図９に示すように、スライド枠体１３０を表向き傾斜姿勢にする。
【０１１０】
図９に示す表向き傾斜姿勢のスライド枠体１３０からタッピンネジ１９７を取り外す。
【０１１１】
次に、図９に示す表向き傾斜姿勢のスライド枠体１３０を、図５，図８に示すように水平姿勢に戻す。図１８（ａ）に示すように、二重かしめピン１９３が挿入された別被封止部１９２の取付解除用被切断部１９６を切断（破壊）して、図１８（ｂ）に示すように、この切断された別被封止部１９２を回転（９０度回転）させ、図１８（ｃ）に示すように、切断された別被封止部１９２を取り外し、図１８（ｄ）に示すように、二重かしめピン１９３をピン挿入孔１３６から抜出方向に抜き出す。
【０１１２】
なお、取付解除用被切断部１９６の破壊痕跡を見ることによって、「Ｂ」と表記された箇所の別被封止部１９２が破壊されたことがわかり、ホール関係者などはスロットマシンごとにかしめ履歴データを所有しており、対象スロットマシンのかしめ履歴データと実機のかしめ状態とを比較することでその破壊を自ら行ったものか、不正に行われたものかがわかる。
【０１１３】
上述したように、主制御装置７０のスライド枠体１３０へのかしめ固定が解除されたので、スライド枠体１３０を図８に示す水平姿勢にして、主制御装置７０をスライド枠体１３０から上方向に取り外す。なお、取り外された二重かしめピン１９３は、再使用することができる。
【０１１４】
こうすることで、取付台１００からの主制御装置７０の取り外しが完了する。
【０１１５】
上述したように、本実施例１のスロットマシン１０によれば、前面側に開口部１１ａを有する本体１１と、この本体１１の前面側で開閉可能であって閉状態で開口部１１ａを閉塞する前面扉１２と、複数の図柄を変動表示する、本体１１の内部に設けられたリールユニット２５と、遊技に関する制御を行う主制御装置７０と、この主制御装置７０を本体１１の内部奥側で且つリールユニット２５の上方箇所に起立姿勢で収納支持する収納支持状態と、主制御装置７０をその前面及び裏面が視認可能に本体１１の開口部１１ａから引き出した状態で支持する引出支持状態とに変位する取付台１００と、を備えている。
【０１１６】
したがって、取付台１００による主制御装置７０の収納支持状態（図６参照）では、主

制御装置７０が本体１１の内部奥側で且つリールユニット２５の上方箇所に起立姿勢で収納支持されているので、不正行為がし辛く、不正行為を低減できる。また、この収納支持状態では、主制御装置７０が本体１１の内部奥側で起立姿勢で収納支持されているので、リールユニット２５の上方スペースを確保でき、リールユニット２５の交換作業の邪魔にならない。

【０１１７】

また、取付台１００による主制御装置７０の引出支持状態（図５参照）では、主制御装置７０をその前面及び裏面が視認可能に、本体１１の開口部１１ａから引き出した状態で支持するので、本体１１の内部の暗がりの中で主制御装置７０を確認するのではなく、本体１１から引き出した状態でしかも主制御装置７０の前面及び裏面が視認可能であるので、主制御装置７０の点検及び封印等の作業を容易に行うことができるし、主制御装置７０の前面または裏面に不正な基板が付けられたとしてもそれを容易で確実に発見することができる。また、不正行為者が前面扉１２を開状態にして、主制御装置７０を本体１１の開口部１１ａから引き出した状態で不正行為を施そうとしても、それらの行為が目立つため、不正行為がし辛く、不正行為を低減することができる。その結果、リールユニット２５の交換作業の邪魔にならず、主制御装置７０の点検及び封印等の作業が容易であり、且つ、主制御装置７０に対する不正行為を低減できる遊技機を提供することができる。

【０１１８】

また、取付台１００は、主制御装置７０を支持するスライド枠体１３０と、このスライド枠体１３０が取り外し不可に連結されてスライド枠体１３０を収めた収容位置（図７参照）とこの収容位置から進出した進出位置（図８参照）とに当該スライド枠体１３０を進退自在に支持する回動枠体１２０と、この回動枠体１２０が取り外し不可に連結されて当該回動枠体１２０を起立姿勢（図６参照）と傾倒姿勢（図７参照）とに回動自在に支持するとともに本体１１の内部奥側で且つリールユニット２５の上方箇所に固定される固定ベース１１０とを備え、主制御装置７０をスライド枠体１３０に取り外し不可に封印する別封止部材１９０を備えているので、別封止部材１９０によって主制御装置７０がスライド枠体１３０に取り外し不可に封印されており、主制御装置７０をスライド枠体１３０から取り外すことを低減できる。また、スライド枠体１３０、回動枠体１２０及び固定ベース１１０が取り外し不可に連結されているので、スライド枠体１３０、回動枠体１２０及び固定ベース１１０を取り外したりすることを低減できる。その結果、主制御装置７０だけを取り外したり、主制御装置７０を第１，回動枠体１２０ごとを取り外したりして主制御装置７０に不正を施して戻したり、主制御装置７０を取り外して別の不正な主制御装置７０に交換したりすることを低減でき、主制御装置７０への不正対策に優れる。また、主制御装置７０の引出支持状態を好適に実現することができる。

【０１１９】

また、回動枠体１２０は、固定ベース１１０に対して傾倒姿勢としての水平姿勢となった状態で、スライド枠体１３０を収容位置（図７参照）と進出位置（図８参照）とにスライド進退自在に支持するスライド支持部１２５と、このスライド枠体１３０をスライド進出させて進出位置にある状態では、当該スライド枠体１３０を本体１１の開口部１１ａから引き出した水平状態で保持する水平保持部１２６とを備え、主制御装置７０は、スライド枠体１３０の水平状態において別封止部材１９０による封印を解除するために破壊される取付解除用被切断部１９６を備え、スライド枠体１３０は、取付解除用被切断部１９６の破壊によって封印が解除された主制御装置７０を支持するので、主制御装置７０を支持するスライド枠体１３０を回動枠体１２０の収容位置にした状態で、この回動枠体１２０を起立姿勢とした収納支持状態から、この回動枠体１２０を固定ベース１１０に対して傾倒姿勢としての水平姿勢とした後に、スライド枠体１３０を本体１１の開口部１１ａから引き出して水平状態で保持することができ、スライド枠体１３０の水平状態において取付解除用被切断部１９６の破壊作業つまり封印解除作業がし易い。特に、取付解除用被切断部１９６は、手前側に配設されているので作業性がよい。また、力を入れて封印解除するような場合でも、スライド枠体１３０の水平状態が水平保持部１２６によって保持される

ので、下方のリールユニット２５を保護することができる。

【０１２０】

また、前面側に開口部１１ａを有する本体１１と、この本体１１の前面側で開閉可能であって閉状態で開口部１１ａを閉塞する前面扉１２と、複数の図柄を変動表示する、本体１１の内部に設けられたリールユニット２５と、遊技に関する制御を行う主制御装置７０と、主制御装置７０を本体１１の内部奥側で且つリールユニット２５の上方箇所に起立姿勢で収納支持する収納支持状態（図６参照）と、主制御装置７０をその前面及び裏面が視認可能に本体１１の開口部１１ａから引き出した状態で支持する引出支持状態（図５参照）とに変位する取付台１００と、主制御装置７０を本体１１の開口部１１ａから引き出した引出支持状態でその裏面を表向けるように姿勢変更する姿勢変更機構部１４０と、を備えている。

【０１２１】

したがって、取付台１００による主制御装置７０の収納支持状態では、主制御装置７０が本体１１の内部奥側で且つリールユニット２５の上方箇所に起立姿勢で収納支持されているので、不正行為がし辛く、不正行為を低減できる。また、この収納支持状態（図６参照）では、主制御装置７０が本体１１の内部奥側で起立姿勢で収納支持されているので、リールユニット２５の上方スペースを確保でき、リールユニット２５の交換作業の邪魔にならない。

【０１２２】

また、取付台１００による主制御装置７０の引出支持状態（図５参照）では、主制御装置７０をその前面及び裏面が視認可能に、本体１１の開口部１１ａから引き出した状態で支持するので、本体１１の内部の暗がりの中で主制御装置７０を確認するのではなく、本体１１から引き出した状態で主制御装置７０の前面が視認可能である。さらに、本体１１から引き出した状態で主制御装置７０をその裏面を表向けるように姿勢変更できるので、主制御装置７０の前面及び裏面について作業者（例えば、メーカー作業者、ホール関係者など）の姿勢を変えることなく、主制御装置７０の点検及び封印等の作業を容易に行うことができるし、主制御装置７０の前面または裏面に不正な基板が付けられたとしてもそれを容易で確実に発見することができる。また、不正行為者が前面扉１２を開状態にして、主制御装置７０を本体１１の開口部１１ａから引き出した状態で不正行為を施そうとしても、それらの行為が目立つため、不正行為がし辛く、不正行為を低減することができる。その結果、リールユニット２５の交換作業の邪魔にならず、主制御装置７０の点検及び封印等の作業が容易であり、且つ、主制御装置７０に対する不正行為を低減できる遊技機を提供することができる。

【０１２３】

また、取付台１００は、主制御装置７０を支持するスライド枠体１３０と、このスライド枠体１３０が取り外し不可に連結されてスライド枠体１３０を収めた収容位置（図７参照）とこの収容位置から進出した進出位置（図８参照）とに当該スライド枠体１３０を進退自在に支持する回動枠体１２０と、この回動枠体１２０が取り外し不可に連結されて当該回動枠体１２０を起立姿勢（図６参照）と傾倒姿勢（図７参照）とに回動自在に支持するとともに本体１１の内部奥側で且つリールユニット２５の上方箇所に固定される固定ベース１１０とを備え、主制御装置７０をスライド枠体１３０に取り外し不可に封印する別封止部材１９０を備え、姿勢変更機構部１４０は、主制御装置７０を本体１１の開口部１１ａから引き出した引出支持状態でその裏面を表向けるように姿勢変更した表向き傾斜姿勢（図９参照）で保持する表向き傾斜姿勢保持部１４１を備えているので、別封止部材１９０によって主制御装置７０がスライド枠体１３０に取り外し不可に封印されているので、主制御装置７０をスライド枠体１３０から取り外すことを低減できる。また、スライド枠体１３０、回動枠体１２０及び固定ベース１１０が取り外し不可に連結されているので、スライド枠体１３０、回動枠体１２０及び固定ベース１１０を取り外したりすることを低減できる。その結果、主制御装置７０だけを取り外したり、主制御装置７０を第１，回動枠体１２０ごとを取り外したりして主制御装置７０に不正を施して戻したり、主制御装

置７０を取り外して別の不正な主制御装置７０に交換したりすることを低減でき、主制御装置７０への不正対策に優れる。

【０１２４】

また、表向き傾斜姿勢保持部１４１は、主制御装置７０を本体１１の開口部１１ａから引き出した引出支持状態でその裏面を表向けるように姿勢変更した表向き傾斜姿勢（図９参照）で保持するので、作業者（例えば、メーカー作業者、ホール関係者など）は、表向き傾斜姿勢で保持された主制御装置７０の裏面に正対してこの主制御装置７０の点検及び封印等の作業を行うことができる。

【０１２５】

特に、スライド枠体１３０と第２支持部との連結構造としては、スライド枠体１３０での腕部１３１の先端側に近い側の箇所であって両外側からレール用圧入ピン１２８を圧入してスライド枠体１３０を回動枠体１２０に対して進退自在に固定しているので、本体１１の側面視で上記連結箇所が当該本体１１の側面で覆われて隠れるため、かかる連結作業を解除するための作業スペースが少なく、さらに取り外し不可とすることができる。よって、スライド枠体１３０、回動枠体１２０及び固定ベース１１０ごと取り外した状態にすることで、かかる連結箇所の解除作業を行うことができるため、不正抑止効果がある。

【０１２６】

また、回動枠体１２０は、固定ベース１１０に対して傾倒姿勢としての水平姿勢となった状態で、スライド枠体１３０を収容位置（図７参照）と進出位置（図８参照）とにスライド進退自在に支持するスライド支持部１２５と、スライド枠体１３０をスライド進出させて進出位置にある状態では、当該スライド枠体１３０を本体１１の開口部１１ａから引き出した水平状態で保持する水平保持部１２６と、この水平保持部１２６で水平状態で保持されたスライド枠体１３０をその裏面を表向けるように姿勢変更した表向き傾斜姿勢（図９参照）で保持する表向き傾斜姿勢保持部１４１と、を備えているので、主制御装置７０を支持するスライド枠体１３０を回動枠体１２０の収容位置にした状態で、この回動枠体１２０を起立姿勢とした収納支持状態（図６参照）から、この回動枠体１２０を固定ベース１１０に対して傾倒姿勢としての水平姿勢とした後に、スライド枠体１３０を本体１１の開口部１１ａから引き出して水平状態（図５参照）で保持することができ、主制御装置７０の前面の点検及び封印等の作業を容易に行うことができ、主制御装置７０の前面への不正な基板の取り付けが発見し易い。また、水平保持部１２６で水平状態で保持されたスライド枠体１３０をその裏面を表向けるように姿勢変更した表向き傾斜姿勢（図９参照）で保持するので、主制御装置７０の裏面の点検及び封印等の作業を容易に行うことができ、主制御装置７０の裏面への不正な基板の取り付けが発見し易い。

【０１２７】

また、スライド枠体１３０と回動枠体１２０とが透明な樹脂成型品であるので、スライド枠体１３０や回動枠体１２０の裏側も透けて見え、例えば、スライド枠体１３０と主制御装置７０との間に配設された不正な部品などを目視発見するでき、スライド枠体１３０と主制御装置７０との間や、スライド枠体１３０や回動枠体１２０の裏側に、不正な部品などを配設することが低減でき、主制御装置７０への不正対策に優れる。

【０１２８】

また、主制御装置７０は、遊技に関する所定の制御を司る主制御基板７３と、この主制御基板７３を内部に収容する基板ケース７４とを備え、別封止部材１９０は、基板ケース７４から主制御基板７３の取り出しを抑止するものであり、さらに、別封止部材１９０は、二重かしめピン１９３が挿入される、スライド枠体１３０に形成されたピン挿入孔１３６と、このピン挿入孔１３６に挿入された二重かしめピン１９３が挿入されて引き抜き不可に係止する、基板ケース７４に形成された別被封止部１９２とを備え、この別被封止部１９２は、基板ケース７４から主制御基板７３の取り出しの抑止を解除するべく破壊される取付解除用被切断部１９６を備えているので、取付解除用被切断部１９６を破壊することで、基板ケース７４から主制御基板７３を取り出し可能とすることができ、取付解除用被切断部１９６の破壊痕を見ることで、基板ケース７４が開封されたことがわかる。

【０１２９】
　また、基板ケース７４は、主制御基板７３が取り付けられるケース上７１と、このケース上７１でのその主制御基板７３取付面側に合わされるケース下７２とを備え、ケース上７１とケース下７２とを合わせた状態でケース上７１またはケース下７２の少なくとも一方を当該合わせ面所定方向にスライド移動させることでケース上７１とケース下７２とを係止するケース係止部１７０を備え、別封止部材１９０は、ケース係止部１７０によって係止状態とされたケース上７１及びケース下７２を開封不可に封止するので、別封止部材１９０によってケース上７１及びケース下７２が開封不可に封止でき、遊技機用基板ケース７４が不正に開封されることを低減できる。また、この封止状態では、ケース係止部１７０によってケース上７１及びケース下７２がスライド係止されており、ケース上７１及びケース下７２をスライド方向に直交する対向方向に開けることができず、基板ケース７４が不正に開封されることを低減できる。
【０１３０】
　また、前面側に開口部１１ａを有する本体１１と、この本体１１の前面側で開閉可能であって閉状態で開口部１１ａを閉塞する前面扉１２と、遊技に関する制御を行う主制御基板７３を基板ケース７４の内部に収容した主制御装置７０と、この主制御装置７０が取り付けられるスライド枠体１３０と、主制御装置７０をスライド枠体１３０に取り外し不可に封印する別封止部材１９０と、主制御装置７０を封印する封止部材１５０と、主制御装置７０に設けられた、別封止部材１９０による封印を解除するために破壊される取付解除用被切断部１９６及び封止部材１５０による封印を解除するために破壊されるケース封止解除用被切断部１６６と、本体１１の開口視で取付解除用被切断部１９６及びケース封止解除用被切断部１６６が見えないように主制御装置７０を本体１１の内部奥側箇所に起立姿勢で収納支持する隠蔽収納支持状態と、取付解除用被切断部１９６及びケース封止解除用被切断部１６６を露出させるように主制御装置７０を傾倒姿勢にして本体１１の開口部１１ａから引き出した状態で支持する露出引出支持状態とに変位する取付台１００と、を備えている。
【０１３１】
　したがって、取付台１００による主制御装置７０の隠蔽収納支持状態では、主制御装置７０が本体１１の内部奥側箇所に起立姿勢で収納支持されているので、本体１１内部奥側の主制御装置７０に対して不正行為をし難くできるだけでなく、たとえ本体１１の前面扉１２を開けた状態としても本体１１の開口視で取付解除用被切断部１９６及びケース封止解除用被切断部１６６が見えないので、取付解除用被切断部１９６及びケース封止解除用被切断部１６６に直接にアクセスすることができず、取付解除用被切断部１９６及びケース封止解除用被切断部１６６を不正に破壊することが困難であり、主制御装置７０への不正行為がし辛く、主制御装置７０に対する不正行為を低減できる。
【０１３２】
　また、取付台１００による主制御装置７０の露出引出支持状態では、取付解除用被切断部１９６及びケース封止解除用被切断部１６６を露出させるように主制御装置７０を傾倒姿勢にして本体１１の開口から引き出した状態で支持するので、正当な作業者（例えば、ホール関係者や製造会社の技術者など）は、本体１１内部の暗がりの中で主制御装置７０を確認するのではなく、本体１１から引き出した状態でしかも主制御装置７０が視認可能であるので、主制御装置７０の点検、封印及びその解除等の作業を容易に行うことができるし、主制御装置７０の前面または裏面に不正な基板が付けられたとしてもそれを容易で確実に発見することができる。また、不正行為者が本体１１の前面扉１２を開状態にして、主制御装置７０を本体１１の開口から引き出した状態（露出引出支持状態）で不正行為を施そうとしても、それらの行為が目立つため、不正行為がし辛く、不正行為を低減することができる。その結果、主制御装置７０（例えば、制御装置）の点検、封印及びその解除等の作業が容易であり、且つ、主制御装置７０に対する不正行為を低減できる遊技機を提供することができる。
【０１３３】

また、取付解除用被切断部１９６は、主制御装置７０の隠蔽収納支持状態において主制御装置７０の裏面側上部箇所に設けられており、取付台１００は、主制御装置７０を支持するスライド枠体１３０と、このスライド枠体１３０が取り外し不可に連結されてスライド枠体１３０を収めた収容位置とこの収容位置から進出した進出位置とにスライド枠体１３０を進退自在に支持する回動枠体１２０と、この回動枠体１２０が取り外し不可に連結されて回動枠体１２０を起立姿勢と傾倒姿勢とに側面視下辺側を回動軸として回動自在に支持するとともに本体１１の内部奥側箇所に固定される固定ベース１１０とを備えている。

【０１３４】

したがって、取付解除用被切断部１９６及びケース封止解除用被切断部１６６は、主制御装置７０の露出引出支持状態において、手前側上面箇所に位置しており、この取付解除用被切断部１９６に対して真上から破壊作業を行うことができ、封印解除作業がし易い。

【０１３５】

また、別封止部材１９０が、主制御装置７０をスライド枠体１３０に取り外し不可に封印するので、主制御装置７０をスライド枠体１３０から取り外すことを低減できる。また、スライド枠体１３０、回動枠体１２０及び固定ベース１１０が取り外し不可に連結されているので、スライド枠体１３０、回動枠体１２０及び固定ベース１１０を取り外したりすることを低減できる。つまり、主制御装置７０だけを取り外したり、主制御装置７０をスライド枠体１３０及び回動枠体１２０ごとを取り外したりして主制御装置７０に不正を施して戻したり、主制御装置７０を取り外して別の不正な主制御装置７０に交換したりすることを低減でき、主制御装置７０への不正対策に優れる。

【０１３６】

また、スライド枠体１３０は、主制御装置７０の露出引出支持状態において取付解除用被切断部１９６及びケース封止解除用被切断部１６６の下方箇所に、その破壊によって分離された破壊部品の落下を防止する延出部１３５を備えているので、封印解除した際にその破壊部品の落下が防止され、本体１１内部に破壊部品が紛れ込んで見失ってしまうことや、本体１１内部に入った破壊部品で当該本体１１内の部品等が損傷することも低減できる。

【０１３７】

また、前面側に開口部１１ａを有する本体１１と、この本体１１の前面側で開閉可能であって閉状態で開口部１１ａを閉塞する前面扉１２と、複数の図柄を変動表示する、本体１１の内部に設けられたリールユニット２５と、本体１１の内部で且つリールユニット２５の上方箇所に収納される、遊技に関する制御を行う主制御装置７０と、本体１１の内部奥側で且つリールユニット２５の上方箇所に起立姿勢で収納された収納状態（図３，図６参照）と、スライド枠体１３０の先端側部分がリールユニット２５よりも前側に位置するように本体１１の開口部１１ａから引き出された引出状態（図５，図８参照）とに変位する取付台１００と、を備えているので、取付台１００の収納状態では、本体１１の内部奥側で且つリールユニット２５の上方箇所に起立姿勢で収納支持されているので、リールユニット２５の上方スペースを確保でき、リールユニット２５の交換作業の邪魔にならない。

【０１３８】

また、取付台１００の引出状態では、その少なくとも一部がリールユニット２５よりも前側に位置するように本体１１の開口部１１ａ側に引き出された状態となっているので、装着の際に誤って主制御装置７０を落下させたとしても、主制御装置７０が引出状態の取付台１００に当るだけで、この引出状態の取付台１００の下方のリールユニット２５に当らないので、リールユニット２５が損傷することが低減でき、リールユニット２５を保護することができる。

【０１３９】

その結果、主制御装置７０の誤落下によるリールユニット２５の損傷を低減でき、リールユニット２５の交換作業を容易に行うことができる遊技機を提供することができる。

【０１４０】
また、取付台１００による引出支持状態のスライド枠体１３０の正面視で左側部分の一部が開状態の前面扉１２の内側右辺箇所（開閉軸Ｊ１に近い辺の一部箇所）に当接することで、前面扉１２を開状態に維持するので、作業者は前面扉１２を開状態に維持するように持っておく必要がなく、主制御装置７０の着脱作業に集中できる。また、主制御装置７０の着脱作業中に前面扉１２が勢いよく閉まろうとして部品や装置が損傷することを低減できる。
【０１４１】
また、前面側に開口部１１ａを有する本体１１と、この本体１１の前面側で開閉可能であって閉状態で開口部１１ａを閉塞する前面扉１２と、複数の図柄を変動表示する、本体１１内部に設けられたリールユニット２５と、遊技に関する制御を行う主制御装置７０と、この主制御装置７０が取り付けられるスライド枠体１３０と、主制御装置７０を本体１１の内部奥側で且つリールユニット２５の上方箇所に起立姿勢で収納するようにスライド枠体１３０を支持する収納支持状態と、スライド枠体１３０の少なくとも一部がリールユニット２５よりも前側に位置するように当該スライド枠体１３０を本体１１の開口部１１ａ側に引き出して支持する引出支持状態と、に変位する取付台１００と、を備え、スライド枠体１３０は、引出支持状態において主制御装置７０が載置される延出部１３５及び支持用延出片１３７を備えているので、取付台１００によるスライド枠体１３０の収納支持状態では、主制御装置７０が本体１１の内部奥側で且つリールユニット２５の上方箇所に起立姿勢で収納支持されているので、不正行為がし辛く、不正行為を低減できる。また、この収納支持状態では、主制御装置７０が本体１１の内部奥側で起立姿勢で収納支持されているので、リールユニット２５の上方スペースを確保でき、リールユニット２５の交換作業の邪魔にならない。
【０１４２】
また、取付台１００によるスライド枠体１３０の引出支持状態では、スライド枠体１３０の先端側がリールユニット２５よりも前側に位置するように当該スライド枠体１３０を本体１１の開口部１１ａ側に引き出された状態となっており、主制御装置７０は、この引出支持状態のスライド枠体１３０の延出部１３５及び支持用延出片１３７に載置されて取り付けられるので、主制御装置７０のスライド枠体１３０への装着がし易い。また、装着の際に誤って主制御装置７０を落下させたとしても、主制御装置７０が引出支持状態のスライド枠体１３０に当るだけで、この引出支持状態のスライド枠体１３０の下方のリールユニット２５に当らないので、リールユニット２５が損傷することが低減でき、リールユニット２５を保護することができる。また、取付台１００及びこの取付台１００による引出支持状態のスライド枠体１３０を、リールユニット２５を保護する機構として使用することができるし、主制御装置７０の落下防止機構としても使用することができる。
【０１４３】
また、主制御装置７０を取り付ける際には、引き出されて水平姿勢のスライド枠体１３０の延出部１３５及び支持用延出片１３７に上方から主制御装置７０を載置して取り付け、主制御装置７０を取り外す際には、引き出されて水平姿勢のスライド枠体１３０の延出部１３５及び支持用延出片１３７の上方に主制御装置７０を引き上げて取り外すので、主制御装置７０をリールユニット２５に接触させることがなく、当該リールユニット２５を損傷させることが防止できる。
【０１４４】
また、本体１１内部の暗がりの中で主制御装置７０を確認するのではなく、取付台１００によって本体１１から引き出した引出支持状態で主制御装置７０を視認できるので、主制御装置７０の点検及び封印等の作業を容易に行うことができるし、主制御装置７０の前面または裏面に不正な基板が付けられたとしてもそれを容易で確実に発見することができる。また、不正行為者が扉を開状態にして、主制御装置７０を本体１１の開口から引き出した状態で不正行為を施そうとしても、それらの行為が目立つため、不正行為がし辛く、不正行為を低減することができる。

【０１４５】
その結果、主制御装置７０の誤落下や接触によるリールユニット２５の損傷を低減でき、リールユニット２５の交換作業を容易に行うことができ、且つ、主制御装置７０に対する不正行為を低減できる遊技機を提供することができる。
【０１４６】
また、取付台１００による引出支持状態のスライド枠体１３０は、主制御装置７０が延出部１３５及び支持用延出片１３７から持ち上げて取り外され、主制御装置７０が延出部１３５及び支持用延出片１３７に載置して取り付けられるので、主制御装置７０の着脱の際に、リールユニット２５に当ることが低減できる。
【０１４７】
また、延出部１３５及び支持用延出片１３７は、引出支持状態のスライド枠体１３０の下部側に形成されて、水平姿勢の主制御装置７０の下面側での両端部分と手前端部分を支持する透明支持部であるので、主制御装置７０での当該延出部１３５及び支持用延出片１３７と対向する部分も目視確認することができ、かかる箇所に不正な基板（部品など）を配設することを低減できる。
【実施例２】
【０１４８】
次に、実施例２のスロットマシン１０の基板ケース７４について図２２～図３０を用いて説明する。
【０１４９】
図２２は、前面扉１２を取り外した状態での実施例２のスロットマシン１０の内部を示す図である。図２３は、前面扉１２を空けて主制御装置７０を引き出した状態の実施例２のスロットマシン１０の斜視図である。図２４は、主制御装置７０が収納支持状態である実施例２の取付台２００を示す斜視図である。図２５は、支持枠体２３０を水平姿勢に傾倒した状態の取付台２００を示す斜視図である。図２６は、取付台２００でのリンク枠体２２０が伸張途中である様子を示す斜視図である。図２７は、図２６の側面図である。図２８は、取付台２００のリンク枠体２２０を伸張状態として主制御装置７０を引き出した状態の斜視図である。図２９は、引き出した支持枠体２３０の裏面を表向けるように反転傾斜姿勢とした状態の取付台２００を示す斜視図である。図３０は、固定ベース２１０とリンク枠体２２０と支持枠体２３０との連結を示す斜視図である。
【０１５０】
実施例２の取付台２００は、図２４に示す起立姿勢で折り畳み状態のリンク枠体２２０を、図２６に示す傾倒姿勢に変化させるに伴なって伸張状態となることで主制御装置７０が図２８に示すように引き出される構成としている点が、前述の実施例１の取付台１００と異なっている。よって、前述の実施例１と異なる構成について以下に詳細に説明することとし、実施例１と同様の構成についてはここでの説明を省略する。
【０１５１】
取付台２００は、図２８に示すように、金属製の固定ベース２１０と、透明樹脂成型品であるリンク枠体２２０及び支持枠体２３０とを備えている。
【０１５２】
固定ベース２１０は、図２２，図２３に示すように、本体１１の内部奥側で且つリールユニット２５の上方箇所に固定されている。なお、この固定ベース２１０は、前述の実施例１と同様に本体１１にネジ止めされている。
【０１５３】
この固定ベース２１０は、図３０に示すように、リンク枠体２２０が取り外し不可に連結されており、リンク枠体２２０を折り畳み状態での起立姿勢（図２４参照）と当該リンク枠体２２０を伸張状態とした傾倒姿勢（図２８参照）とに回動自在に支持するものである。
【０１５４】
ここで、固定ベース２１０の構成について、図３１～図３５も用いて説明する。

【０１５５】
図３１（ａ），（ｂ）は、固定ベース２１０の前方斜視図，後方斜視図である。図３２は、固定ベース２１０とリンク枠体２２０との連結を示す斜視図である。図３３（ａ）は、固定ベース２１０にリンク枠体２２０のみが起立姿勢で係止された状態の平面図、図３３（ｂ）は（ａ）に示すＢ－Ｂ線断面図である。図３４（ａ）は、固定ベース２１０と起立姿勢のリンク枠体２２０との縦断面図、図３４（ｂ）は、固定ベース２１０と傾倒姿勢のリンク枠体２２０との縦断面図である。図３５（ａ），（ｂ）は、図３４（ａ），（ｂ）の断面箇所の拡大斜視図、図３５（ｃ）は、図２４の取付台２００の右端側の縦断面図、図３５（ｄ）は、図２８の取付台２００の右端側の縦断面図、図３５（ｅ），（ｆ）は、図３５（ｃ），（ｄ）の断面箇所の拡大斜視図である。
【０１５６】
具体的には、固定ベース２１０は、図３１（ａ）に示すように、その正面視下辺側に、前方方向に突出させるように折り曲げた水平突出部２１２を備えている。この水平突出部２１２は、その両端側がそれぞれに上方向に折り曲げられた一対の支持片部２１３，２１３を備えるとともに、この一対の支持片部２１３，２１３の前方側箇所に水平方向に貫通した挿入孔２１４が形成されている。
【０１５７】
固定ベース２１０は、図３２及び図３３に示すように、その右下箇所において、リンク枠体２２０の第２腕部材２２２の右側下部箇所に設けられた固定大歯車２１１の中心孔２１１ａと、リンク枠体２２０の第２腕部材２２２の右側下部箇所に形成された入口孔２２２ａと、ワッシャー２２２ｂ（座金）と、固定ベース２１０の右側の支持片部２１３の先端側の挿入孔２１４と、入口孔２２２ａと同一軸心で間隔を空けて近設された軸孔２２２ｃとに、その順にベース用圧入ピン２１５を挿入した状態で、当該ベース用圧入ピン２１５を第２腕部材２２２の右側の軸孔２２２ｃに圧入するとともに、その左下箇所において、リンク枠体２２０の第２腕部材２２２の左側下部箇所に形成された入口孔２２２ａと、ワッシャー２２２ｂ（座金）と、固定ベース２１０の左側の支持片部２１３の先端側の挿入孔２１４と、入口孔２２２ａと同一軸心で間隔を空けて近設された軸孔２２２ｃとに、その順にベース用圧入ピン２１５Ａを挿入した状態で、当該ベース用圧入ピン２１５Ａを第２腕部材２２２の左側の軸孔２２２ｃに圧入することで、これらのベース用圧入ピン２１５，２１５Ａが抜けなくなり、リンク枠体２２０が回動可能で取り外し不可に連結されている。図３３（ｂ）に示すように、ベース用圧入ピン２１５，２１５Ａは、圧入されることで、固定ベース２１０の支持片部２１３の挿入孔２１４に対して遊嵌状態であり、リンク枠体２２０の軸孔２２２ｃよりも僅かに径の大きいベース用圧入ピン２１５，２１５Ａが強引に入れられて密着状態となっている。
【０１５８】
固定大歯車２１１は、図３３に示すように、第２腕部材２２２との対向面側で中心孔２１１ａの外周箇所に軸突起部２１１ｂが形成されており、この軸突起部２１１ｂが第２腕部材２２２の右側下部箇所の入口孔２２２ａに挿入されているものの、図２４に示すように、その外面箇所（第２腕部材２２２との対向面とは反対側の面）と固定ベース２１０とがＬ字状の固定棒体２１１ｃで繋がれているため、固定ベース２１０に対して非回転で固定されている。例えば、図２４に示すように、固定大歯車２１１の外面での回転軸（中心孔２１１ａの中心軸）からずれた偏心箇所に、取付穴２１１ｄが形成されており、この取付穴２１１ｄに固定棒体２１１ｃの短棒部の先端が嵌入され（接着等してもよい）、固定棒体２１１ｃの長棒部の先端を固定ベース２１０に溶接（接着等してもよい）して固定されている。
【０１５９】
なお、図２４に示した固定棒体２１１ｃは、本実施例２での他の図面においてその図示を省略している。
【０１６０】
また、固定ベース２１０は、図２５に示すように、その左側上部箇所と右側上部箇所と

に、係止孔２１６が形成されている。

【０１６１】

次に、リンク枠体２２０は、図２８に示すように、支持枠体２３０が取り外し不可に連結されており、樹脂成型品（本実施例では、透明樹脂成型品）である。

【０１６２】

また、リンク枠体２２０は、支持枠体２３０を収めた収容位置（図２４参照）と、この収容位置から回動した回動位置（図２５参照）とに当該支持枠体２３０を回動自在に支持するものであって、起立姿勢で折り畳み状態（図２４，図２５参照）となり、水平な傾倒姿勢で伸張状態（図２８参照）となる。

【０１６３】

具体的には、リンク枠体２２０は、図２６，図３０に示すように、支持枠体２３０が取り外し不可で当該支持枠体２３０が回動自在に連結された第１回動連結部２５０を先端側に備えた第１腕部材２２１と、この第１腕部材２２１の後端側に取り外し不可で当該第１腕部材２２１が回動自在に連結された第２回動連結部２６０を先端側に備えた、図３０の水平姿勢で平面視でコノ字状の第２腕部材２２２とを備え、この第２腕部材２２２の後端側が固定ベース２１０に対して回動自在に連結支持されており、側面視で第１腕部材２２１と第２腕部材２２２とを折り畳んで重なるようにした起立姿勢（図２５参照）から、図２６及び図２７に示す中間状態（側面視で逆Ｖノ字状態）を経て、第１腕部材２２１と第２腕部材２２２とを伸張した水平姿勢（図２８参照）となる。

【０１６４】

また、リンク枠体２２０は、図３２に示すように、その第２腕部材２２２の基端側で幅長さに亘る底面部２２４の上面側で、且つ、回動軸２２２ｄの近接箇所に、回動軸２２２ｄの方が一段下がった段差部２２４ａを備えている。この段差部２２４ａは、図３４及び図３５に示すように、リンク枠体２２０を伸張した水平姿勢（図２８参照）とした場合に、固定ベース２１０の水平突出部２１２の折り曲げ部２１２ａに当接し、リンク枠体２２０を水平姿勢（図２８参照）で支持するための構成である。

【０１６５】

リンク枠体２２０の第２腕部材２２２は、図３０に示すように、その右側面で基端側箇所に、非回転の固定大歯車２１１に噛み合う第１小歯車２２６が回動可能に取り付けられている。具体的には、第１小歯車２２６の回動中心の中心孔２２６ａと、第２腕部材２２２の挿入孔２２２ｅとに、第１圧入ピン２２６ｂを挿入した状態で当該第１圧入ピン２２６ｂを第２腕部材２２２の挿入孔２２２ｅに圧入する（第１圧入ピン２２６ｂは、第１小歯車２２６の中心孔２２６ａに対して遊嵌状態であり、第２腕部材２２２の挿入孔２２２ｅよりも僅かに径の大きい第１圧入ピン２２６ｂが強引に入れられて密着状態となっている）ことで、この第１圧入ピン２２６ｂが第２腕部材２２２から抜けなくなり、第１小歯車２２６が回動可能で第２腕部材２２２から取り外し不可に取り付けられている。

【０１６６】

第２腕部材２２２は、図３０に示すように、その先端側箇所に、第２小歯車２２７が回動可能に取り付けられている。具体的には、第２小歯車２２７の回動中心の中心孔２２７ａと、第２腕部材２２２の挿入孔２２２ｆとに、第２圧入ピン２２７ｂを挿入した状態当該第２圧入ピン２２７ｂを第２腕部材２２２の挿入孔２２２ｆに圧入する（第２圧入ピン２２７ｂは、第２小歯車２２７の中心孔２２７ａに対して遊嵌状態であり、第２腕部材２２２の挿入孔２２２ｆよりも僅かに径の大きい第２圧入ピン２２７ｂが強引に入れられて密着状態となっている）ことで、この第２圧入ピン２２７ｂが第２腕部材２２２の挿入孔２２２ｆから抜けなくなり、第２小歯車２２７が回動可能で第２腕部材２２２から取り外し不可に取り付けられている。

【０１６７】

また、第１小歯車２２６は、図３０に示すように、その前面側で中心軸（中心孔２２６ａの中心軸）からずれた偏心箇所に、棒状のリンクシャフト２２８の基端側の突起部２２８ａが嵌入される取り付け穴２２６ｃが形成されている。また、第２小歯車２２７は、そ

の前面側で中心軸からずれた偏心箇所に、棒状のリンクシャフト２２８の先端側の突起部２２８ｂが嵌入される取り付け穴２２７ｃが形成されている。

【０１６８】

リンクシャフト２２８は、図３０に示すように、その基端側（固定ベース２１０に近い側）で第２腕部材２２２と対向する面側箇所に、第１小歯車２２６の取り付け穴２２６ｃに嵌入する突起部２２８ａが形成されており、且つ、その先端側（固定ベース２１０から遠い側）で第２腕部材２２２と対向する面側箇所に、第２小歯車２２７の取り付け穴２２７ｃに嵌入する突起部２２８ｂが形成されている。

【０１６９】

リンクシャフト２２８は、図３０に示すように、その基端側の突起部２２８ａを第１小歯車２２６の取り付け穴２２６ｃに嵌入するとともに、その先端側の突起部２２８ｂを第２小歯車２２７の取り付け穴２２７ｃに嵌入することで、第１小歯車２２６及び第２小歯車２２７に取り付けられている。

【０１７０】

リンク枠体２２０の第２腕部材２２２は、図３０に示すように、その右側の先端側箇所に、第２小歯車２２７に噛み合う第３小歯車２２９が回動可能に取り付けられるとともに、右側の第１腕部材２２１が回動自在に連結する第２回動連結部２６０を備えている。

【０１７１】

ここで、第２回動連結部２６０の構成について、図３６も用いて説明する。図３６（ａ）は、リンク枠体２２０の第１腕部材２２１と第２腕部材２２２との連結状態を示す部分斜視図、図３６（ｂ）は第１腕部材２２１と第２腕部材２２２との分解斜視図、図３６（ｃ）は第２小歯車２２７と第３小歯車２２９とを示す斜視図である。

【０１７２】

具体的には、第２腕部材２２２の右側先端箇所の第２回動連結部２６０は、図３０及び図３６に示すように、第２腕部材２２２の右側先端側箇所に形成された取付孔２２２ｇに第３小歯車２２９の挿入突出部２２９ａが遊嵌された状態での当該第３小歯車２２９の回動中心の中心孔２２９ｂと、第１腕部材２２１の後端側箇所に形成された挿入孔２２１ａとに、その順で第３圧入ピン２２９ｃを挿入した状態で当該第３圧入ピン２２９ｃを圧入する（第３圧入ピン２２９ｃは、第３小歯車２２９の中心孔２２９ｂに対して遊嵌状態であり、第１腕部材２２１の挿入孔２２１ａよりも僅かに径の大きい第３圧入ピン２２９ｃが強引に入れられて密着状態となっている）とともに、図３６に示すように第１腕部材２２１の挿入孔２２１ａの近傍箇所に形成された四角形突起部２２１ｂでの隣接二面（挿入孔２２１ａに近い隣接二面）に、第３小歯車２２９の挿入突出部２２９ａの挿入方向視でＬ字状に切り欠かれたＬ字切り欠き部２２９ｄの隣接二内面（第３小歯車２２９の挿入方向に平行な隣接する二内面）を合わせるようにして第３小歯車２２９が第２腕部材２２２の取付孔２２２ｇに挿入されることで構成されている。

【０１７３】

このようにして、第３圧入ピン２２９ｃが第１腕部材２２１の挿入孔２２１ａから抜けなくなり、第１腕部材２２１が第２腕部材２２２に対して取り外し不可に取り付けられている。また、第１腕部材２２１が例えば起立姿勢（図２５参照）から水平姿勢（図２８参照）に変移することで第３小歯車２２９が回転（右面視で時計回りに回転）し、この回転によって第２小歯車２２７が反転（右面視で反時計回りに回転）し、第２小歯車２２７の回転がリンクシャフト２２８を通じて図２７に示すように第１小歯車２２６も反転（右面視で反時計回りに回転）しながら当該第１小歯車２２６が固定大歯車２１１の外周を反時計回りに移動する。

【０１７４】

なお、リンク枠体２２０の第２腕部材２２２は、図３０に示すように、その左側の先端側箇所の挿入孔２２２ｈを介して第１腕部材２２１のかしめ穴２２１ｃにリンク用圧入ピン２２１ｄを圧入することで、左側の第１腕部材２２１が回動自在に連結されている。

【０１７５】

さらに、リンク枠体２２０の第１腕部材２２１は、図３０に示すように、その先端側箇所に、支持枠体２３０が回動自在に連結する第１回動連結部２５０を備えている。

【０１７６】

具体的には、第１腕部材２２１の先端側の第１回動連結部２５０は、図３０に示すように、第１腕部材２２１の先端側箇所に形成された貫通孔２２１ｅと、支持枠体２３０の後端側箇所に形成されたかしめ穴２３２とに、ヒンジ用圧入ピン２５１を挿入した状態で当該ヒンジ用圧入ピン２５１を圧入する（ヒンジ用圧入ピン２５１は、第１腕部材２２１の貫通孔２２１ｅに対して遊嵌状態であり、支持枠体２３０のかしめ穴２３２よりも僅かに径の大きいヒンジ用圧入ピン２５１が強引に入れられて密着状態となっている）ことで、このヒンジ用圧入ピン２５１が支持枠体２３０のかしめ穴２３２から抜けなくなり、支持枠体２３０が回動可能であり、支持枠体２３０が第１腕部材２２１に対して取り外し不可に取り付けられている。

【０１７７】

支持枠体２３０は、図２８に示すように、主制御装置７０を支持するものであり、前述したように起立姿勢のリンク枠体２２０の収容位置（図２４参照）から回動して水平姿勢（図２５参照）となる。

【０１７８】

また、支持枠体２３０は、図２５に示すように、その左側腕部２３１Ａの基端側と右側腕部２３１Ｂの基端側とに係止爪２３９がそれぞれ形成されている。図２４に示すように、支持枠体２３０を、水平姿勢（図２５参照）から起立姿勢（図２４参照）とすることで、この支持枠体２３０の左側腕部２３１Ａ及び右側腕部２３１Ｂの係止爪２３９が、固定ベース２１０の左側上部箇所と右側上部箇所との係止孔２１６にそれぞれ挿入されて係止されるので、支持枠体２３０及びリンク枠体２２０が起立姿勢状態（図２４参照）で固定ベース２１０に保持される。

【０１７９】

この取付台２００は、図３０に示すように、第１腕部材２２１と第２腕部材２２２とを伸張した水平姿勢にして支持枠体２３０を本体１１の開口部１１ａから引き出した水平状態で保持する水平保持部２２５を備えている。

【０１８０】

ここで、水平保持部２２５の構成について、図３７～図３９も用いて説明する。図３７は、支持枠体２３０と第１腕部材２２１との連結箇所を示す分解斜視図である。図３８は、支持枠体２３０と第１腕部材２２１との連結箇所を示す部分斜視図である。図３９は、主制御装置７０が装着されて水平姿勢の支持枠体２３０と第１腕部材２２１との連結箇所を示す部分斜視図である。

【０１８１】

具体的には、この水平保持部２２５は、図３４，図３５に示すように、リンク枠体２２０の第２腕部材２２２の底面部２２４の段差部２２４ａが固定ベース２１０の水平突出部２１２の折り曲げ部２１２ａに当接することで、第２腕部材２２２が水平姿勢に抑止されており、この水平姿勢からさらに下向き傾斜する方向に第１小歯車２２６、第２小歯車２２７及び第３小歯車２２９が回転できないことから、第１腕部材２２１を水平姿勢に保持するものであるとともに、図３７及び図３８に示すように、支持枠体２３０の後端側に形成された円弧状の切欠孔２３８と、支持ピン２４２と、この支持ピン２４２のピン側に挿入されるバネ２４３と、第１腕部材２２１の先端側で支持枠体２３０と対向する側に形成された、支持ピン２４２のピン頭２４２ａ及びバネ２４３が収納可能な収納穴２４４と、この収納穴２４４の開口中心と同一開口中心で連通形成されて支持ピン２４２のピン先が挿入可能で収納穴２４４よりも径の小さいピン挿入孔２４５と、第１腕部材２２１の先端側で支持枠体２３０と対向する側とは反対側に配設されて、支持ピン２４２のピン先が圧入される車輪２４６と、を備え、図３８及び図３９に示すように、バネ２４３により支持ピン２４２のピン頭２４２ａが切欠孔２３８内で当該切欠孔２３８の手前側端部に位置することで、支持枠体２３０を水平姿勢に保持するものである。

【０１８２】
また、取付台２００は、図２２，図２４に示すように、本体１１の開口視で取付解除用被切断部１９６が見えないように主制御装置７０を本体１１の内部奥側箇所に起立姿勢で収納支持する隠蔽収納支持状態（前述した収納支持状態）と、図２３，図２８に示すように、取付解除用被切断部１９６を露出させるように主制御装置７０を傾倒姿勢（水平姿勢）にして本体１１の開口部１１ａから引き出した状態で支持する露出引出支持状態（前述した引出支持状態）とに変位するものであるとも言える。また、図２２，図２４に示す隠蔽収納支持状態では、ケース封止解除用被切断部１６６が見えないし、図２３，図２８に示す露出引出支持状態では、ケース封止解除用被切断部１６６が露出している。
【０１８３】
また、支持枠体２３０は、主制御装置７０の露出引出支持状態（図２８参照）において取付解除用被切断部１９６及びケース解除用被切断部１６６の下方箇所に、その破壊によって分離された破壊部品の落下を防止する延出部２３５（図２９参照）を備えている。
【０１８４】
また、取付台２００は、図２２，図２４に示すように、本体１１の内部奥側で且つリールユニット２５の上方箇所に起立姿勢で収納された収納状態（前述した収納支持状態）と、図２３，図２８に示すように、支持枠体２３０の先端側部分がリールユニット２５よりも前側に位置するように本体１１の開口部１１ａから引き出された引出状態（前述した引出支持状態）とに変位して、引出状態においてリールユニット２５を保護するものであるとも言える。
【０１８５】
具体的には、主制御装置７０が支持枠体２３０に取り付けられ、取付台２００は、図２２，図２４に示すように、主制御装置７０を本体１１の内部奥側で且つリールユニット２５の上方箇所に起立姿勢で収納するように支持枠体２３０を支持する収納支持状態と、図２３，図２８に示すように、支持枠体２３０の先端側部分がリールユニット２５よりも前側に位置するように支持枠体２３０を本体１１の開口部１１ａから引き出して支持する引出支持状態とに変位して、引出状態においてリールユニット２５を保護するものである。
【０１８６】
また、支持枠体２３０は、図１０に示すように、引出支持状態において主制御装置７０が載置される前述した延出部２３５及び支持用延出片２３７を備えている。延出部２３５及び支持用延出片２３７は、図１０に示すように、引出支持状態の支持枠体２３０の下部側に形成されており、水平姿勢の主制御装置７０の下面側での両端部分と手前端部分とを支持する透明支持部である。
【０１８７】
また、取付台２００による引出支持状態の支持枠体２３０（図２３参照）は、主制御装置７０が延出部２３５及び支持用延出片２３７から持ち上げて取り外され、主制御装置７０が延出部２３５及び支持用延出片２３７に載置して取り付けられる。
【０１８８】
さらに、取付台２００は、図２９，図３０に示すように、主制御装置７０を本体１１の開口部１１ａから引き出した引出支持状態（図２８参照）でその裏面を表向けるように姿勢変更する姿勢変更機構部２４０を備えている。
【０１８９】
ここで、姿勢変更機構部２４０の構成について、図４０及び図４１も用いて説明する。図４０は、主制御装置７０が装着されて反転傾斜姿勢の支持枠体２３０と第１腕部材２２１との連結箇所を示す部分斜視図である。図４１（ａ）は、支持枠体２３０を引き出して水平姿勢とした場合の第１回動連結部２５０の部分側面図、図４１（ｂ）は、（ａ）の支持枠体２３０を反転傾斜姿勢とした場合の第１回動連結部２５０の部分側面図である。
【０１９０】
この姿勢変更機構部２４０は、水平保持部２２５で水平状態で保持された支持枠体２３０（図２８参照）を、図２９に示すように、その裏面を表向けるように姿勢変更した表向

き傾斜姿勢（反転傾斜姿勢）で保持する表向き傾斜姿勢保持部２４１を備えている。

【０１９１】

具体的には、図３９，図４１（ａ）に示すように支持枠体２３０が水平姿勢状態では、支持ピン２４２のピン頭２４２ａは、切欠孔２３８内で当該切欠孔２３８の手前側端部に位置している。そして、支持枠体２３０をその先端側を起こすように姿勢変更すると、支持ピン２４２のピン頭２４２ａが切欠孔２３８内で当該切欠孔２３８の手前側端部から奥側端部に移動していき、図４０，図４１（ｂ）に示すように、最終的に支持ピン２４２のピン頭２４２ａが切欠孔２３８内で当該切欠孔２３８の奥側端部に位置することで、支持枠体２３０を表向き傾斜姿勢に保持する。

【０１９２】

ここで、図２６及び図２７に示す中間状態（側面視で逆Ｖノ字状態）のリンク枠体２２０が、起立姿勢（図２５参照）になる際に、支持ピン２４２を切欠孔２３８から引き出すピン引出機構部２４７について、図４２～図４６を用いて説明する。

【０１９３】

図４２（ａ）～（ｄ）は、リンク枠体２２０が起立姿勢直前の状態から起立姿勢となる様子を示す取付台２００の側面図である。図４３（ａ）～（ｄ）は、リンク枠体２２０が起立姿勢直前の状態から起立姿勢となる様子を示す取付台２００の前方斜視図である。図４４（ａ）～（ｄ）は、第１腕部材２２１の支持ピン２４２の車輪２４６が第２腕部材２２２の案内レール２４８で案内される様子を示す要部部分を正面視した縦断面図である。図４５（ａ）～（ｄ）は、第１腕部材２２１の支持ピン２４２の車輪２４６が第２腕部材２２２の案内レール２４８で案内される様子を示す要部部分を前方斜視した縦断面斜視図である。図４６（ａ）～（ｄ）は、第１腕部材２２１の支持ピン２４２の車輪２４６が第２腕部材２２２の案内レール２４８で案内される様子を示す要部部分を前方斜視した横断面斜視図である。

【０１９４】

ピン引出機構部２４７は、図４２，図４３に示すように、支持ピン２４２の車輪２４６を外側に引き出すための案内レール２４８を備えている。具体的には、この案内レール２４８は、図４６に示すように、車輪２４６を案内するレール（車輪２４６のリムが当接するレール）であって、平面視で、バネ２４３の付勢力によって第１腕部材２２１の外面に接触する状態の車輪２４６の位置（図４６（ａ）参照）から外側に離れる位置（図４６（ｃ）参照）に軌道を変更する経路形状のものであり、第２腕部材２２２に形成されている。その軌道変更量としては、支持ピン２４２のピン頭２４２ａが切欠孔２３８から抜け出る程度の長さがあればよい。つまり、支持ピン２４２のピン頭２４２ａが切欠孔２３８から抜け出る程度の長さだけ、その軌道をシフトできればよい。

【０１９５】

この実施例では、案内レール２４８は、図４４及び図４６に示すように、車輪２４６の挿入側から順に、バネ２４３の付勢力によって第１腕部材２２１の外面に接触する状態の車輪２４６を導入する導入レール部２４８ａと、この導入レール部２４８ａに連結されて当該導入レール部２４８ａよりも外側に離れるように外側向きレール部２４８ｂと、この外側向きレール部２４８ｂに連結されて奥側に向かう奥向きレール部２４８ｃとを備えている。

【０１９６】

ここで、ピン引出機構部２４７による支持ピン２４２の切欠孔２３８からの引き出し動作について、以下に説明する。

【０１９７】

図４２（ａ）及び図４３（ａ）に示すように、リンク枠体２２０が起立姿勢直前の状態（鋭角な逆Ｖノ字状態）となると、図４４（ａ）、図４５（ａ）及び図４６（ａ）に示すように、車輪２４６が第２腕部材２２２の案内レール２４８の入口に位置する。つまり、車輪２４６が案内レール２４８の導入レール部２４８ａに位置している。

【０１９８】

そして、図４２（ｂ）及び図４３（ｂ）に示すように、第１腕部材２２１をさらに第２腕部材２２２に重なるように近づけると、図４４（ｂ）、図４５（ｂ）及び図４６（ｂ）に示すように、車輪２４６が案内レール２４８の外側向きレール部２４８ｂに位置している。つまり、図４４（ｂ）に示すように、車輪２４６は第１腕部材２２１から少し離れた状態となっており、それによって、支持ピン２４２のピン頭２４２ａが切欠孔２３８から少し引き出された状態に当該支持ピン２４２が移動しており、ピン頭２４２ａがバネ２４３を縮める方向に少し移動していることで当該バネ２４３が少し縮んでいる。

【０１９９】

そして、図４２（ｃ）及び図４３（ｃ）に示すように、第１腕部材２２１を第２腕部材２２２に完全に重なるように近づけると、図４４（ｃ）、図４５（ｃ）及び図４６（ｃ）に示すように、車輪２４６が案内レール２４８の奥向きレール部２４８ｃに位置している。つまり、図４４（ｃ）に示すように、車輪２４６は、さらに外側に移動しており、それによって、支持ピン２４２のピン頭２４２ａが第１腕部材２２１の切欠孔２３８から完全に引き出された状態に当該支持ピン２４２が移動しており、バネ２４３が完全に縮んでいる。

【０２００】

そして、図４２（ｃ）及び図４３（ｃ）に示す水平姿勢の支持枠体２３０を起こして、図４２（ｄ）及び図４３（ｄ）に示す起立姿勢にすると、図２４に示すように支持枠体２３０の左側腕部２３１Ａ及び右側腕部２３１Ｂの係止爪２３９が固定ベース２１０の係止孔２１６に係止する。

【０２０１】

このように案内レール２４８に沿って支持ピン２４２の車輪２４６が外側に移動することで、この支持ピン２４２のピン頭２４２ａが切欠孔２３８から引き出され、水平姿勢の支持枠体２３０が起立可能な状態となる。

【０２０２】

なお、上述した取付台２００が本発明における変位支持手段、隠蔽露出変更支持手段、変位保護手段に相当し、上述した支持枠体２３０が本発明における第１支持部、被取付体に相当し、上述したリンク枠体２２０が本発明における第２支持部に相当し、上述した固定ベース２１０が本発明における第３支持部に相当し、上述した姿勢変更機構部２４０が本発明における姿勢変更手段に相当し、上述した表向き傾斜姿勢保持部２４１が本発明における表向き傾斜姿勢保持手段に相当し、上述した延出部２３５が本発明における破壊部品落下防止手段に相当し、上述した延出部２３５及び支持用延出片２３７が本発明における載置部に相当する。

【０２０３】

ここで、実施例２の取付台２００への主制御装置７０の取り付け方法について説明する。

【０２０４】

図３０に示すように支持枠体２３０を引き出した状態とし、図２３，図２８に示すように、主制御装置７０のケース上７１側を下面にして当該主制御装置７０を支持枠体２３０の上部からその両腕部の間に挿入するように載置する。図３０に示すように、支持枠体２３０は、その横長枠部２３４の延出部２３５と、その両腕部の支持用延出片２３７とが、主制御装置７０の上端部分の少なくとも一部と、主制御装置７０の両端部分とを支持する。

【０２０５】

そして、図２８に示すように進出位置にある支持枠体２３０を、図２９に示すようにその裏面を表向けるように姿勢変更する。

【０２０６】

図２９に示すように表向き傾斜姿勢の支持枠体２３０に対して、そのピン挿入孔１３６に二重かしめピン１９３を挿入して基板ケース７４の別被封止部１９２に係止させるとともに、支持枠体２３０の右側の腕部の貫通孔を介して基板ケース７４にタッピンネジ１９

７を螺入することで、主制御装置７０を支持枠体２３０にかしめ固定する。また、表向き傾斜姿勢の主制御装置７０に対して、ケーブル（図示省略）の接続を行うので、接続作業がやり易い。

【０２０７】

そして、図２９に示すように支持枠体２３０の裏面を表向けた姿勢状態から、図２８に示すように支持枠体２３０の裏面を下向きに戻す。

【０２０８】

そして、リンク枠体２２０を伸張状態とした傾倒姿勢（図２８参照）から、図２６に示すようにリンク枠体２２０の折り畳み途中状態を経て、図２５に示すようにリンク枠体２２０を折り畳み状態での起立姿勢とすることで、図２８に示すように進出位置にある支持枠体２３０を図２５に示すように水平姿勢のまま本体１１の内部に位置させる。

【０２０９】

そして、図２５に示す水平姿勢の支持枠体２３０を、図２４に示すように、起立姿勢にすると、支持枠体２３０の左側腕部２３１Ａ及び右側腕部２３１Ｂの係止爪２３９が固定ベース２１０の係止孔２１６に係止する。

【０２１０】

こうすることで、取付台２００への主制御装置７０の取り付けが完了する。

【０２１１】

次に、実施例２の取付台２００に取り付けた主制御装置７０の点検方法について説明する。

【０２１２】

図２４に示す収納支持状態の取付台２００に対して、支持枠体２３０の左側腕部２３１Ａ及び右側腕部２３１Ｂの係止爪２３９を内向き方向（主制御装置７０の方に向ける）に押下して、係止爪２３９の固定ベース２１０の係止孔２１６への係止が解除された状態で、図２５に示すように支持枠体２３０を水平姿勢にする。

【０２１３】

そして、図２５に示す支持枠体２３０を、図２６に示すようにリンク枠体２２０の折り畳み途中状態を経て、図２８に示すようにリンク枠体２２０を伸張状態とした傾倒姿勢とすることで、支持枠体２３０を本体１１から引き出した進出位置にする。図２３に示すように、支持枠体２３０を引き出した状態において、主制御装置７０の裏面側を目視点検することができる。なおこの状態で、主制御装置７０を下から見て、主制御装置７０の前面側を目視確認してもよい。また、支持枠体２３０は透明であるため、主制御装置７０の天面や右側面や左側面も目視確認することができる。

【０２１４】

続いて、図２８に示すように進出位置にある支持枠体２３０を、図２９に示すようにその裏面を表向けるように姿勢変更する。図２９に示すように、表向き傾斜姿勢とした主制御装置７０の前面側を目視確認することができる。

【０２１５】

こうすることで、取付台２００への主制御装置７０の点検が完了する。

【０２１６】

なお、主制御装置７０を元に戻す場合には、当該点検方法の逆の手順を行えばよい。つまり、表向き傾斜姿勢とした支持枠体２３０を水平姿勢に戻して（図２８参照）、支持枠体２３０を進出位置（図２８参照）から収容位置（図２５参照）にスライドさせることで、リンク枠体２２０を伸張状態とした傾倒姿勢（図２８参照）から、図２６に示すようにリンク枠体２２０の折り畳み途中状態を経て、図２５に示すようにリンク枠体２２０を折り畳み状態での起立姿勢となり、支持枠体２３０を起こすことで、図２４に示す収納支持状態に戻すことができる。

【０２１７】

次に、実施例２の取付台２００に取り付けた主制御装置７０の取り外し方法について説明する。

【０２１８】
前述の点検方法で説明したように、図２４に示す収納支持状態の取付台２００から、図２９に示すように、支持枠体２３０を表向き傾斜姿勢にする。
【０２１９】
図２９に示す表向き傾斜姿勢の支持枠体２３０からタッピンネジ１９７を取り外す。
【０２２０】
次に、図２９に示す表向き傾斜姿勢の支持枠体２３０を、図２３，図２８に示すように水平姿勢に戻す。図１８（ａ）に示すように、二重かしめピン１９３が挿入された別被封止部１９２の取付解除用被切断部１９６を切断（破壊）して、図１８（ｂ）に示すように、この切断された別被封止部１９２を回転（９０度回転）させ、図１８（ｃ）に示すように、切断された別被封止部１９２を取り外し、図１８（ｄ）に示すように、二重かしめピン１９３をピン挿入孔１３６から抜出方向に抜き出す。
【０２２１】
なお、取付解除用被切断部１９６の破壊痕跡を見ることによって、「Ｂ」と表記された箇所の別被封止部１９２が破壊されたことがわかり、ホール関係者などはスロットマシンごとにかしめ履歴データを所有しており、対象スロットマシンのかしめ履歴データと実機のかしめ状態とを比較することでその破壊を自ら行ったものか、不正に行われたものかがわかる。
【０２２２】
上述したように、主制御装置７０の支持枠体２３０へのかしめ固定が解除されたので、支持枠体２３０を図２８に示すように水平姿勢にして、主制御装置７０を支持枠体２３０から上方向に取り外す。なお、取り外された二重かしめピン１９３は、再使用することができる。
【０２２３】
こうすることで、取付台２００からの主制御装置７０の取り外しが完了する。
【０２２４】
上述したように、本実施例２のスロットマシン１０によれば、取付台２００は、主制御装置７０を支持する支持枠体２３０と、この支持枠体２３０が取り外し不可に連結されて支持枠体２３０を収めた収容位置とこの収容位置から回動した回動位置とに当該支持枠体２３０を回動自在に支持するものであって起立姿勢で折り畳み状態となり傾倒姿勢で伸張状態となるリンク枠体２２０と、このリンク枠体２２０が取り外し不可に連結されて当該リンク枠体２２０を起立姿勢と傾倒姿勢とに回動自在に支持するとともに本体１１の内部奥側で且つリールユニット２５の上方箇所に固定される固定ベース２１０とを備え、主制御装置７０を支持枠体２３０に取り外し不可に封印する別封止部材１９０を備えている。したがって、別封止部材１９０によって主制御装置７０が支持枠体２３０に取り外し不可に封印されているので、主制御装置７０を支持枠体２３０から取り外すことを低減できる。また、支持枠体２３０、リンク枠体２２０及び固定ベース２１０が取り外し不可に連結されているので、支持枠体２３０、リンク枠体２２０及び固定ベース２１０を取り外したりすることを低減できる。その結果、主制御装置７０だけを取り外したり、主制御装置７０を支持枠体２３０やリンク枠体２２０ごとを取り外したりして主制御装置７０に不正を施して戻したり、主制御装置７０を取り外して別の不正な主制御装置７０に交換したりすることを低減でき、主制御装置７０への不正対策に優れる。また、取付台２００による主制御装置７０の引出支持状態を好適に実現することができる。
【０２２５】
また、支持枠体２３０は、起立姿勢のリンク枠体２２０の収容位置から回動して水平姿勢となり、リンク枠体２２０は、支持枠体２３０が取り外し不可で当該支持枠体２３０が回動自在に連結された第１回動連結部２５０を先端側に備えた第１腕部材２２１と、この第１腕部材２２１の後端側に取り外し不可で当該第１腕部材２２１が回動自在に連結された第２回動連結部２６０を先端側に備えた第２腕部材２２２とを備え、この第２腕部材２２２の後端側が固定ベース２１０に対して回動自在に連結支持されており、側面視で第１

腕部材２２１と第２腕部材２２２とを折り畳んで重なるようにした起立姿勢から、第１腕部材２２１と第２腕部材２２２とを伸張した水平姿勢となり、取付台２００は、第１腕部材２２１と第２腕部材２２２とを伸張した水平姿勢にして支持枠体２３０を本体１１の開口部１１ａから引き出した水平状態で保持する水平保持部２２５を備え、主制御装置７０は、支持枠体２３０の水平状態において別封止部材１９０による封印を解除するために破壊される取付解除用被切断部１９６を備え、支持枠体２３０は、取付解除用被切断部１９６の破壊によって封印が解除された主制御装置７０を支持する。したがって、主制御装置７０を支持する支持枠体２３０を起立姿勢のリンク枠体２２０の収容位置から回動して水平姿勢とし、側面視で第１腕部材２２１と第２腕部材２２２とが折り畳んで重なるようにした起立姿勢から、第１腕部材２２１と第２腕部材２２２とを伸張した水平姿勢とし、支持枠体２３０を本体１１の開口部１１ａから引き出して水平状態で保持することができ、支持枠体２３０の水平状態において取付解除用被切断部１９６の破壊作業つまり封印解除作業がし易い。特に、取付解除用被切断部１９６は、手前側に配設されているので作業性がよい。また、力を入れて封印解除するような場合でも、支持枠体２３０の水平状態が水平保持部２２５によって保持されるので、下方のリールユニット２５を保護することができる。

【０２２６】

また、取付台２００は、主制御装置７０を支持する支持枠体２３０と、この支持枠体２３０が取り外し不可に連結されて支持枠体２３０を収めた収容位置とこの収容位置から回動した回動位置とに当該支持枠体２３０を回動自在に支持するものであって起立姿勢で折り畳み状態となり傾倒姿勢で伸張状態となるリンク枠体２２０と、このリンク枠体２２０が取り外し不可に連結されて当該リンク枠体２２０を起立姿勢と傾倒姿勢とに回動自在に支持するとともに本体１１の内部奥側で且つリールユニット２５の上方箇所に固定される固定ベース２１０とを備え、主制御装置７０を支持枠体２３０に取り外し不可に封印する別封止部材１９０を備え、姿勢変更機構部２４０は、主制御装置７０を本体１１の開口部１１ａから引き出した引出支持状態でその裏面を表向けるように姿勢変更した表向き傾斜姿勢で保持する表向き傾斜姿勢保持部２４１を備えている。したがって、別封止部材１９０によって主制御装置７０が支持枠体２３０に取り外し不可に封印されているので、主制御装置７０を支持枠体２３０から取り外すことを低減できる。また、支持枠体２３０、リンク枠体２２０及び固定ベース２１０が取り外し不可に連結されているので、支持枠体２３０、リンク枠体２２０及び固定ベース２１０を取り外したりすることを低減できる。その結果、主制御装置７０だけを取り外したり、主制御装置７０を支持枠体２３０やリンク枠体２２０ごとを取り外したりして主制御装置７０に不正を施して戻したり、主制御装置７０を取り外して別の不正な主制御装置７０に交換したりすることを低減でき、主制御装置７０への不正対策に優れる。また、取付台２００による主制御装置７０の引出支持状態を好適に実現することができる。

【０２２７】

また、表向き傾斜姿勢保持部２４１は、主制御装置７０を本体１１の開口部１１ａから引き出した引出支持状態でその裏面を表向けるように姿勢変更した表向き傾斜姿勢で保持するので、作業者（例えば、メーカー作業者、ホール関係者など）は、表向き傾斜姿勢で保持された主制御装置７０の裏面に正対してこの主制御装置７０の点検及び封印等の作業を行うことができる。

【０２２８】

特に、支持枠体２３０とリンク枠体２２０との連結構造としては、支持枠体２３０での左側腕部２３１Ａ，右側腕部２３１Ｂの先端側に近い側の箇所であって両外側からヒンジ用圧入ピン２５１を圧入して支持枠体２３０をリンク枠体２２０に対して回動自在に固定しているので、本体１１の側面視で上記連結箇所が当該本体１１の側面で覆われて隠れるため、かかる連結作業を解除するための作業スペースが少なく、さらに取り外し不可とすることができる。よって、支持枠体２３０、リンク枠体２２０及び固定ベース２１０ごと取り外した状態にすることで、かかる連結箇所の解除作業を行うことができるため、不正

抑止効果がある。

【０２２９】

また、支持枠体２３０は、起立姿勢のリンク枠体２２０の収容位置から回動して水平姿勢となり、リンク枠体２２０は、支持枠体２３０が取り外し不可で当該支持枠体２３０が回動自在に連結された第１回動連結部２５０を先端側に備えた第１腕部材２２１と、この第１腕部材２２１の後端側に取り外し不可で当該第１腕部材２２１が回動自在に連結された第２回動連結部２６０を先端側に備えた第２腕部材２２２とを備え、この第２腕部材２２２の後端側が固定ベース２１０に対して回動自在に連結支持されており、側面視で第１腕部材２２１と第２腕部材２２２とが折り畳んで重なるようにした起立姿勢から、第１腕部材２２１と第２腕部材２２２とを伸張した水平姿勢となり、リンク枠体２２０は、第１腕部材２２１と第２腕部材２２２とを伸張した水平姿勢にして支持枠体２３０を本体１１の開口部１１ａから引き出した水平状態で保持する水平保持部２２５と、この水平保持部２２５で水平状態で保持された支持枠体２３０をその裏面を表向けるように姿勢変更した表向き傾斜姿勢で保持する表向き傾斜姿勢保持部２４１と、を備えている。したがって、主制御装置７０を支持する支持枠体２３０を起立姿勢のリンク枠体２２０の収容位置から回動して水平姿勢とし、側面視で第１腕部材２２１と第２腕部材２２２とが折り畳んで重なるようにした起立姿勢から、第１腕部材２２１と第２腕部材２２２とを伸張した水平姿勢とし、支持枠体２３０を本体１１の開口部１１ａから引き出して水平状態で保持することができ、主制御装置７０の前面の点検及び封印等の作業を容易に行うことができ、主制御装置７０の前面のへの不正な基板の取り付けが発見し易い。また、水平保持部２２５で水平状態で保持された支持枠体２３０をその裏面を表向けるように姿勢変更した表向き傾斜姿勢で保持するので、主制御装置７０の裏面の点検及び封印等の作業を容易に行うことができ、主制御装置７０の裏面への不正な基板の取り付けが発見し易い。

【０２３０】

また、前面側に開口部１１ａを有する本体１１と、この本体１１の前面側で開閉可能であって閉状態で開口部１１ａを閉塞する前面扉１２と、遊技に関する制御を行う主制御基板７３を基板ケース７４の内部に収容した主制御装置７０と、この主制御装置７０が取り付けられる支持枠体２３０と、主制御装置７０を支持枠体２３０に取り外し不可に封印する別封止部材１９０と、主制御装置７０を封印する封止部材１５０と、主制御装置７０に設けられた、別封止部材１９０による封印を解除するために破壊される取付解除用被切断部１９６及び封止部材１５０による封印を解除するために破壊されるケース封止解除用被切断部１６６と、本体１１の開口視で取付解除用被切断部１９６及びケース封止解除用被切断部１６６が見えないように主制御装置７０を本体１１の内部奥側箇所に起立姿勢で収納支持する隠蔽収納支持状態と、取付解除用被切断部１９６を露出させるように主制御装置７０を傾倒姿勢にして本体１１の開口部１１ａから引き出した状態で支持する露出引出支持状態とに変位する取付台２００と、を備えている。

【０２３１】

したがって、取付台２００による主制御装置７０の隠蔽収納支持状態では、主制御装置７０が本体１１の内部奥側箇所に起立姿勢で収納支持されているので、本体１１内部奥側の主制御装置７０に対して不正行為をし難くできるだけでなく、たとえ本体１１の前面扉１２を開けた状態としても本体１１の開口視で取付解除用被切断部１９６及びケース封止解除用被切断部１６６が見えないので、取付解除用被切断部１９６及びケース封止解除用被切断部１６６に直接にアクセスすることができず、取付解除用被切断部１９６及びケース封止解除用被切断部１６６を不正に破壊することが困難であり、主制御装置７０への不正行為がし辛く、主制御装置７０に対する不正行為を低減できる。

【０２３２】

また、取付台２００による主制御装置７０の露出引出支持状態では、取付解除用被切断部１９６及びケース封止解除用被切断部１６６を露出させるように主制御装置７０を傾倒姿勢にして本体１１の開口から引き出した状態で支持するので、正当な作業者（例えば、ホール関係者や製造会社の技術者など）は、本体１１内部の暗がりの中で主制御装置７０

を確認するのではなく、本体１１から引き出した状態でしかも主制御装置７０が視認可能であるので、主制御装置７０の点検、封印及びその解除等の作業を容易に行うことができるし、主制御装置７０の前面または裏面に不正な基板が付けられたとしてもそれを容易で確実に発見することができる。また、不正行為者が本体１１の前面扉１２を開状態にして、主制御装置７０を本体１１の開口から引き出した状態（露出引出支持状態）で不正行為を施そうとしても、それらの行為が目立つため、不正行為がし辛く、不正行為を低減することができる。その結果、主制御装置７０（例えば、制御装置）の点検、封印及びその解除等の作業が容易であり、且つ、主制御装置７０に対する不正行為を低減できる遊技機を提供することができる。

【０２３３】

また、取付解除用被切断部１９６は、主制御装置７０の隠蔽収納支持状態において主制御装置７０の裏面側上部箇所に設けられており、取付台２００は、主制御装置７０を支持する支持枠体２３０と、この支持枠体２３０が取り外し不可に連結されて支持枠体２３０を収めた収容位置とこの収容位置から回動した回動位置とに支持枠体２３０を回動自在に支持するものであって起立姿勢で折り畳み状態となり傾倒姿勢で伸張状態となるリンク枠体２２０と、このリンク枠体２２０が取り外し不可に連結されてリンク枠体２２０を起立姿勢と傾倒姿勢とに側面視下辺側を回動軸として回動自在に支持するとともに本体１１の内部奥側箇所に固定される固定ベース２１０とを備えている。

【０２３４】

したがって、取付解除用被切断部１９６は、主制御装置７０の露出引出支持状態において、手前側上面箇所に位置しており、この取付解除用被切断部１９６に対して真上から破壊作業を行うことができ、封印解除作業がし易い。

【０２３５】

また、別封止部材１９０は、主制御装置７０を被取付部材に取り外し不可に封印するものであり、主制御装置７０を支持枠体２３０から取り外すことを低減できる。また、支持枠体２３０、リンク枠体２２０及び固定ベース２１０が取り外し不可に連結されているので、支持枠体２３０、リンク枠体２２０及び固定ベース２１０を取り外したりすることを低減できる。つまり、主制御装置７０だけを取り外したり、主制御装置７０を支持枠体２３０及びリンク枠体２２０ごとを取り外したりして主制御装置７０に不正を施して戻したり、主制御装置７０を取り外して別の不正な主制御装置７０に交換したりすることを低減でき、主制御装置７０への不正対策に優れる。

【０２３６】

また、支持枠体２３０は、主制御装置７０の露出引出支持状態において取付解除用被切断部１９６及びケース封止解除用被切断部１６６の下方箇所に、その破壊によって分離された破壊部品の落下を防止する延出部２３５を備えているので、封印解除した際にその破壊部品の落下が防止され、本体１１内部に破壊部品が紛れ込んで見失ってしまうことや、本体１１内部に入った破壊部品で当該本体１１の部品等が損傷することも低減できる。

【０２３７】

また、前面側に開口部１１ａを有する本体１１と、この本体１１の前面側で開閉可能であって閉状態で開口部１１ａを閉塞する前面扉１２と、複数の図柄を変動表示する、本体１１の内部に設けられたリールユニット２５と、本体１１の内部で且つリールユニット２５の上方箇所に収納される、遊技に関する制御を行う主制御装置７０と、本体１１の内部奥側で且つリールユニット２５の上方箇所に起立姿勢で収納された収納状態（図３，図６参照）と、支持枠体２３０の先端側部分がリールユニット２５よりも前側に位置するように本体１１の開口部１１ａから引き出された引出状態（図５，図８参照）とに変位する取付台２００と、を備えているので、取付台２００の収納状態では、本体１１の内部奥側で且つリールユニット２５の上方箇所に起立姿勢で収納支持されているので、リールユニット２５の上方スペースを確保でき、リールユニット２５の交換作業の邪魔にならない。

【０２３８】

また、取付台２００の引出状態では、その少なくとも一部がリールユニット２５よりも

前側に位置するように本体１１の開口部１１ａ側に引き出された状態となっているので、装着の際に誤って主制御装置７０を落下させたとしても、主制御装置７０が引出状態の取付台２００に当るだけで、この引出状態の取付台２００の下方のリールユニット２５に当らないので、リールユニット２５が損傷することが低減でき、リールユニット２５を保護することができる。

【０２３９】

その結果、主制御装置７０の誤落下によるリールユニット２５の損傷を低減でき、リールユニット２５の交換作業を容易に行うことができる遊技機を提供することができる。

【０２４０】

また、取付台２００による引出支持状態の支持枠体２３０の正面視で左側部分の一部が開状態の前面扉１２の内側右辺箇所（開閉軸Ｊ１に近い辺の一部箇所）に当接することで、前面扉１２を開状態に維持するので、作業者は前面扉１２を開状態に維持するように持っておく必要がなく、主制御装置７０の着脱作業に集中できる。また、主制御装置７０の着脱作業中に前面扉１２が勢いよく閉まろうとして部品や装置が損傷することを低減できる。

【０２４１】

また、前面側に開口部１１ａを有する本体１１と、この本体１１の前面側で開閉可能であって閉状態で開口部１１ａを閉塞する前面扉１２と、複数の図柄を変動表示する、本体１１内部に設けられたリールユニット２５と、遊技に関する制御を行う主制御装置７０と、この主制御装置７０が取り付けられる支持枠体２３０と、主制御装置７０を本体１１の内部奥側で且つリールユニット２５の上方箇所に起立姿勢で収納するように支持枠体２３０を支持する収納支持状態と、支持枠体２３０の少なくとも一部がリールユニット２５よりも前側に位置するように当該支持枠体２３０を本体１１の開口部１１ａ側に引き出して支持する引出支持状態と、に変位する取付台２００と、を備え、支持枠体２３０は、引出支持状態において主制御装置７０が載置される延出部２３５及び支持用延出片２３７を備えているので、取付台２００による支持枠体２３０の収納支持状態では、主制御装置７０が本体１１の内部奥側で且つリールユニット２５の上方箇所に起立姿勢で収納支持されているので、不正行為がし辛く、不正行為を低減できる。また、この収納支持状態では、主制御装置７０が本体１１の内部奥側で起立姿勢で収納支持されているので、リールユニット２５の上方スペースを確保でき、リールユニット２５の交換作業の邪魔にならない。

【０２４２】

また、取付台２００による支持枠体２３０の引出支持状態では、支持枠体２３０の先端側がリールユニット２５よりも前側に位置するように当該支持枠体２３０を本体１１の開口部１１ａ側に引き出された状態となっており、主制御装置７０は、この引出支持状態の支持枠体２３０の延出部２３５及び支持用延出片２３７に載置されて取り付けられるので、主制御装置７０の支持枠体２３０への装着がし易い。また、装着の際に誤って主制御装置７０を落下させたとしても、主制御装置７０が引出支持状態の支持枠体２３０に当るだけで、この引出支持状態の支持枠体２３０の下方のリールユニット２５に当らないので、リールユニット２５が損傷することが低減でき、リールユニット２５を保護することができる。また、取付台２００及びこの取付台２００による引出支持状態の支持枠体２３０を、リールユニット２５を保護する機構として使用することができるし、主制御装置７０の落下防止機構としても使用することができる。

【０２４３】

また、主制御装置７０を取り付ける際には、引き出されて水平姿勢の支持枠体２３０の延出部２３５及び支持用延出片２３７に上方から主制御装置７０を載置して取り付け、主制御装置７０を取り外す際には、引き出されて水平姿勢の支持枠体２３０の延出部２３５及び支持用延出片２３７の上方に主制御装置７０を引き上げて取り外すので、主制御装置７０をリールユニット２５に接触させることがなく、当該リールユニット２５を損傷させることが防止できる。

【０２４４】

また、本体１１内部の暗がりの中で主制御装置７０を確認するのではなく、取付台２００によって本体１１から引き出した引出支持状態で主制御装置７０を視認できるので、主制御装置７０の点検及び封印等の作業を容易に行うことができるし、主制御装置７０の前面または裏面に不正な基板が付けられたとしてもそれを容易で確実に発見することができる。また、不正行為者が扉を開状態にして、主制御装置７０を本体１１の開口から引き出した状態で不正行為を施そうとしても、それらの行為が目立つため、不正行為がし辛く、不正行為を低減することができる。

【０２４５】

その結果、主制御装置７０の誤落下や接触によるリールユニット２５の損傷を低減でき、リールユニット２５の交換作業を容易に行うことができ、且つ、主制御装置７０に対する不正行為を低減できる遊技機を提供することができる。

【０２４６】

また、取付台２００による引出支持状態の支持枠体２３０は、主制御装置７０が延出部２３５及び支持用延出片２３７から持ち上げて取り外され、主制御装置７０が延出部２３５及び支持用延出片２３７に載置して取り付けられるので、主制御装置７０の着脱の際に、リールユニット２５に当ることが低減できる。

【０２４７】

また、延出部２３５及び支持用延出片２３７は、引出支持状態の支持枠体２３０の下部側に形成されて、水平姿勢の主制御装置７０の下面側での両端部分と手前端部分を支持する透明支持部であるので、主制御装置７０での当該延出部２３５及び支持用延出片２３７と対向する部分も目視確認することができ、かかる箇所に不正な基板（部品など）を配設することを低減できる。

【実施例３】

【０２４８】

次に、実施例３のスロットマシン１０の基板ケース７４について図４７～図５４を用いて説明する。

【０２４９】

図４７は、前面扉１２を取り外した状態での実施例３のスロットマシン１０の内部を示す図である。図４８は、実施例３の取付台１００の引出姿勢規制部３００の分解斜視図である。図４９（ａ）は、主制御装置７０が収納支持状態である実施例３の取付台１００を示す斜視図、図４９（ｂ）は、回動枠体１２０を傾けた状態の実施例３の取付台１００を示す斜視図である。図５０（ａ）は、回動枠体１２０を水平姿勢に傾倒した状態の実施例３の取付台１００を示す斜視図、図５０（ｂ）は、水平姿勢の回動枠体１２０からスライド枠体１３０を引き出した状態の実施例３の取付台１００を示す斜視図である。図５１は、引き出したスライド枠体１３０の裏面を表向けるように反転傾斜姿勢とした状態の実施例３の取付台１００を示す斜視図である。図５２（ａ）は、主制御装置７０が収納支持状態である実施例３の取付台１００を示す側面図、図５２（ｂ）は、回動枠体１２０を傾けた状態の実施例３の取付台１００を示す側面図である。図５３（ａ）は、回動枠体１２０を水平姿勢に傾倒した状態の実施例３の取付台１００を示す側面図、図５３（ｂ）は、水平姿勢の回動枠体１２０からスライド枠体１３０を引き出した状態の実施例３の取付台１００を示す側面図である。図５４は、引き出したスライド枠体１３０の裏面を表向けるように反転傾斜姿勢とした状態の実施例３の取付台１００を示す側面図である。

【０２５０】

実施例３の取付台１００は、図４７及び図４８に示すように、引出姿勢規制部３００を備えている点が、前述の実施例１と異なっている。よって、前述の実施例１と異なる構成について以下に詳細に説明することとし、実施例１と同様の構成についてはここでの説明を省略する。

【０２５１】

取付台１００は、図４７及び図４８に示すように、収納支持状態（図４９（ａ）及び図５２（ａ）参照）から引出支持状態（図５０（ｂ）及び図５３（ｂ）参照）に変位する際

の主制御装置７０の引き出し姿勢を規制する引出姿勢規制部３００を備えている。

【０２５２】

この引出姿勢規制部３００は、起立姿勢の主制御装置７０（図４９（ａ）及び図５２（ａ）参照）の下辺側を回動軸として当該主制御装置７０を回動させた傾倒姿勢（図５０（ａ）及び図５３（ａ）参照）とした後に、当該傾倒姿勢の主制御装置７０を引き出すように規制するものである。

【０２５３】

具体的には、引出姿勢規制部３００は、固定ベース１１０の正面視で両端箇所から前方にそれぞれ延出して、図５０（ａ）に示す傾倒姿勢の回動枠体１２０の両側面に側面視でそれぞれ重なるように当該固定ベース１１０に例えばネジ３０１で（図４８参照）固定された一対の延出固定部材３１０を備えている。

【０２５４】

この一対の延出固定部材３１０は、スライド枠体１３０が収納位置に収められた状態（図４９（ａ）及び図５２（ａ）参照）において回動枠体１２０の起立姿勢と傾倒姿勢との回動を許容する回動許容部３１１（円弧状の切り欠き孔３１２）と、回動枠体１２０が傾倒姿勢である状態（図５０（ａ）及び図５３（ａ）参照）においてスライド枠体１３０の収容位置と進出位置との進退を許容する進退許容部３１３（直線状の切り欠き孔３１４）とをそれぞれ備えている。なお、図４８に示すように、直線状の切り欠き孔３１４と円弧状の切り欠き孔３１２とは連通している。

【０２５５】

また、この一対の延出固定部材３１０は、図４７に示すように、本体１１内部の両側壁面の近傍に位置している。

【０２５６】

スライド枠体１３０は、実施例１で前述したように、その両側面箇所にかしめ穴１３２が形成されている（図４８参照）。また、回動枠体１２０は、実施例１で前述したように、その両側面箇所に、スライド枠体１３０の進退方向に延びる直線状の水平スリット部１２７ａが形成されている（図４８参照）。

【０２５７】

レール用圧入ピン１２８を、延出固定部材３１０の切り欠き孔と、回動枠体１２０の直線状の水平スリット部１２７ａとにその順番に挿入した状態でスライド枠体１３０のかしめ穴１３２に圧入することで、スライド枠体１３０が回動枠体１２０に取り外し不可に連結されている。

【０２５８】

図４７に示すように、レール用圧入ピン１２８の長さＬ１は、延出固定部材３１０と本体１１の内面との距離Ｌ２よりも長くなっている。

【０２５９】

また、一対の延出固定部材３１０は、傾倒姿勢の回動枠体１２０からスライド枠体１３０が進出位置に進出された状態においてスライド枠体１３０の裏面を表向けることを許容する表向け許容部３１５（表向け許容切り欠き孔３１６）をそれぞれ備えている。

【０２６０】

また、一対の延出固定部材３１０は、図４７に示すように、本体１１の内部の側壁面の近傍に位置しており、延出固定部材３１０間の間隔がリールユニット２５の幅よりも広いため、リールユニット２５の上方スペースを実質的にも確保でき、リールユニット２５の交換作業の邪魔にならない。

【０２６１】

なお、上述した引出姿勢規制部３００が本発明における引出姿勢規制手段に相当する。

【０２６２】

上述したように、本実施例３のスロットマシン１０によれば、取付台１００による主制御装置７０の収納支持状態では、主制御装置７０が本体１１の内部奥側で且つリールユニット２５の上方箇所に起立姿勢で収納支持されているので、不正行為がし辛く、不正行為

を低減できる。また、この収納支持状態では、主制御装置７０が本体１１の内部奥側で起立姿勢で収納支持されているので、リールユニット２５の上方スペースを確保でき、リールユニット２５の交換作業の邪魔にならない。

【０２６３】

また、取付台１００による主制御装置７０の引出支持状態では、主制御装置７０をその前面及び裏面が視認可能に、本体１１の開口部１１ａから引き出した傾倒姿勢で支持するので、本体１１内部の暗がりの中で主制御装置７０を確認するのではなく、本体１１から引き出した傾倒姿勢でしかも主制御装置７０の前面及び裏面が視認可能であるので、主制御装置７０の点検及び封印等の作業を容易に行うことができるし、主制御装置７０の前面または裏面に不正な基板が付けられたとしてもそれを容易で確実に発見することができる。また、不正行為者が前面扉１３を開状態にして、主制御装置７０を本体１１の開口部１１ａから引き出した状態で不正行為を施そうとしても、それらの行為が目立つため、不正行為がし辛く、不正行為を低減することができる。

【０２６４】

また、引出姿勢規制部３００は、収納支持状態（図４９（ａ）及び図５２（ａ）参照）から引出支持状態（図５０（ｂ）及び図５３（ｂ）参照）に変位する際の主制御装置７０の引き出し姿勢を規制するので、主制御装置７０の引き出しの際に本体１１内部の他の部品３２０（例えば、図５２及び図５４に破線で示すような筐体内部の天面箇所に配設された部品３２０）などと接触させることを防止できる。例えば、誰が作業しても主制御装置７０を規制された引き出し姿勢で引き出しすることができ、作業者による主制御装置７０の引き出し方の違いで主制御装置７０を本体１１内部の他の部品３２０などと接触させてしまうという問題を解消することができる。また、引出姿勢規制部３００による主制御装置７０の引き出し姿勢の規制に従って当該主制御装置７０を引き出せばよいので、初めての作業者での戸惑いなくスムーズに主制御装置７０を引き出すことができる。

【０２６５】

その結果、リールユニット２５の交換作業の邪魔にならず、主制御装置７０の点検及び封印等の作業が容易であり、且つ、主制御装置７０に対する不正行為を低減でき、主制御装置７０の引き出しの際に本体１１内部の他の部品３２０等との接触を防止できる遊技機を提供することができる。

【０２６６】

また、引出姿勢規制部３００は、起立姿勢の主制御装置７０の下辺側を回動軸として当該主制御装置７０を回動させた傾倒姿勢とした後に、当該傾倒姿勢の主制御装置７０を引き出すように規制するので、主制御装置７０が傾倒姿勢以外の禁止姿勢（例えば、傾斜姿勢や起立姿勢）で引き出されることを規制でき、この禁止姿勢での引き出しによる本体１１内部の他の部品３２０（例えば、図５２及び図５４に破線で示す筐体内部の天面箇所に配設された部品３２０）などへの接触を防止できる。

【０２６７】

また、取付台１００は、スライド枠体１３０、回動枠体１２０及び固定ベース１１０を備えている。スライド枠体１３０は、主制御装置７０を支持する。回動枠体１２０は、スライド枠体１３０が取り外し不可に連結されており、スライド枠体１３０を収めた収容位置とこの収容位置から進出した進出位置とに当該スライド枠体１３０を進退自在に支持する。固定ベース１１０は、回動枠体１２０が取り外し不可に連結されており、回動枠体１２０を起立姿勢と傾倒姿勢とに回動自在に支持するとともに、本体１１の内部奥側で且つリールユニット２５の上方箇所に固定される。別封止部材１９０は、主制御装置７０をスライド枠体１３０に取り外し不可に封印する。したがって、別封止部材１９０によって主制御装置７０がスライド枠体１３０に取り外し不可に封印されているので、主制御装置７０をスライド枠体１３０から取り外すことを低減できる。また、スライド枠体１３０、回動枠体１２０及び固定ベース１１０が取り外し不可に連結されているので、スライド枠体１３０、回動枠体１２０及び固定ベース１１０を取り外したりすることを低減できる。その結果、主制御装置７０だけを取り外したり、主制御装置７０を第１，回動枠体１２０ご

とを取り外したりして主制御装置７０に不正を施して戻したり、主制御装置７０を取り外して別の不正な主制御装置７０に交換したりすることを低減でき、主制御装置７０への不正対策に優れる。また、取付台１００による主制御装置７０の引出支持状態を好適に実現することができる。

【０２６８】

また、引出姿勢規制部３００は、固定ベース１１０の正面視で両端箇所から前方にそれぞれ延出して傾倒姿勢の回動枠体１２０の両側面に側面視でそれぞれ重なるように当該固定ベース１１０に固定された一対の延出固定部材３１０を備えている。この一対の延出固定部材３１０は、スライド枠体１３０が収納位置に収められた状態において回動枠体１２０の起立姿勢と傾倒姿勢との回動を許容する回動許容部３１１と、回動枠体１２０が傾倒姿勢である状態においてスライド枠体１３０の収容位置と進出位置との進退を許容する進退許容部３１３とをそれぞれ備えている。また、一対の延出固定部材３１０は、本体１１内部の両側壁面の近傍に位置しているので、スライド枠体１３０と回動枠体１２０との連結箇所に不正にアクセスすることを困難にでき、かかる連結を不正に解除することを低減できる。

【０２６９】

また、延出固定部材３１０の回動許容部３１１は、回動枠体１２０の回動を許容するべく円弧状の切り欠き孔３１２となっている。延出固定部材３１０の進退許容部３１３は、円弧状の切り欠き孔３１２に連通されて、スライド枠体１３０の進退を許容するべく直線状の切り欠き孔３１４となっている。スライド枠体１３０は、その両側面箇所に、かしめ穴が形成されている。回動枠体１２０は、その両側面箇所に、スライド枠体１３０の進退方向に延びる直線状切り欠き孔が形成されている。圧入ピンを、延出固定部材３１０の切り欠き孔と、回動枠体１２０の直線状切り欠き孔とにその順番に挿入した状態でスライド枠体１３０のかしめ穴に圧入することで、スライド枠体１３０が回動枠体１２０に取り外し不可に連結されている。圧入ピンの長さは、延出固定部材３１０と本体１１の内面との距離よりも長くなっているので、圧入ピンを不正に抜こうとしても、そのピン頭が本体１１の内面に当り抜くことができない。よって、圧入ピンの不正な抜き取りを低減できる。

【０２７０】

また、姿勢変更機構部１４０は、主制御装置７０を本体１１の開口部１１ａから引き出した引出支持状態でその裏面を表向けるように姿勢変更する。一対の延出固定部材３１０は、傾倒姿勢の回動枠体１２０からスライド枠体１３０が進出位置に進出された状態においてスライド枠体１３０の裏面を表向けることを許容する表向け許容部３１５をそれぞれ備えている。したがって、本体１１から引き出した状態で主制御装置７０をその裏面を表向けるように姿勢変更できるので、主制御装置７０の前面及び裏面について作業者（例えば、メーカー作業者、ホール関係者など）の姿勢を変えることなく、主制御装置７０の点検及び封印等の作業を容易に行うことができるし、主制御装置７０の前面または裏面に不正な基板が付けられたとしてもそれを容易で確実に発見することができる。

【０２７１】

なお、本実施例３では、延出固定部材３１０は、図５４に示すように、回動許容部３１１として円弧状の切り欠き孔３１２と、進退許容部３１３として直線状の切り欠き孔３１４と、表向け許容部３１５として表向け許容切り欠き孔３１６とを形成しているが、これらをそれぞれ円弧状の切り欠き穴と、進退許容部３１３として直線状の切り欠き穴と、表向け許容部３１５として表向け許容切り欠き穴とを延出固定部材３１０の回動枠体１３０との対向面側に形成するようにし、レール用圧入ピン１２８を回動枠体１２０の水平スリット部１２７ａに挿入した状態でスライド枠体１３０のかしめ穴１３２に圧入し、このレール用圧入ピン１２８のピン頭１２８ｂを前述した円弧状の切り欠き穴や直線状の切り欠き穴や表向け許容切り欠き穴に位置するようにこの延出固定部材３１０を固定ベース１１０に固定するようにしてもよい。

【０２７２】

この発明は、上記実施形態に限られることはなく、同様の効果を奏する別の構成として

もよく、例えば下記のように変形実施することができる。

【０２７３】

＜１＞上述した実施例１では、図１６に示すように、別封止部材１９０は基板ケース７４を取付台１００のスライド枠体１３０に固定するとともに、基板ケース７４を開封不可とするものを例に挙げて説明しているが、別封止部材１９０を、取付台１００のスライド枠体１３０に基板ケース７４を固定する構成を採用してもよい。

【０２７４】

＜２＞上述した実施例２では、図２９に示すように、別封止部材１９０は基板ケース７４を取付台２００の支持枠体２３０に固定するとともに、基板ケース７４を開封不可とするものを例に挙げて説明しているが、別封止部材１９０を、取付台２００の支持枠体２３０に基板ケース７４を固定する構成を採用してもよい。

【０２７５】

＜３＞上述した各実施例では、主制御基板７３の電子部品実装面を、ケース上７１の内側面に対向させた状態で当該ケース上７１の内側面に取り付けているが、主制御基板７３の半田面をケース上７１に対向させて取り付けるようにしてもよい。また、主制御基板７３をケース上７１に取り付けているがケース下７２に取り付けるようにしてもよいし、ケース下７２の内側面に主制御基板７３の電子部品実装面を対向させて取り付けるようにしてもよいし、半田面を対向させて取り付けるようにしてもよい。

【０２７６】

＜４＞上述した実施例１では、図１６に示すように、タッピンネジ１９７でスライド枠体１３０と主制御装置７０とを固定しているが、このタッピンネジ１９７のネジ山部分に接着剤を付けた状態で、スライド枠体１３０と主制御装置７０とをネジ止めすることで、ネジを接着固定してしまい、このネジを取り外せないようにしてもよい。また、このタッピンネジ１９７に替えて、締める方向にしか回せないワンウエイネジや、締める方向に一定以上の力がかかるとネジ頭の一部が破断する破断ネジなどで、スライド枠体１３０と主制御装置７０とをネジ止め固定するようにしてもよい。

【０２７７】

なおこれらの場合には、スライド枠体１３０及び主制御装置７０での各タッピンネジ止め箇所部が、当該箇所部以外の本体部から切外し可能な構成とするのが好ましい。例えば、スライド枠体１３０及び主制御装置７０での各タッピンネジ止め箇所部と本体部とが連結部（幅の狭い形状、厚みの薄い形状、幅狭で薄い形状の連結部）で連結されており、この連結部を切断することで各タッピンネジ止め箇所部と本体部との縁が切れる構成が一例として挙げられる。

【０２７８】

また、上述した実施例２でのタッピンネジ１９７を上記のようにしてもよい。

【０２７９】

＜５＞上述した実施例１では、図１６に示すように、タッピンネジ１９７でスライド枠体１３０と主制御装置７０とを固定しているが、タッピンネジ１９７に替えて通常のネジを採用し、主制御装置７０に雌ネジ部を形成しておき、この通常のネジをスライド枠体１３０の貫通孔１３８を介して主制御装置７０の雌ネジ部にネジ止めするようにしてもよい。なお、上述した実施例２でのタッピンネジ１９７についても上記のようにしてもよい。

【０２８０】

＜６＞上述した各実施例のケース上７１及びケース下７２は両者を合わせた状態でその少なくとも一方をスライド移動させることで、ケース上７１及びケース下７２が閉塞した状態となる構成を採用しているが、スライド無しの嵌め合わせ構造や、回動軸を軸心として回動式で組み合わせる構成などを採用してもよい。

【０２８１】

＜７＞上述した各実施例では、取付解除用被切断部１９６は所定箇所を切断工具で切断破壊されるものとしているが、例えば、取付解除用被切断部１９６の肉厚を他の箇所と比べて薄くし、かかる取付解除用被切断部１９６を押下することで破断するものとしてもよ

い。
【０２８２】
＜８＞上述した各実施例では、主制御基板７３を内部に収容する基板ケース７４を例に挙げて説明しているが、主制御基板７３以外の表示制御基板などの各種の制御基板を内部に収容する基板ケース７４に採用することもできる。
【０２８３】
＜９＞上述した各実施例では、基板ケース７４は、ケース上７１とケース下７２とを合わせた状態でその内部空間に主制御基板７３を収納するものとしているが、例えば、ケース上７１に主制御基板７３を取り付けた後に、ケース上７１の主制御基板７３の取付面側を他の部材で覆い、さらにこの他の部材の少なくとも一部をケース下７２で覆い、ケース上７１及びケース下７２を封止部材１５０で封止して当該基板ケース７４を開封不可とするようにしてもよい。
【０２８４】
＜１０＞上述した各実施例では、二重かしめピン１９３（封印手段）を採用しているが、その他の形状のかしめピンを採用してもよい。
【０２８５】
＜１１＞上述した実施例１では、取付解除用被切断部１９６を主制御装置７０に備えているいるが、スライド枠体１３０に備えるようにしてもよいし、主制御装置７０及びスライド枠体１３０に備えるようにしてもよい。
【０２８６】
＜１２＞上述した実施例１では、水平姿勢の主制御装置７０の下面側での両端部分と手前端部分とをそれぞれ支持する支持用延出片１３７及び延出部１３５を採用し、上述した実施例２では、水平姿勢の主制御装置７０の下面側での両端部分と手前端部分とをそれぞれ支持する支持用延出片２３７及び延出部２３５を採用しているが、図５５に示すようにスライド枠体１３０の下部側に形成されて、水平姿勢の主制御装置７０の下面側で幅方向全体に亘る透明面状部（図５５の支持用延出片１３７）や、図５６に示すように支持枠体２３０の下部側に形成されて、水平姿勢の主制御装置７０の下面側で幅方向全体に亘る透明面状部（図５６の支持用延出片２３７）を採用してもよい。
【０２８７】
なお、図５５に示したスライド枠体１３０の透明面状部（図５５の支持用延出片１３７）を、水平姿勢の主制御装置７０の下面側全体に亘るものや、その奥行き方向全体に亘るものとしてもよいし、透明面状部の一部に、主制御装置７０の突起部分を逃がすための開口を形成してもよい。図５６に示した支持枠体２３０の透明面状部（図５６の支持用延出片２３７）を、水平姿勢の主制御装置７０の下面側全体に亘るものや、その奥行き方向全体に亘るものとしてもよいし、透明面状部の一部に、主制御装置７０の突起部分を逃がすための開口を形成してもよい。
【０２８８】
なお、図５５に示したスライド枠体１３０の透明面状部としての支持用延出片１３７や、図５６に示した支持枠体２３０の透明面状部としての支持用延出片２３７は、水平姿勢の主制御装置７０の下面側の幅方向全体を覆う覆い部であるとも言える。この図５５に示す支持用延出片１３７や図５６に示す支持用延出片２３７を水平姿勢の主制御装置７０の下面側の全体に亘るものや、その奥行き方向全体に亘るものとしてもよい。
【０２８９】
＜１３＞また、主制御装置７０を本体１１の内部に収納したままの状態で、この主制御装置７０とリールユニット２５との間に設けられた変位保護機構を本体１１の前側に引き出した状態としてから、主制御装置７０を取り外すなどとしてもよい。
【０２９０】
＜１４＞上述した実施例では、取付台１００、２００によって主制御装置７０が収納支持状態と引出支持状態とに変位しているが、主制御基板７３の部品実装面を上側にして基板ケース７４が水平姿勢で本体１１内に設けられ、且つ、この基板ケース７４が封止部材

１５０（封止手段）で封印されるようにしてもよい。

【０２９１】

＜１５＞上述した実施例３では、引出姿勢規制部３００は、収納支持状態から引出支持状態に変位する全過程での主制御装置７０の引き出し姿勢を規制しているが、この全過程のうちの少なくとも一部過程での主制御装置７０の引き出し姿勢を規制するようにしてもよい。

【０２９２】

＜１６＞上述した実施例では、本発明を各種（例えば第一種、第三種など）の遊技機に実施してもよいし、上記実施例とは異なるタイプのパチンコ機等に実施してもよい。例えば、一度大当たりすると、それを含めて複数回（例えば２回、３回）大当たり状態が発生するまで、大当たり期待値が高められるようなパチンコ機（通称、２回権利物、３回権利物と称される。）として実施してもよい。また、大当たり図柄が表示された後に、所定の領域に球を入賞されることを必要条件として特別遊技状態となるパチンコ機として実施してもよい。また、球が所定の入賞口に入ることで特別遊技状態となるパチンコ機として実施してもよい。さらに、パチンコ機以外にも、アレンジボール型パチンコ、雀球、いわゆるパチンコ機とスロットマシンとが融合した遊技機等の各種遊技機として実施するようにしてもよい。

【０２９３】

なお、パチンコ機とスロットマシンとが融合した遊技機の具体例としては、複数の図柄からなる図柄列を変動表示した後に図柄を確定表示する可変表示手段を備えており、球打出用のハンドルを備えていないものが挙げられる。この場合、所定の操作（ボタン操作）に基づく所定量の遊技球の投入後、例えば操作レバーの操作に起因して図柄の変動が開始され、例えばストップボタンの操作に起因して、あるいは、所定時間経過することにより、図柄の変動が停止され、その停止時の確定図柄がいわゆる大当たり図柄であることを必要条件として遊技者に有利な大当たり状態が発生させられ、遊技者には、下部の受け皿に多量の球が払い出されるものである。

【０２９４】

なお、本明細書は、次のような遊技機に係る発明も開示している。

【０２９５】

従来、遊技機の代表例として例えばスロットマシンがある。このスロットマシンは、例えば、前面側に開口を有する箱状の本体キャビネットと、この本体キャビネットの前面側で開閉可能であって閉状態で前記開口を閉塞する扉と、複数の図柄が表示された回転リールを本体キャビネット内部に複数個横並びに設けたリールユニットと、当該スロットマシンの遊技に関する制御を行う制御基板がケースに収納された制御装置と、本体キャビネットの内部奥側で且つリールユニット上方箇所に制御装置を起立姿勢で支持するとともに、制御装置へのケーブル接続のために当該制御装置をその下辺側を回動軸として起立姿勢から水平姿勢に回動変更可能な可動取付装置と、を備えたもの（以下、適宜に「第１先行例」と呼ぶ）がある（例えば、特開２００３－２５０９６１号公報参照）。

また、本体キャビネットの内部で制御装置を水平姿勢で支持するスライド支持板を、本体キャビネットの開口から突出させるようにスライドさせるスライド装置を備えたもの（以下、適宜に「第２先行例」と呼ぶ）もある（例えば、特開２００３－２５０９６１号公報参照）。

しかしながら、このような構成を有する従来例の場合には、次のような問題がある。

すなわち、従来の前述した第１先行例のスロットマシンでは、例えば、本体キャビネットの内部奥側に位置する起立姿勢の制御装置に対しては、本体キャビネットの内部が暗いし、制御装置が奥側に位置することもあって、制御装置の点検や封印の作業が非常に煩わしいという問題がある。そこで、制御装置を回動して水平姿勢にしたとしても、本体キャビネットの内部で起立姿勢から水平姿勢に回動するに過ぎないため、本体キャビネットの内部が暗く、制御装置の点検や封印の作業が煩わしいという問題が依然として残る。特に、制御装置を回動して水平姿勢にした場合には、制御装置の前面側が、リールユニット上

またはリールユニット上の板に近接した状態となるため、かかる前面側を目視確認できず、起立姿勢の制御装置に対してその前面側を目視確認しなければならず、不正行為発見に劣る。

前述した第２先行例のスロットマシンでは、リールユニット上にスライド支持板が常時存在するため、リールユニットの交換作業がし辛いという問題がある。また、スライド支持板に水平姿勢で取り付けられた制御装置は、本体キャビネットの内部奥側に起立姿勢で取り付けられた場合に比べて、前面側に近いため、不正行為を受け易いという問題がある。また、スライド支持版を本体キャビネットの開口から突出させた状態で制御装置の上面を目視確認できるものの、その制御装置の下面（制御装置でのスライド支持板と対向する面）を目視確認できないため、制御装置の下面に不正な基板を取り付けた不正行為を発見できないという問題もある。

以下の（１）に係る発明は、このような事情に鑑みてなされたものであって、リールユニットの交換作業の邪魔にならず、制御装置の点検及び封印等の作業が容易であり、且つ、制御装置に対する不正行為を低減できる遊技機を提供することを目的とする。

（１）　前面側に開口を有する筐体と、

前記筐体の前面側で開閉可能であって閉状態で前記開口を閉塞する扉と、

複数の図柄を変動表示する、前記筐体内部に設けられた図柄変動表示手段と、

遊技に関する制御を行う制御手段と、

前記制御手段を前記筐体の内部奥側で且つ前記図柄変動表示手段の上方箇所に起立姿勢で収納支持する収納支持状態と、前記制御手段をその前面及び裏面が視認可能に前記筐体の前記開口から引き出した傾倒姿勢で支持する引出支持状態とに変位する変位支持手段と、

前記収納支持状態から前記引出支持状態に変位する過程の少なくとも一部過程での前記制御手段の引き出し姿勢を規制する引出姿勢規制手段と、

を備えている

ことを特徴とする遊技機。

【０２９６】

前記（１）に記載の発明によれば、筐体は、前面側に開口を有する。扉は、筐体の前面側で開閉可能であって閉状態でその開口を閉塞する。図柄変動表示手段は、筐体内部に設けられており、複数の図柄を変動表示する。制御手段は、遊技に関する制御を行う。変位支持手段は、制御手段を筐体の内部奥側で且つ図柄変動表示手段の上方箇所に起立姿勢で収納支持する収納支持状態と、制御手段をその前面及び裏面が視認可能に筐体の開口から引き出した傾倒姿勢で支持する引出支持状態とに変位する。

【０２９７】

したがって、変位支持手段による制御手段の収納支持状態では、制御手段が筐体の内部奥側で且つ図柄変動表示手段の上方箇所に起立姿勢で収納支持されているので、不正行為がし辛く、不正行為を低減できる。また、この収納支持状態では、制御手段が筐体の内部奥側で起立姿勢で収納支持されているので、図柄変動表示手段の上方スペースを確保でき、図柄変動表示手段の交換作業の邪魔にならない。

【０２９８】

また、変位支持手段による制御手段の引出支持状態では、制御手段をその前面及び裏面が視認可能に、筐体の開口から引き出した傾倒姿勢で支持するので、筐体内部の暗がりの中で制御手段を確認するのではなく、筐体から引き出した傾倒姿勢でしかも制御手段の前面及び裏面が視認可能であるので、制御手段の点検及び封印等の作業を容易に行うことができるし、制御手段の前面または裏面に不正な基板が付けられたとしてもそれを容易で確実に発見することができる。また、不正行為者が扉を開状態にして、制御手段を筐体の開口から引き出した状態で不正行為を施そうとしても、それらの行為が目立つため、不正行為がし辛く、不正行為を低減することができる。

【０２９９】

また、引出姿勢規制手段は、収納支持状態から引出支持状態に変位する過程の少なくと

も一部過程での制御手段の引き出し姿勢を規制するので、制御手段の引き出しの際に筐体内部の他の部品などと接触させることを防止できる。例えば、誰が作業しても制御手段を規制された引き出し姿勢で引き出しすることができ、作業者による制御手段の引き出し方の違いで制御手段を筐体内部の他の部品などと接触させてしまうという問題を解消することができる。また、引出姿勢規制手段による制御手段の引き出し姿勢の規制に従って当該制御手段を引き出せばよいので、初めての作業者での戸惑いなくスムーズに制御手段を引き出すことができる。

【０３００】

その結果、図柄変動表示手段（例えば、リールユニット）の交換作業の邪魔にならず、制御手段（例えば、制御装置）の点検及び封印等の作業が容易であり、且つ、制御手段に対する不正行為を低減でき、制御手段の引き出しの際に筐体内部の他の部品等との接触を防止できる遊技機を提供することができる。

【０３０１】

（２）　前記（１）に記載の遊技機において、

前記引出姿勢規制手段は、前記起立姿勢の前記制御手段の下辺側を回動軸として当該制御手段を回動させた傾倒姿勢とした後に、当該傾倒姿勢の前記制御手段を引き出すように規制する

ことを特徴とする遊技機。

【０３０２】

前記（２）に記載の発明によれば、引出姿勢規制手段は、起立姿勢の制御手段の下辺側を回動軸として当該制御手段を回動させた傾倒姿勢とした後に、当該傾倒姿勢の制御手段を引き出すように規制するので、制御手段が傾倒姿勢以外の禁止姿勢（例えば、傾斜姿勢や起立姿勢）で引き出されることを規制でき、この禁止姿勢での引き出しによる筐体内部の他の部品などへの接触を防止できる。

【０３０３】

（３）　前記（２）に記載の遊技機において、

前記変位支持手段は、前記制御手段を支持する第１支持部と、この第１支持部が取り外し不可に連結されて前記第１支持部を収めた収容位置とこの収容位置から進出した進出位置とに当該第１支持部を進退自在に支持する第２支持部と、前記第２支持部が取り外し不可に連結されて当該第２支持部を起立姿勢と傾倒姿勢とに回動自在に支持するとともに前記筐体の内部奥側で且つ前記図柄変動表示手段の上方箇所に固定される第３支持部とを備え、

前記制御手段を前記第１支持部に取り外し不可に封印する封印手段を備え、

前記引出姿勢規制手段は、前記第３支持部の正面視で両端箇所から前方にそれぞれ延出して前記傾倒姿勢の前記第２支持部の両側面に側面視でそれぞれ重なるように当該第３支持部に固定された一対の延出固定部材を備え、

前記一対の延出固定部材は、前記第１支持部が前記収納位置に収められた状態において前記第２支持部の前記起立姿勢と前記傾倒姿勢との回動を許容する回動許容部と、前記第２支持部が前記傾倒姿勢である状態において前記第１支持部の前記収容位置と前記進出位置との進退を許容する進退許容部とをそれぞれ備えており、前記筐体内部の両側壁面の近傍に位置している

ことを特徴とする遊技機。

【０３０４】

前記（３）に記載の発明によれば、変位支持手段は、第１～第３支持部を備えている。第１支持部は、制御手段を支持する。第２支持部は、第１支持部が取り外し不可に連結されており、第１支持部を収めた収容位置とこの収容位置から進出した進出位置とに当該第１支持部を進退自在に支持する。第３支持部は、第２支持部が取り外し不可に連結されており、第２支持部を起立姿勢と傾倒姿勢とに回動自在に支持するとともに、筐体の内部奥側で且つ図柄変動表示手段の上方箇所に固定される。封印手段は、制御手段を第１支持部に取り外し不可に封印する。したがって、封印手段によって制御手段が第１支持部に取り

外し不可に封印されているので、制御手段を第１支持部から取り外すことを低減できる。また、第１～第３支持部が取り外し不可に連結されているので、第１～第３支持部を取り外したりすることを低減できる。その結果、制御手段だけを取り外したり、制御手段を第１，第２支持部ごとを取り外したりして制御手段に不正を施して戻したり、制御手段を取り外して別の不正な制御手段に交換したりすることを低減でき、制御手段への不正対策に優れる。また、変位支持手段による制御手段の引出支持状態を好適に実現することができる。

【０３０５】

また、引出姿勢規制手段は、第３支持部の正面視で両端箇所から前方にそれぞれ延出して傾倒姿勢の第２支持部の両側面に側面視でそれぞれ重なるように当該第３支持部に固定された一対の延出固定部材を備えている。この一対の延出固定部材は、第１支持部が収納位置に収められた状態において第２支持部の起立姿勢と傾倒姿勢との回動を許容する回動許容部と、第２支持部が傾倒姿勢である状態において第１支持部の収容位置と進出位置との進退を許容する進退許容部とをそれぞれ備えている。また、一対の延出固定部材は、筐体内部の両側壁面の近傍に位置しているので、第１支持部と第２支持部との連結箇所に不正にアクセスすることを困難にでき、かかる連結を不正に解除することを低減できる。

【０３０６】

（４）　前記（３）に記載の遊技機において、

前記延出固定部材の前記回動許容部は、前記第２支持部の回動を許容するべく円弧状の切り欠き孔であり、

前記延出固定部材の前記進退許容部は、前記円弧状の切り欠き孔に連通されて、前記第１支持部の進退を許容するべく直線状の切り欠き孔であり、

前記第１支持部は、その両側面箇所に、かしめ穴が形成され、

前記第２支持部は、その両側面箇所に、前記第１支持部の進退方向に延びる直線状切り欠き孔が形成され、

圧入ピンを、前記延出固定部材の前記切り欠き孔と、前記第２支持部の直線状切り欠き孔とにその順番に挿入した状態で前記第１支持部の前記かしめ穴に圧入することで、前記第１支持部が前記第２支持部に取り外し不可に連結され、

前記圧入ピンの長さは、前記延出固定部材と前記筐体の内面との距離よりも長くなっている

ことを特徴とする遊技機。

【０３０７】

前記（４）に記載の発明によれば、延出固定部材の回動許容部は、第２支持部の回動を許容するべく円弧状の切り欠き孔となっている。延出固定部材の進退許容部は、円弧状の切り欠き孔に連通されて、第１支持部の進退を許容するべく直線状の切り欠き孔となっている。第１支持部は、その両側面箇所に、かしめ穴が形成されている。第２支持部は、その両側面箇所に、第１支持部の進退方向に延びる直線状切り欠き孔が形成されている。圧入ピンを、延出固定部材の切り欠き孔と、第２支持部の直線状切り欠き孔とにその順番に挿入した状態で第１支持部のかしめ穴に圧入することで、第１支持部が第２支持部に取り外し不可に連結されている。圧入ピンの長さは、延出固定部材と筐体の内面との距離よりも長くなっているので、圧入ピンを不正に抜こうとしても、そのピン頭が筐体の内面に当り抜くことができない。よって、圧入ピンの不正な抜き取りを低減できる。

【０３０８】

（５）　前記（３）または（４）に記載の遊技機において、

前記制御手段を前記筐体の前記開口から引き出した引出支持状態でその裏面を表向けるように姿勢変更する姿勢変更手段を備え、

前記一対の延出固定部材は、前記傾倒姿勢の前記第２支持部から前記第１支持部が前記進出位置に進出された状態において前記第１支持部の裏面を表向けることを許容する表向け許容部をそれぞれ備えている

ことを特徴とする遊技機。

【０３０９】
前記（５）に記載の発明によれば、姿勢変更手段は、制御手段を筐体の開口から引き出した引出支持状態でその裏面を表向けるように姿勢変更する。一対の延出固定部材は、傾倒姿勢の第２支持部から第１支持部が進出位置に進出された状態において第１支持部の裏面を表向けることを許容する表向け許容部をそれぞれ備えている。したがって、筐体から引き出した状態で制御手段をその裏面を表向けるように姿勢変更できるので、制御手段の前面及び裏面について作業者（例えば、メーカー作業者、ホール関係者など）の姿勢を変えることなく、制御手段の点検及び封印等の作業を容易に行うことができるし、制御手段の前面または裏面に不正な基板が付けられたとしてもそれを容易で確実に発見することができる。
【０３１０】
（６）　前面側に開口を有する筐体と、
前記筐体の前面側で開閉可能であって閉状態で前記開口を閉塞する扉と、
前記筐体内部に設けられた遊技部品と、
遊技に関する制御を行う制御手段と、
前記制御手段を前記筐体の内部奥側で且つ前記遊技部品の上方箇所に起立姿勢で収納支持する収納支持状態と、前記制御手段をその前面及び裏面が視認可能に前記筐体の前記開口から引き出した状態で支持する引出支持状態とに変位する変位支持手段と、
を備えている
ことを特徴とする遊技機。
【０３１１】
前記（６）に記載の発明によれば、筐体は、前面側に開口を有する。扉は、筐体の前面側で開閉可能であって閉状態でその開口を閉塞する。遊技部品は、筐体内部に設けられている。制御手段は、遊技に関する制御を行う。変位支持手段は、制御手段を筐体の内部奥側で且つ遊技部品の上方箇所に起立姿勢で収納支持する収納支持状態と、制御手段をその前面及び裏面が視認可能に筐体の開口から引き出した状態で支持する引出支持状態とに変位する。
【０３１２】
したがって、変位支持手段による制御手段の収納支持状態では、制御手段が筐体の内部奥側で且つ遊技部品の上方箇所に起立姿勢で収納支持されているので、不正行為がし辛く、不正行為を低減できる。また、この収納支持状態では、制御手段が筐体の内部奥側で起立姿勢で収納支持されているので、遊技部品の上方スペースを確保でき、遊技部品の交換作業の邪魔にならない。
【０３１３】
また、変位支持手段による制御手段の引出支持状態では、制御手段をその前面及び裏面が視認可能に、少なくとも一部が筐体の開口から引き出した状態で支持するので、筐体内部の暗がりの中で制御手段全体が入ったままで確認するのではなく、筐体から少なくとも一部が引き出した状態でしかも制御手段の前面及び裏面が視認可能であるので、制御手段の点検及び封印等の作業を容易に行うことができるし、制御手段の前面または裏面に不正な基板が付けられたとしてもそれを容易で確実に発見することができる。また、不正行為者が扉を開状態にして、制御手段を筐体の開口から引き出した状態で不正行為を施そうとしても、それらの行為が目立つため、不正行為がし辛く、不正行為を低減することができる。その結果、遊技部品（例えば、リールユニット）の交換作業の邪魔にならず、制御手段（例えば、制御装置）の点検及び封印等の作業が容易であり、且つ、制御手段に対する不正行為を低減できる遊技機を提供することができる。
【０３１４】
なお、本明細書で言う「筐体」は、前面側に開口を有する、上板、下板、左板、右板及び奥板からなる箱体以外にも、奥板無しの枠体としてもよい。また、本明細書で言う「遊技部品」としては、複数の図柄（単数の図柄であってもよい）を変動表示する図柄変動表示手段（例えば、リールユニットや画像表示装置）や遊技媒体関連装置（例えば、ホッパ

）など各種の遊技部品が挙げられる。また、本明細書で言う「前面及び裏面が視認可能」とは、前面及び裏面の少なくとも一部が視認可能であってもよい。また、本明細書で言う「開口から引き出した状態」とは、制御手段の少なくとも一部が開口から引き出した状態をいう。よって、制御手段の一部が開口内にあるものを含む。

【０３１５】

（７）　前記（６）に記載の遊技機において、

前記変位支持手段は、前記制御手段を支持する第１支持部と、この第１支持部が取り外し不可に連結されて前記第１支持部を収めた収容位置とこの収容位置から進出した進出位置とに当該第１支持部を進退自在に支持する第２支持部と、前記第２支持部が取り外し不可に連結されて当該第２支持部を起立姿勢と傾倒姿勢とに回動自在に支持するとともに前記筐体の内部奥側で且つ前記遊技部品の上方箇所に固定される第３支持部とを備え、

前記制御手段を前記第１支持部に取り外し不可に封印する封印手段を備えている

ことを特徴とする遊技機。

【０３１６】

前記（７）に記載の発明によれば、変位支持手段は、第１～第３支持部を備えている。第１支持部は、制御手段を支持する。第２支持部は、第１支持部が取り外し不可に連結されており、第１支持部を収めた収容位置とこの収容位置から進出した進出位置とに当該第１支持部を進退自在に支持する。第３支持部は、第２支持部が取り外し不可に連結されており、第２支持部を起立姿勢と傾倒姿勢とに回動自在に支持するとともに、筐体の内部奥側で且つ遊技部品の上方箇所に固定される。封印手段は、制御手段を第１支持部に取り外し不可に封印する。したがって、封印手段によって制御手段が第１支持部に取り外し不可に封印されているので、制御手段を第１支持部から取り外すことを低減できる。また、第１～第３支持部が取り外し不可に連結されているので、第１～第３支持部を取り外したりすることを低減できる。その結果、制御手段だけを取り外したり、制御手段を第１，第２支持部ごとを取り外したりして制御手段に不正を施して戻したり、制御手段を取り外して別の不正な制御手段に交換したりすることを低減でき、制御手段への不正対策に優れる。また、変位支持手段による制御手段の引出支持状態を好適に実現することができる。

【０３１７】

特に、第１支持部と第２支持部との連結構造としては、第１支持部での第２支持部に近い側の箇所であって両外側からピン圧入やネジ止めなどして当該第１支持部を第２支持部に対して進退自在に固定することが好ましい。この場合には、筐体の側面視で上記連結箇所が当該筐体の側面で覆われて隠れるため、かかる連結作業を解除するための作業スペースが少なく、さらに取り外し不可とすることができる。よって、第１～第３支持部ごと取り外した状態にすることで、かかる連結箇所の解除作業を行うことができる。つまり、かかる連結部分が露わにならないように配設するのが好ましい。

【０３１８】

なお、本明細書で言う「取り外し不可」とは、一般的な工具（ドライバー）によって、又は手作業によっては取り外せないことを意味する。

【０３１９】

（８）　前記（７）に記載の遊技機において、

前記第２支持部は、前記第３支持部に対して傾倒姿勢としての水平姿勢となった状態で、前記第１支持部を前記収容位置と進出位置とにスライド進退自在に支持するスライド支持部と、前記第１支持部をスライド進出させて進出位置にある状態では、当該第１支持部を前記筐体の前記開口から引き出した水平状態で保持する水平保持部とを備え、

前記第１支持部または前記制御手段の少なくとも一方は、当該第１支持部の水平状態において前記封印手段による封印を解除するために破壊される被破壊部を備え、

前記第１支持部は、前記被破壊部の破壊によって封印が解除された前記制御手段を支持する

ことを特徴とする遊技機。

【０３２０】

前記（８）に記載の発明によれば、第２支持部は、第２支持部は、第３支持部に対して傾倒姿勢としての水平姿勢となった状態で、第１支持部を収容位置と進出位置とにスライド進退自在に支持するスライド支持部と、第１支持部をスライド進出させて進出位置にある状態では、当該第１支持部を筐体の開口から引き出した水平状態で保持する水平保持部とを備えている。被破壊部は、第１支持部または制御手段の少なくとも一方に設けられ、第１支持部の水平状態において封印手段による封印を解除するために破壊される。第１支持部は、被破壊部の破壊によって封印が解除された制御手段を支持する。したがって、制御手段を支持する第１支持部を第２支持部の収容位置にした状態で、この第２支持部を起立姿勢とした収納支持状態から、この第２支持部を第３支持部に対して傾倒姿勢としての水平姿勢とした後に、第１支持部を筐体の開口から引き出して水平状態で保持することができ、第１支持部の水平状態において被破壊部の破壊作業つまり封印解除作業がし易い。特に、被破壊部は、手前側に配設されている方が作業性がよい。また、力を入れて封印解除するような場合でも、第１支持部の水平状態が水平保持部によって保持されるので、下方の遊技部品を保護することができる。

【０３２１】

（９）　前記（６）に記載の遊技機において、

前記変位支持手段は、前記制御手段を支持する第１支持部と、この第１支持部が取り外し不可に連結されて前記第１支持部を収めた収容位置とこの収容位置から回動した回動位置とに当該第１支持部を回動自在に支持するものであって起立姿勢で折り畳み状態となり傾倒姿勢で伸張状態となる第２支持部と、前記第２支持部が取り外し不可に連結されて当該第２支持部を起立姿勢と傾倒姿勢とに回動自在に支持するとともに前記筐体の内部奥側で且つ前記遊技部品の上方箇所に固定される第３支持部とを備え、

前記制御手段を前記第１支持部に取り外し不可に封印する封印手段を備えている

ことを特徴とする遊技機。

【０３２２】

前記（９）に記載の発明によれば、変位支持手段は、第１～第３支持部を備えている。第１支持部は、制御手段を支持する。第２支持部は、第１支持部が取り外し不可に連結されており、第１支持部を収めた収容位置とこの収容位置から回動した回動位置とに当該第１支持部を回動自在に支持するものであって、起立姿勢では折り畳み状態となり、傾倒姿勢では伸張状態となる。第３支持部は、第２支持部が取り外し不可に連結されており、第２支持部を起立姿勢と傾倒姿勢とに回動自在に支持するとともに、筐体の内部奥側で且つ遊技部品の上方箇所に固定される。封印手段は、制御手段を第１支持部に取り外し不可に封印する。したがって、封印手段によって制御手段が第１支持部に取り外し不可に封印されているので、制御手段を第１支持部から取り外すことを低減できる。また、第１～第３支持部が取り外し不可に連結されているので、第１～第３支持部を取り外したりすることを低減できる。その結果、制御手段だけを取り外したり、制御手段を第１，第２支持部ごとを取り外したりして制御手段に不正を施して戻したり、制御手段を取り外して別の不正な制御手段に交換したりすることを低減でき、制御手段への不正対策に優れる。また、変位支持手段による制御手段の引出支持状態を好適に実現することができる。

【０３２３】

特に、第１支持部と第２支持部との連結構造としては、第１支持部での第２支持部に近い側の箇所であって両外側からピン圧入やネジ止めなどして当該第１支持部を第２支持部に対して回動自在に固定することが好ましい。この場合には、筐体の側面視で上記連結箇所が当該筐体の側面で覆われて隠れるため、かかる連結作業を解除するための作業スペースが少なく、さらに取り外し不可とすることができる。よって、第１～第３支持部ごと取り外した状態にすることで、かかる連結箇所の解除作業を行うことができる。つまり、かかる連結部分が露わにならないように配設するのが好ましい。

【０３２４】

（１０）　前記（９）に記載の遊技機において、

前記第１支持部は、起立姿勢の前記第２支持部の前記収容位置から回動して水平姿勢と

なり、
前記第２支持部は、前記第１支持部が取り外し不可で当該第１支持部が回動自在に連結された回動連結部を先端側に備えた第１腕部材と、この第１腕部材の後端側に取り外し不可で当該第１腕部材が回動自在に連結された回動連結部を先端側に備えた第２腕部材とを備え、この第２腕部材の後端側が前記第３支持部に対して回動自在に連結支持されており、側面視で前記第１腕部材と前記第２腕部材とを折り畳んで重なるようにした起立姿勢から、前記第１腕部材と前記第２腕部材とを伸張した水平姿勢となり、
前記変位支持手段は、当該第１腕部材と前記第２腕部材とを伸張した水平姿勢にして前記第１支持部を前記筐体の前記開口から引き出した水平状態で保持する水平保持部を備え、
前記第１支持部または前記制御手段の少なくとも一方は、当該第１支持部の水平状態において前記封印手段による封印を解除するために破壊される被破壊部を備え、
前記第１支持部は、前記被破壊部の破壊によって封印が解除された前記制御手段を支持する
ことを特徴とする遊技機。
【０３２５】
前記（１０）に記載の発明によれば、第１支持部は、起立姿勢の第２支持部の収容位置から回動して水平姿勢となる。第２支持部は、第１支持部が取り外し不可で当該第１支持部が回動自在に連結された回動連結部を先端側に備えた第１腕部材と、この第１腕部材の後端側に取り外し不可で当該第１腕部材が回動自在に連結された回動連結部を先端側に備えた第２腕部材とを備え、この第２腕部材の後端側が第３支持部に対して回動自在に連結支持されており、側面視で第１腕部材と第２腕部材とが折り畳んで重なるようにした起立姿勢から、第１腕部材と第２腕部材とを伸張した水平姿勢となる。変位支持手段は、第１腕部材と第２腕部材とを伸張した水平姿勢にして第１支持部を筐体の開口から引き出した水平状態で保持する水平保持部を備えている。被破壊部は、第１支持部または制御手段の少なくとも一方に設けられ、第１支持部の水平状態において封印手段による封印を解除するために破壊される。第１支持部は、被破壊部の破壊によって封印が解除された制御手段を支持する。したがって、制御手段を支持する第１支持部を起立姿勢の第２支持部の収容位置から回動して水平姿勢とし、側面視で第１腕部材と第２腕部材とが折り畳んで重なるようにした起立姿勢から、第１腕部材と第２腕部材とを伸張した水平姿勢とし、第１支持部を筐体の開口から引き出して水平状態で保持することができ、第１支持部の水平状態において被破壊部の破壊作業つまり封印解除作業がし易い。特に、被破壊部は、手前側に配設されている方が作業性がよい。また、力を入れて封印解除するような場合でも、第１支持部の水平状態が水平保持部によって保持されるので、下方の遊技部品を保護することができる。
【０３２６】
（１１）　前面側に開口を有する筐体と、
前記筐体の前面側で開閉可能であって閉状態で前記開口を閉塞する扉と、
前記筐体内部に設けられた遊技部品と、
遊技に関する制御を行う制御手段と、
前記制御手段を前記筐体の内部奥側で且つ前記遊技部品の上方箇所に起立姿勢で収納支持する収納支持状態と、前記制御手段をその一方面及びその反対面が視認可能に前記筐体の前記開口から引き出した状態で支持する引出支持状態とに変位する変位支持手段と、
前記制御手段を前記筐体の前記開口から引き出した引出支持状態で前記一方面及びその反対面のうち下側を向いていた面を表向けるように姿勢変更する姿勢変更手段と、
を備えている
ことを特徴とする遊技機。
【０３２７】
前記（１１）に記載の発明によれば、筐体は、前面側に開口を有する。扉は、筐体の前面側で開閉可能であって閉状態でその開口を閉塞する。遊技部品は、筐体内部に設けられ

ている。制御手段は、遊技に関する制御を行う。変位支持手段は、制御手段を筐体の内部奥側で且つ遊技部品の上方箇所に起立姿勢で収納支持する収納支持状態と、制御手段をその一方面及びその反対面が視認可能に筐体の開口から引き出した状態で支持する引出支持状態とに変位する。姿勢変更手段は、制御手段を筐体の開口から引き出した引出支持状態で前記一方面及びその反対面のうち下側を向いていた面を表向けるように姿勢変更する。

【０３２８】

したがって、変位支持手段による制御手段の収納支持状態では、制御手段が筐体の内部奥側で且つ遊技部品の上方箇所に起立姿勢で収納支持されているので、不正行為がし辛く、不正行為を低減できる。また、この収納支持状態では、制御手段が筐体の内部奥側で起立姿勢で収納支持されているので、遊技部品の上方スペースを確保でき、遊技部品の交換作業の邪魔にならない。

【０３２９】

また、変位支持手段による制御手段の引出支持状態では、制御手段をその一方面及びその反対面が視認可能に、少なくとも一部が筐体の開口から引き出した状態で支持するので、筐体内部の暗がりの中で制御手段を確認するのではなく、筐体から少なくとも一部が引き出した状態で制御手段の一方面及びその反対面のうち上側を向いていた面が視認可能である。さらに、筐体から引き出した状態で制御手段を前記一方面及びその反対面のうち下側を向いていた面を表向けるように姿勢変更できるので、制御手段の一方面及びその反対面について作業者（例えば、メーカー作業者、ホール関係者など）の姿勢を変えることなく、制御手段の点検及び封印等の作業を容易に行うことができるし、制御手段の一方面または反対面に不正な基板が付けられたとしてもそれを容易で確実に発見することができる。また、不正行為者が扉を開状態にして、制御手段を筐体の開口から引き出した状態で不正行為を施そうとしても、それらの行為が目立つため、不正行為がし辛く、不正行為を低減することができる。その結果、遊技部品（例えば、リールユニット）の交換作業の邪魔にならず、制御手段（例えば、制御装置）の点検及び封印等の作業が容易であり、且つ、制御手段に対する不正行為を低減できる遊技機を提供することができる。

【０３３０】

なお、本明細書で言う「下側を向いていた面」とは、引出支持状態でその下側を向いていた面とは反対面側が確認可能な程度に下側を向いた面をいう。また、本明細書で言う「表向ける」とは、正面向きや上向きも含む。

【０３３１】

（１２）　前記（１１）に記載の遊技機において、

前記変位支持手段は、前記制御手段を支持する第１支持部と、この第１支持部が取り外し不可に連結されて前記第１支持部を収めた収容位置とこの収容位置から進出した進出位置とに当該第１支持部を進退自在に支持する第２支持部と、前記第２支持部が取り外し不可に連結されて当該第２支持部を起立姿勢と傾倒姿勢とに回動自在に支持するとともに前記筐体の内部奥側で且つ前記遊技部品の上方箇所に固定される第３支持部とを備え、

前記制御手段を前記第１支持部に取り外し不可に封印する封印手段を備え、

前記姿勢変更手段は、前記制御手段を前記筐体の前記開口から引き出した引出支持状態で前記一方面及びその反対面のうち下側を向いていた面を表向けるように姿勢変更した表向き傾斜姿勢で保持する表向き傾斜姿勢保持手段を備えている

ことを特徴とする遊技機。

【０３３２】

前記（１２）に記載の発明によれば、変位支持手段は、第１～第３支持部を備えている。第１支持部は、制御手段を支持する。第２支持部は、第１支持部が取り外し不可に連結されており、第１支持部を収めた収容位置とこの収容位置から進出した進出位置とに当該第１支持部を進退自在に支持する。第３支持部は、第２支持部が取り外し不可に連結されており、第２支持部を起立姿勢と傾倒姿勢とに回動自在に支持するとともに、筐体の内部奥側で且つ遊技部品の上方箇所に固定される。封印手段は、制御手段を第１支持部に取り外し不可に封印する。したがって、封印手段によって制御手段が第１支持部に取り外し不

可に封印されているので、制御手段を第１支持部から取り外すことを低減できる。また、第１～第３支持部が取り外し不可に連結されているので、第１～第３支持部を取り外したりすることを低減できる。その結果、制御手段だけを取り外したり、制御手段を第１，第２支持部ごとを取り外したりして制御手段に不正を施して戻したり、制御手段を取り外して別の不正な制御手段に交換したりすることを低減でき、制御手段への不正対策に優れる。

【０３３３】

また、表向き傾斜姿勢保持手段は、制御手段を筐体の開口から引き出した引出支持状態で前記一方面及びその反対面のうち下側を向いていた面を表向けるように姿勢変更した表向き傾斜姿勢で保持するので、作業者（例えば、メーカー作業者、ホール関係者など）は、表向き傾斜姿勢で保持された制御手段の前記一方面及びその反対面のうち下側を向いていた面に正対してこの制御手段の点検及び封印等の作業を行うことができる。

【０３３４】

特に、第１支持部と第２支持部との連結構造としては、第１支持部での第２支持部に近い側の箇所であって両外側からピン圧入やネジ止めなどして当該第１支持部を第２支持部に進退自在に固定することが好ましい。この場合には、筐体の側面視で上記連結箇所が当該筐体の側面で覆われて隠れるため、かかる連結作業を解除するための作業スペースが少なく、さらに取り外し不可とすることができる。よって、第１～第３支持部ごと取り外した状態にすることで、かかる連結箇所の解除作業を行うことができる。つまり、かかる連結部分が露わにならないように配設するのが好ましい。

【０３３５】

（１３）　前記（１２）に記載の遊技機において、

前記第２支持部は、前記第３支持部に対して傾倒姿勢としての水平姿勢となった状態で、前記第１支持部を前記収容位置と進出位置とにスライド進退自在に支持するスライド支持部と、前記第１支持部をスライド進出させて進出位置にある状態では、当該第１支持部を前記筐体の前記開口から引き出した水平状態で保持する水平保持部と、前記水平保持部で水平状態で保持された前記第１支持部を前記一方面及びその反対面のうち下側を向いていた面を表向けるように姿勢変更した表向き傾斜姿勢で保持する表向き傾斜姿勢保持部と、を備え、

前記第１支持部または前記制御手段の少なくとも一方は、当該第１支持部の水平状態において前記封印手段による封印を解除するために破壊される被破壊部を備え、

前記第１支持部は、前記被破壊部の破壊によって封印が解除された前記制御手段を支持する

ことを特徴とする遊技機。

【０３３６】

前記（１３）に記載の発明によれば、第２支持部は、第３支持部に対して傾倒姿勢としての水平姿勢となった状態で、第１支持部を収容位置と進出位置とにスライド進退自在に支持するスライド支持部と、第１支持部をスライド進出させて進出位置にある状態では、当該第１支持部を筐体の開口から引き出した水平状態で保持する水平保持部と、この水平保持部で水平状態で保持された第１支持部を前記一方面及びその反対面のうち下側を向いていた面を表向けるように姿勢変更した表向き傾斜姿勢で保持する表向き傾斜姿勢保持部と、を備えている。被破壊部は、第１支持部または制御手段の少なくとも一方に設けられ、第１支持部の水平状態において封印手段による封印を解除するために破壊される。第１支持部は、被破壊部の破壊によって封印が解除された制御手段を支持する。したがって、制御手段を支持する第１支持部を第２支持部の収容位置にした状態で、この第２支持部を起立姿勢とした収納支持状態から、この第２支持部を第３支持部に対して傾倒姿勢としての水平姿勢とした後に、第１支持部を筐体の開口から引き出して水平状態で保持することができ、第１支持部の水平状態において被破壊部の破壊作業つまり封印解除作業がし易い。特に、被破壊部は、手前側に配設されている方が作業性がよい。また、力を入れて封印解除するような場合でも、第１支持部の水平状態が水平保持部によって保持されるので、

下方の遊技部品を保護することができる。また、水平保持部で水平状態で保持された第１支持部を前記一方面及びその反対面のうち下側を向いていた面を表向けるように姿勢変更した表向き傾斜姿勢で保持するので、制御手段の前記一方面及びその反対面のうち下側を向いていた面の点検及び封印等の作業を容易に行うことができ、制御手段の前記一方面及びその反対面のうち下側を向いていた面への不正な基板の取り付けが発見し易い。

【０３３７】

（１４）　前記（１１）に記載の遊技機において、

前記変位支持手段は、前記制御手段を支持する第１支持部と、この第１支持部が取り外し不可に連結されて前記第１支持部を収めた収容位置とこの収容位置から回動した回動位置とに当該第１支持部を回動自在に支持するものであって起立姿勢で折り畳み状態となり傾倒姿勢で伸張状態となる第２支持部と、前記第２支持部が取り外し不可に連結されて当該第２支持部を起立姿勢と傾倒姿勢とに回動自在に支持するとともに前記筐体の内部奥側で且つ前記遊技部品の上方箇所に固定される第３支持部とを備え、

前記制御手段を前記第１支持部に取り外し不可に封印する封印手段を備え、

前記姿勢変更手段は、前記制御手段を前記筐体の前記開口から引き出した引出支持状態で前記一方面及びその反対面のうち下側を向いていた面を表向けるように姿勢変更した表向き傾斜姿勢で保持する表向き傾斜姿勢保持手段を備えている

ことを特徴とする遊技機。

【０３３８】

前記（１４）に記載の発明によれば、変位支持手段は、第１～第３支持部を備えている。第１支持部は、制御手段を支持する。第２支持部は、第１支持部が取り外し不可に連結されており、第１支持部を収めた収容位置とこの収容位置から回動した回動位置とに当該第１支持部を回動自在に支持するものであって、起立姿勢では折り畳み状態となり、傾倒姿勢では伸張状態となる。第３支持部は、第２支持部が取り外し不可に連結されており、第２支持部を起立姿勢と傾倒姿勢とに回動自在に支持するとともに、筐体の内部奥側で且つ遊技部品の上方箇所に固定される。封印手段は、制御手段を第１支持部に取り外し不可に封印する。したがって、封印手段によって制御手段が第１支持部に取り外し不可に封印されているので、制御手段を第１支持部から取り外すことを低減できる。また、第１～第３支持部が取り外し不可に連結されているので、第１～第３支持部を取り外したりすることを低減できる。その結果、制御手段だけを取り外したり、制御手段を第１，第２支持部ごとを取り外したりして制御手段に不正を施して戻したり、制御手段を取り外して別の不正な制御手段に交換したりすることを低減でき、制御手段への不正対策に優れる。また、変位支持手段による制御手段の引出支持状態を好適に実現することができる。

【０３３９】

また、表向き傾斜姿勢保持手段は、制御手段を筐体の開口から引き出した引出支持状態で前記一方面及びその反対面のうち下側を向いていた面を表向けるように姿勢変更した表向き傾斜姿勢で保持するので、作業者（例えば、メーカー作業者、ホール関係者など）は、表向き傾斜姿勢で保持された制御手段の前記一方面及びその反対面のうち下側を向いていた面に正対してこの制御手段の点検及び封印等の作業を行うことができる。

【０３４０】

（１５）　前記（１４）に記載の遊技機において、

前記第１支持部は、起立姿勢の前記第２支持部の前記収容位置から回動して水平姿勢となり、

前記第２支持部は、前記第１支持部が取り外し不可で当該第１支持部が回動自在に連結された回動連結部を先端側に備えた第１腕部材と、この第１腕部材の後端側に取り外し不可で当該第１腕部材が回動自在に連結された回動連結部を先端側に備えた第２腕部材とを備え、この第２腕部材の後端側が前記第３支持部に対して回動自在に連結支持されており、側面視で前記第１腕部材と前記第２腕部材とが折り畳んで重なるようにした起立姿勢から、前記第１腕部材と前記第２腕部材とを伸張した水平姿勢となり、

前記第２支持部は、前記第１腕部材と前記第２腕部材とを伸張した水平姿勢にして前記

第１支持部を前記筐体の前記開口から引き出した水平状態で保持する水平保持部と、前記水平保持部で水平状態で保持された前記第１支持部を前記一方面及びその反対面のうち下側を向いていた面を表向けるように姿勢変更した表向き傾斜姿勢で保持する表向き傾斜姿勢保持部と、を備え、

前記第１支持部または前記制御手段の少なくとも一方は、当該第１支持部の水平状態において前記封印手段による封印を解除するために破壊される被破壊部を備え、

前記第１支持部は、前記被破壊部の破壊によって封印が解除された前記制御手段を支持する

ことを特徴とする遊技機。

【０３４１】

前記（１５）に記載の発明によれば、第１支持部は、起立姿勢の第２支持部の収容位置から回動して水平姿勢となる。第２支持部は、第１支持部が取り外し不可で当該第１支持部が回動自在に連結された回動連結部を先端側に備えた第１腕部材と、この第１腕部材の後端側に取り外し不可で当該第１腕部材が回動自在に連結された回動連結部を先端側に備えた第２腕部材とを備え、この第２腕部材の後端側が第３支持部に対して回動自在に連結支持されており、側面視で第１腕部材と第２腕部材とが折り畳んで重なるようにした起立姿勢から、第１腕部材と第２腕部材とを伸張した水平姿勢となる。第２支持部は、第１腕部材と第２腕部材とを伸張した水平姿勢にして第１支持部を筐体の開口から引き出した水平状態で保持する水平保持部と、この水平保持部で水平状態で保持された第１支持部を前記一方面及びその反対面のうち下側を向いていた面を表向けるように姿勢変更した表向き傾斜姿勢で保持する表向き傾斜姿勢保持部と、を備えている。したがって、制御手段を支持する第１支持部を起立姿勢の第２支持部の収容位置から回動して水平姿勢とし、側面視で第１腕部材と第２腕部材とが折り畳んで重なるようにした起立姿勢から、第１腕部材と第２腕部材とを伸張した水平姿勢とし、第１支持部を筐体の開口から引き出して水平状態で保持することができ、第１支持部の水平状態において被破壊部の破壊作業つまり封印解除作業がし易い。特に、被破壊部は、手前側に配設されている方が作業性がよい。また、力を入れて封印解除するような場合でも、第１支持部の水平状態が水平保持部によって保持されるので、下方の遊技部品を保護することができる。また、水平保持部で水平状態で保持された第１支持部を前記一方面及びその反対面のうち下側を向いていた面を表向けるように姿勢変更した表向き傾斜姿勢で保持するので、制御手段の前記一方面及びその反対面のうち下側を向いていた面の点検及び封印等の作業を容易に行うことができ、制御手段の前記一方面及びその反対面のうち下側を向いていた面への不正な基板の取り付けが発見し易い。

【０３４２】

（１６）　前記（１）から（１４）のいずれか一つに記載の遊技機において、

前記制御手段は、遊技に関する所定の制御を司る制御基板と、前記制御基板を内部に収容する基板収容ケースとを備え、

前記封印手段は、前記基板収容ケースから前記制御基板の取り出しを抑止するものであり、

さらに、前記封印手段は、係止部材が挿入される、前記第１支持部に形成された挿入部と、前記挿入部に挿入された前記係止部材が挿入されて引き抜き不可に係止する、前記基板収容ケースに形成された被封止部とを備え、

前記被封止部は、前記基板収容ケースから前記制御基板の取り出しの抑止を解除するべく破壊される抑止解除用被破壊部を備えている

ことを特徴とする遊技機。

【０３４３】

前記（１６）に記載の発明によれば、抑止解除用被破壊部を破壊することで、基板収容ケースから制御基板を取り出し可能とすることができ、抑止解除用被破壊部の破壊痕を見ることで、基板収容ケースが開封されたことがわかる。

【０３４４】

（１７）　前記（１６）に記載の遊技機において、
前記基板収容ケースは、前記制御基板が取り付けられる第１ケース体と、前記第１ケース体でのその制御基板取付面側に合わされる第２ケース体とを備え、前記第１ケース体と前記第２ケース体とを合わせた状態で前記第１ケース体または前記第２ケース体の少なくとも一方を当該合わせ面所定方向にスライド移動させることで前記第１ケース体と前記第２ケース体とを係止する係止手段を備え、
前記封印手段は、前記係止手段によって係止状態とされた前記第１ケース体及び前記第２ケース体を開封不可に封止する
ことを特徴とする遊技機。
【０３４５】
前記（１７）に記載の発明によれば、基板収容ケースの係止手段は、制御基板が取り付けられた第１ケース体でのその制御基板取付面側に第２ケース体を合わせた状態で第１ケース体または第２ケース体の少なくとも一方を当該合わせ面所定方向にスライド移動させることで、第１ケース体と第２ケース体とを係止する。封印手段は、係止手段によって係止状態とされた第１ケース体及び第２ケース体を開封不可に封止する。したがって、封印手段によって第１ケース体及び第２ケース体が開封不可に封止されているので、遊技機用基板収容ケースが不正に開封されることを低減できる。また、この封止状態では、係止手段によって第１ケース体及び第２ケース体がスライド係止されており、第１ケース体及び第２ケース体をスライド方向に直交する対向方向に開けることができず、基板収容ケースが不正に開封されることを低減できる。
【０３４６】
（１８）　前記（１７）に記載の遊技機において、
前記係止手段は、
前記第１ケース体または前記第２ケース体の一方のケース体での前記スライド方向に平行な両辺箇所にその辺方向に並設された複数個の鉤状突起部と、
前記第１ケース体または前記第２ケース体の他方のケース体での前記スライド方向に平行な両辺箇所にその辺方向に並設された、前記鉤状突起部が挿入されて係止可能な複数個の被鉤状突起係止部とを備えるとともに、
前記第１ケース体または前記第２ケース体の少なくとも一方を前記スライド移動させることで前記鉤状突起部と前記被鉤状突起係止部とが係止する
ことを特徴とする遊技機。
【０３４７】
前記（１８）に記載の発明によれば、基板収容ケースの係止手段は、第１ケース体または第２ケース体の一方のケース体でのスライド方向に平行な両辺箇所にその辺方向に並設された複数個の鉤状突起部と、第１ケース体または第２ケース体の他方のケース体でのスライド方向に平行な両辺箇所にその辺方向に並設された、鉤状突起部が挿入されて係止可能な複数個の被鉤状突起係止部とを備えるとともに、第１ケース体または第２ケース体の少なくとも一方をスライド移動させることで鉤状突起部と被鉤状突起係止部とが係止するので、封印手段によって第１ケース体及び第２ケース体が開封不可に封止された封止状態では、第１ケース体または第２ケース体の両辺で所定長さに亘って配置された複数個の鉤状突起部及び被鉤状突起係止部でスライド係止されており、細状の不正具を第１ケース体と第２ケース体との間に挿し入れるなどして第１ケース体と第２ケース体との間に隙間を開けたり、第１ケース体及び第２ケース体を開けたりすることを低減でき、基板収容ケースが不正に隙間形成や開封されることを低減できる。
【０３４８】
また、本明細書は、次のような第１課題を解決できる、遊技機に係る発明も開示している。
【０３４９】
＜第１課題＞
従来の前述した第１先行例及び第２先行例のスロットマシンでは、例えば、本体キャビ

ネットの扉を開いた状態にすると、制御装置を開封不可とするかしめ箇所、あるいは、制御装置を可動取付装置に取り外し不可とするかしめ箇所が見えるため、かしめ箇所にアクセス可能であり、不正なかしめ切断（破壊）作業によってかしめ固定が不正に解除されるという問題がある。

【０３５０】

また、正当な作業者（例えば、ホール関係者や製造会社の技術者など）がかしめ解除する場合には、前述した第１先行例のスロットマシンでは、本体キャビネットの内部奥側に位置する起立姿勢の制御装置に対してかしめ解除作業を行うことになるが、本体キャビネットの内部が暗いし、制御装置が奥側に位置することもあって、かしめ解除作業が煩わしいという問題がある。

【０３５１】

また、前述した第２先行例のスロットマシンでは、スライド支持板に水平姿勢で取り付けられた制御装置は、本体キャビネットの内部奥側に起立姿勢で取り付けられた場合に比べて、前面側に近いため、不正行為を受け易いという問題がある。また、スライド支持版を本体キャビネットの開口から突出させた状態で制御装置の上面を目視確認できるものの、その制御装置の下面（制御装置でのスライド支持板と対向する面）を目視確認できないため、制御装置の下面に不正な基板を取り付けた不正行為を発見できないという問題もある。

【０３５２】

本発明は、このような事情に鑑みてなされたものであって、制御装置の点検、封印及びその解除等の作業が容易であり、且つ、制御装置に対する不正行為を低減できる遊技機を提供することを目的とする。

【０３５３】

（１９）　前面側に開口を有する筐体と、

前記筐体の前面側で開閉可能であって閉状態で前記開口を閉塞する扉と、

遊技に関する制御を行う制御基板を基板収容ケースの内部に収容した制御手段と、

前記制御手段が取り付けられる被取付部材と、

前記制御手段を開封不可に封印、または、前記制御手段を前記被取付部材に取り外し不可に封印する封止手段と、

前記被取付部材または前記制御手段の少なくとも一方に設けられた、前記封止手段による封印を解除するために破壊される封止解除用被破壊部と、

前記筐体の開口視で前記封止解除用被破壊部が見えないように前記制御手段を前記筐体の内部奥側箇所に起立姿勢で収納支持する隠蔽収納支持状態と、前記封止解除用被破壊部を露出させるように前記制御手段を傾倒姿勢にして前記筐体の前記開口から引き出した状態で支持する露出引出支持状態とに変位する隠蔽露出変更支持手段と、

を備えている

ことを特徴とする遊技機である。

【０３５４】

前記（１９）に記載の発明によれば、筐体は、前面側に開口を有する。扉は、筐体の前面側で開閉可能であって閉状態でその開口を閉塞する。制御手段は、遊技に関する制御を行う制御基板を基板収容ケースの内部に収容したものである。被取付部材は、制御手段が取り付けられる。封止手段は、制御手段を開封不可に封印、または、制御手段を被取付部材に取り外し不可に封印する。封止解除用被破壊部は、封止手段による封印を解除するために破壊されるものであり、被取付部材または制御手段の少なくとも一方に設けられている。隠蔽露出変更支持手段は、筐体の開口視で封止解除用被破壊部が見えないように制御手段を筐体の内部奥側箇所に起立姿勢で収納支持する隠蔽収納支持状態と、封止解除用被破壊部を露出させるように制御手段を傾倒姿勢にして筐体の開口から引き出した状態で支持する露出引出支持状態とに変位する。

【０３５５】

したがって、隠蔽露出変更支持手段による制御手段の隠蔽収納支持状態では、制御手段

が筐体の内部奥側箇所に起立姿勢で収納支持されているので、筐体内部奥側の制御手段に対して不正行為をし難くできるだけでなく、たとえ筐体の扉を開けた状態としても筐体の開口視で封止解除用被破壊部が見えないので、封止解除用被破壊部に直接にアクセスすることができず、封止解除用被破壊部を不正に破壊することが困難であり、制御手段への不正行為がし辛く、制御手段に対する不正行為を低減できる。

【０３５６】

また、隠蔽露出変更支持手段による制御手段の露出引出支持状態では、封止解除用被破壊部を露出させるように制御手段を傾倒姿勢にして筐体の開口から引き出した状態で支持するので、正当な作業者（例えば、ホール関係者や製造会社の技術者など）は、筐体内部の暗がりの中で制御手段を確認するのではなく、筐体から引き出した状態でしかも制御手段が視認可能であるので、制御手段の点検、封印及びその解除等の作業を容易に行うことができるし、制御手段の前面または裏面に不正な基板が付けられたとしてもそれを容易で確実に発見することができる。また、不正行為者が筐体の扉を開状態にして、制御手段を筐体の開口から引き出した状態（露出引出支持状態）で不正行為を施そうとしても、それらの行為が目立つため、不正行為がし辛く、不正行為を低減することができる。その結果、制御手段（例えば、制御装置）の点検、封印及びその解除等の作業が容易であり、且つ、制御手段に対する不正行為を低減できる遊技機を提供することができる。

【０３５７】

なお、本明細書で言う「開封不可」とは、破壊痕跡を残さずに開封できないという意味である。

【０３５８】

（２０）　前記（１９）に記載の遊技機において、

前記封止解除用被破壊部は、前記制御手段の前記隠蔽収納支持状態において前記被取付部材または前記制御手段の少なくとも一方の裏面側上部箇所に設けられており、

前記隠蔽露出変更支持手段は、前記制御手段を起立姿勢と傾倒姿勢とに側面視下辺側を回動軸として回動自在に支持する

ことを特徴とする遊技機。

【０３５９】

前記（２０）に記載の発明によれば、封止解除用被破壊部は、制御手段の隠蔽収納支持状態において被取付部材または制御手段の少なくとも一方の裏面側上部箇所に設けられている。隠蔽露出変更支持手段は、制御手段を起立姿勢と傾倒姿勢とに側面視下辺側を回動軸として回動自在に支持する。したがって、封止解除用被破壊部は、制御手段の露出引出支持状態において、手前側上面箇所に位置しており、この封止解除用被破壊部に対して真上から破壊作業を行うことができ、封印解除作業がし易い。

【０３６０】

（２１）　前記（１９）に記載の遊技機において、

前記隠蔽露出変更支持手段は、前記制御手段を支持する、前記被取付部材としての第１支持部と、この第１支持部が取り外し不可に連結されて前記第１支持部を収めた収容位置とこの収容位置から進出した進出位置とに当該第１支持部を進退自在に支持する第２支持部と、前記第２支持部が取り外し不可に連結されて当該第２支持部を起立姿勢と傾倒姿勢とに側面視下辺側を回動軸として回動自在に支持するとともに前記筐体の内部奥側箇所に固定される第３支持部とを備えている

ことを特徴とする遊技機。

【０３６１】

前記（２１）に記載の発明によれば、隠蔽露出変更支持手段は、第１～第３支持部を備えている。被取付部材としての第１支持部は、制御手段を支持する。第２支持部は、第１支持部が取り外し不可に連結されており、第１支持部を収めた収容位置とこの収容位置から進出した進出位置とに当該第１支持部を進退自在に支持する。第３支持部は、第２支持部が取り外し不可に連結されており、第２支持部を起立姿勢と傾倒姿勢とに側面視下辺側を回動軸として回動自在に支持するとともに、筐体の内部奥側箇所に固定される。したが

って、封止解除用被破壊部は、制御手段の露出引出支持状態において、手前側上面箇所に位置しており、この封止解除用被破壊部に対して真上から破壊作業を行うことができ、封印解除作業がし易い。また、封止手段が、制御手段を被取付部材に取り外し不可に封印するものである場合には、制御手段を第１支持部から取り外すことを低減できる。また、第１～第３支持部が取り外し不可に連結されているので、第１～第３支持部を取り外したりすることを低減できる。つまり、制御手段だけを取り外したり、制御手段を第１，第２支持部ごとを取り外したりして制御手段に不正を施して戻したり、制御手段を取り外して別の不正な制御手段に交換したりすることを低減でき、制御手段への不正対策に優れる。

【０３６２】

また、「前記封止解除用被破壊部は、前記制御手段の前記隠蔽収納支持状態において前記被取付部材または前記制御手段の少なくとも一方の裏面側上部箇所に設けられており、

前記隠蔽露出変更支持手段は、前記制御手段を支持する、前記被取付部材としての第１支持部と、この第１支持部が取り外し不可に連結されて前記第１支持部を収めた収容位置とこの収容位置から回動した回動位置とに当該第１支持部を回動自在に支持するものであって起立姿勢で折り畳み状態となり傾倒姿勢で伸張状態となる第２支持部と、前記第２支持部が取り外し不可に連結されて当該第２支持部を起立姿勢と傾倒姿勢とに側面視下辺側を回動軸として回動自在に支持するとともに前記筐体の内部奥側箇所に固定される第３支持部とを備えている」としてもよい。

【０３６３】

この場合には、封止解除用被破壊部は、制御手段の隠蔽収納支持状態において被取付部材または制御手段の少なくとも一方の裏面側上部箇所に設けられている。隠蔽露出変更支持手段は、第１～第３支持部を備えている。被取付部材としての第１支持部は、制御手段を支持する。第２支持部は、第１支持部が取り外し不可に連結されており、第１支持部を収めた収容位置とこの収容位置から回動した回動位置とに当該第１支持部を回動自在に支持するものであって、起立姿勢では折り畳み状態となり、傾倒姿勢では伸張状態となる。第３支持部は、第２支持部が取り外し不可に連結されており、第２支持部を起立姿勢と傾倒姿勢とに側面視下辺側を回動軸として回動自在に支持するとともに、筐体の内部奥側箇所に固定される。したがって、封止解除用被破壊部は、制御手段の露出引出支持状態において、手前側上面箇所に位置しており、この封止解除用被破壊部に対して真上から破壊作業を行うことができ、封印解除作業がし易い。

【０３６４】

また、封止手段が、制御手段を被取付部材に取り外し不可に封印するものである場合には、制御手段を第１支持部から取り外すことを低減できる。また、第１～第３支持部が取り外し不可に連結されているので、第１～第３支持部を取り外したりすることを低減できる。つまり、制御手段だけを取り外したり、制御手段を第１，第２支持部ごとを取り外したりして制御手段に不正を施して戻したり、制御手段を取り外して別の不正な制御手段に交換したりすることを低減でき、制御手段への不正対策に優れる。

【０３６５】

（２２）　前記（２０）または（２１）に記載の遊技機において、

前記被取付部材または前記制御手段は、当該制御手段の前記露出引出支持状態において前記封止解除用被破壊部の下方箇所に、その破壊によって分離された破壊部品の落下を防止する破壊部品落下防止手段を備えている

ことを特徴とする遊技機。

【０３６６】

前記（２２）に記載の発明によれば、被取付部材または制御手段は、この制御手段の露出引出支持状態において封止解除用被破壊部の下方箇所に破壊部品落下防止手段を備えており、破壊部品落下防止手段は、封止解除用被破壊部の破壊によって分離された破壊部品の落下を防止する。したがって、封印解除した際にその破壊部品の落下が防止され、筐体内部に破壊部品が紛れ込んで見失ってしまうことや、筐体内部に入った破壊部品で当該筐体内の部品等が損傷することも低減できる。

【０３６７】
　また、本明細書は、次のような第２課題を解決できる、遊技機に係る発明も開示している。
【０３６８】
　＜第２課題＞
従来の前述した第１先行例及び第２先行例のスロットマシンでは、例えば、リールユニットの上部に設けられた上面板は、側面視で回転リールの前面側の上方位置には存在しておらず、かかる位置で交換作業中の制御装置を誤って落下させてしまうと、制御装置が回転リールに当って当該回転リールが損傷してしまうという問題がある。
【０３６９】
　また、第１先行例及び第２先行例のスロットマシンでは、リールユニット上に上面板が常時存在するため、リールユニットの交換作業がし辛いという問題がある。
【０３７０】
　本発明は、このような事情に鑑みてなされたものであって、制御装置の誤落下によるリールユニットの損傷低減及びリールユニットの交換作業を容易に行うことができる遊技機を提供することを目的とする。
【０３７１】
　（２３）　前面側に開口を有する筐体と、
　前記筐体の前面側で開閉可能であって閉状態で前記開口を閉塞する扉と、
　前記筐体内部に設けられた遊技部品と、
　前記筐体の内部で且つ前記遊技部品の上方箇所に収納される、遊技に関する制御を行う制御手段と、
　前記筐体の内部奥側で且つ前記遊技部品の上方箇所に起立姿勢で収納された収納状態と、少なくとも一部が前記遊技部品よりも前側に位置するように前記筐体の前記開口側に引き出された引出状態と、に変位する変位保護手段と、
　を備えている
　ことを特徴とする遊技機。
【０３７２】
　前記（２３）に記載の発明によれば、筐体は、前面側に開口を有する。扉は、筐体の前面側で開閉可能であって閉状態でその開口を閉塞する。制御手段は、遊技に関する制御を行うものであり、筐体の内部で且つ遊技部品の上方箇所に収納される。変位保護手段は、筐体の内部奥側で且つ遊技部品の上方箇所に起立姿勢で収納された収納状態と、少なくとも一部が遊技部品よりも前側に位置するように筐体の開口側に引き出された引出状態とに変位する。
【０３７３】
　したがって、変位保護手段の収納状態では、筐体の内部奥側で且つ遊技部品の上方箇所に起立姿勢で収納支持されているので、遊技部品の上方スペースを確保でき、遊技部品の交換作業の邪魔にならない。
【０３７４】
　また、変位保護手段の引出状態では、その少なくとも一部が遊技部品よりも前側に位置するように筐体の開口側に引き出された状態となっているので、装着の際に誤って制御手段を落下させたとしても、制御手段が引出状態の変位保護手段に当って、この引出状態の変位保護手段の下方の遊技部品に当り難いので、遊技部品が損傷することが低減でき、遊技部品を保護することができる。
【０３７５】
　その結果、制御手段（例えば、制御装置）の誤落下による遊技部品（例えば、リールユニット）の損傷を低減でき、遊技部品（例えば、リールユニット）の交換作業を容易に行うことができる遊技機を提供することができる。
【０３７６】
　（２４）　前記（２３）に記載の遊技機において、

前記変位保護手段は、前記制御手段が取り付けられる被取付体を備えるとともに、前記制御手段を前記筐体の内部奥側で且つ前記遊技部品の上方箇所に起立姿勢で収納するように前記被取付体を支持する収納支持状態と、前記被取付体の少なくとも一部が前記遊技部品よりも前側に位置するように当該被取付体を前記筐体の前記開口側に引き出して支持する引出支持状態と、に変位するものであり、

前記被取付体は、前記引出支持状態において前記制御手段が載置されて当該制御手段の載置面側を覆う覆い部を備えている

ことを特徴とする遊技機。

【０３７７】

前記（２４）に記載の発明によれば、変位保護手段は、制御手段が取り付けられる被取付体を備えるとともに、制御手段を筐体の内部奥側で且つ遊技部品の上方箇所に起立姿勢で収納するように被取付体を支持する収納支持状態と、被取付体の少なくとも一部が遊技部品よりも前側に位置するように当該被取付体を筐体の開口側に引き出して支持する引出支持状態と、に変位する。被取付体は、引出支持状態において制御手段が載置されて当該制御手段の載置面側を覆う覆い部を備えている。

【０３７８】

したがって、変位保護手段による被取付体の引出支持状態では、被取付体の少なくとも一部が遊技部品よりも前側に位置するように当該被取付体を筐体の開口側に引き出された状態となっており、被取付体は、制御手段の載置面側を覆う覆い部を備えているので、工具や部品などを誤って落下させた場合であっても、落下工具や落下部品を被取付体の覆い部で受け止めることができ、この被取付体の下方にある遊技部品に落下工具や落下部品を当てることが低減でき、落下工具や落下部品から遊技部品を保護することができる。

【０３７９】

本明細書中で言う「覆い部」とは、制御手段の載置面側の全体を覆うことを意味するが、全体に替えて、制御手段の載置面側の一部を覆うようにしてもよい。例えば、制御手段のかしめ部分の下側を覆うことが挙げられ、かしめ部品やかしめ切断片などの落下を低減でき、かかる部品が遊技機内にはってしまうことを低減できる。

【０３８０】

（２５）　前記（２３）または（２４）に記載の遊技機において、

前記変位保護手段による前記引出支持状態の前記被取付体が開状態の前記扉の内側所定箇所に当接することで、前記扉を開状態に維持する扉閉まり抑止手段を備えている

ことを特徴とする遊技機。

【０３８１】

前記（２５）に記載の発明によれば、扉閉まり抑止手段は、変位保護手段による引出支持状態の被取付体が開状態の扉の内側所定箇所に当接することで、扉を開状態に維持するので、作業者は扉を開状態に維持するように持っておく必要がなく、制御手段の着脱作業に集中できる。また、制御手段の着脱作業中に扉が勢いよく閉まろうとして部品や装置が損傷することを低減できる。

【０３８２】

また、本明細書は、次のような第３課題を解決できる、遊技機に係る発明も開示している。

【０３８３】

＜第３課題＞

従来の前述した第１先行例及び第２先行例のスロットマシンでは、例えば、リールユニットの上部に設けられた上面板は、側面視で回転リールの前面側の上方位置には存在しておらず、かかる位置で交換作業中の制御装置を誤って落下させてしまうと、制御装置が回転リールに当って当該回転リールが損傷してしまうという問題がある。また、制御装置の着脱の際に、制御装置を回転リールに接触させてしまい、当該回転リールが損傷してしまうという問題がある。

【０３８４】

また、第１先行例及び第２先行例のスロットマシンでは、リールユニット上に上面板が常時存在するため、リールユニットの交換作業がし辛いという問題がある。

【０３８５】

また、前述した第１先行例のスロットマシンでは、例えば、本体キャビネットの内部奥側に位置する起立姿勢の制御装置に対しては、本体キャビネットの内部が暗いし、制御装置が奥側に位置することもあって、制御装置の点検や封印の作業が非常に煩わしいという問題がある。そこで、制御装置を回動して水平姿勢にしたとしても、本体キャビネットの内部で起立姿勢から水平姿勢に回動するに過ぎないため、本体キャビネットの内部が暗く、制御装置の点検や封印の作業が煩わしいという問題が依然として残る。また、前述した第２先行例のスロットマシンでは、スライド支持板に水平姿勢で取り付けられた制御装置は、本体キャビネットの内部奥側に起立姿勢で取り付けられた場合に比べて、前面側に近いため、不正行為を受け易いという問題がある。

【０３８６】

本発明は、このような事情に鑑みてなされたものであって、制御装置の誤落下や接触によるリールユニットの損傷低減及びリールユニットの交換作業を容易に行うことができ、且つ、制御装置に対する不正行為を低減できる遊技機を提供することを目的とする。

【０３８７】

（２６）　前面側に開口を有する筐体と、

前記筐体の前面側で開閉可能であって閉状態で前記開口を閉塞する扉と、

前記筐体内部に設けられた遊技部品と、

遊技に関する制御を行う制御手段と、

前記制御手段が取り付けられる被取付体と、

前記制御手段を前記筐体の内部奥側で且つ前記遊技部品の上方箇所に起立姿勢で収納するように前記被取付体を支持する収納支持状態と、前記被取付体の少なくとも一部が前記遊技部品よりも前側に位置するように当該被取付体を前記筐体の前記開口側に引き出して支持する引出支持状態と、に変位する変位支持手段と、

を備え、

前記被取付体は、前記引出支持状態において前記制御手段が上方から載置される載置部を備えている

ことを特徴とする遊技機。

【０３８８】

前記（２６）に記載の発明によれば、筐体は、前面側に開口を有する。扉は、筐体の前面側で開閉可能であって閉状態でその開口を閉塞する。制御手段は、遊技に関する制御を行う。被取付体は、制御手段が取り付けられる。変位支持手段は、制御手段を筐体の内部奥側で且つ遊技部品の上方箇所に起立姿勢で収納するように被取付体を支持する収納支持状態と、被取付体の少なくとも一部が遊技部品よりも前側に位置するように当該被取付体を筐体の開口側に引き出して支持する引出支持状態と、に変位する。被取付体は、引出支持状態において制御手段が上方から載置される載置部を備えている。

【０３８９】

したがって、変位支持手段による被取付体の収納支持状態では、制御手段が筐体の内部奥側で且つ遊技部品の上方箇所に起立姿勢で収納支持されているので、不正行為がし辛く、不正行為を低減できる。また、この収納支持状態では、制御手段が筐体の内部奥側で起立姿勢で収納支持されているので、遊技部品の上方スペースを確保でき、遊技部品の交換作業の邪魔にならない。

【０３９０】

また、変位支持手段による被取付体の引出支持状態では、被取付体の少なくとも一部が遊技部品よりも前側に位置するように当該被取付体を筐体の開口側に引き出された状態となっており、制御手段は、この引出支持状態の被取付体の載置部に載置されて取り付けられるので、制御手段の被取付体への装着がし易い。また、装着の際に誤って制御手段を落下させたとしても、制御手段が引出支持状態の被取付体に当るだけで、この引出支持状態

の被取付体の下方の遊技部品に当らないので、遊技部品が損傷することが低減でき、遊技部品を保護することができる。また、変位支持手段及びこの変位支持手段による引出支持状態の被取付体を、遊技部品を保護する機構として使用することができるし、制御手段の落下防止機構としても使用することができる。

【０３９１】

また、制御手段を取り付ける際には、引き出されて水平姿勢の被取付体の載置部に上方から制御手段を載置して取り付け、制御手段を取り外す際には、引き出されて水平姿勢の被取付体の載置部の上方に制御手段を引き上げて取り外すので、制御手段を遊技部品に接触させることがなく、当該遊技部品を損傷させることが防止できる。

【０３９２】

また、筐体内部の暗がりの中で制御手段を確認するのではなく、変位支持手段によって筐体から引き出した引出支持状態で制御手段を視認できるので、制御手段の点検及び封印等の作業を容易に行うことができるし、制御手段の前面または裏面に不正な基板が付けられたとしてもそれを容易で確実に発見することができる。また、不正行為者が扉を開状態にして、制御手段を筐体の開口から引き出した状態で不正行為を施そうとしても、それらの行為が目立つため、不正行為がし辛く、不正行為を低減することができる。

【０３９３】

その結果、制御手段（例えば、制御装置）の誤落下や接触による遊技部品（例えば、リールユニット）の損傷を低減でき、遊技部品（例えば、リールユニット）の交換作業を容易に行うことができ、且つ、制御手段（例えば、制御装置）に対する不正行為を低減できる遊技機を提供することができる。

【０３９４】

（２７）　前記（２６）に記載の遊技機において、

前記変位支持手段による前記引出支持状態の前記被取付体は、前記制御手段が前記載置部から持ち上げて取り外され、前記制御手段が前記載置部に載置して取り付けられる

ことを特徴とする遊技機。

【０３９５】

前記（２７）に記載の発明によれば、変位支持手段による引出支持状態の被取付体は、制御手段が載置部から持ち上げて取り外され、制御手段が載置部に載置して取り付けられるので、制御手段の着脱の際に、遊技部品に当ることが低減できる。

【０３９６】

（２８）　前記（２６）または（２７）に記載の遊技機において、

前記載置部は、前記引出支持状態の前記被取付体の下部側に形成されて、前記制御手段での当該載置部と対向する面における少なくとも二箇所を支持する透明支持部である

ことを特徴とする遊技機。

【０３９７】

前記（２８）に記載の発明によれば、載置部は、引出支持状態の被取付体の下部側に形成されて、制御手段での当該載置部と対向する面における少なくとも二箇所を支持する透明支持部であるので、制御手段での当該載置部と対向する面を目視確認することができ、かかる箇所に不正な基板（部品など）を配設することを低減できる。

【０３９８】

（２９）　前記（２６）または（２７）に記載の遊技機において、

前記載置部は、前記引出支持状態の前記被取付体の下部側に形成されて、前記制御手段での当該載置部と対向する面全体に亘る透明面状部である

ことを特徴とする遊技機。

【０３９９】

前記（２９）に記載の発明によれば、載置部は、引出支持状態の被取付体の下部側に形成されて、制御手段での当該載置部と対向する面全体に亘る透明面状部であるので、制御手段の被取付体からの落下を防止できる。また、載置部が透明面状部であるので、制御手段での当該載置部と対向する面を目視確認することができ、かかる箇所に不正な基板（部

品など）を配設することを低減できる。
【０４００】
（３０）　前面側に開口を有する筐体と、
前記筐体の前面側で開閉可能であって閉状態で前記開口を閉塞する扉と、
前記筐体内部に設けられた遊技部品と、
遊技に関する制御を行う制御基板を収容体の内部に収容して封止手段で封印された制御手段と、
前記制御基板の実装部品が上向きとなるように前記制御手段を水平姿勢で取り付けられる、前記筐体内に設けられた被取付体と、
を備え、
前記被取付体は、前記制御手段が上方から載置される載置部を備え、前記制御手段が前記載置部から持ち上げて取り外され、前記制御手段が前記載置部に載置して取り付けられる
ことを特徴とする遊技機。
【０４０１】
前記（３０）に記載の発明によれば、筐体は、前面側に開口を有する。扉は、筐体の前面側で開閉可能であって閉状態でその開口を閉塞する。制御手段は、遊技に関する制御を行う制御基板を収容体の内部に収容して封止手段で封印されている。被取付体は、制御基板の実装部品が上向きとなるように制御手段を水平姿勢で取り付けられるものであり、筐体内に設けられている。被取付体は、引出支持状態において制御手段が上方から載置される載置部を備え、制御手段が載置部から持ち上げて取り外され、制御手段が載置部に載置して取り付けられる。
【０４０２】
したがって、制御手段は、被取付体の載置部に上方から載置されて取り付けられるので、制御手段の被取付体への装着がし易い。また、装着の際に誤って制御手段を落下させたとしても、制御手段が被取付体に当って、この被取付体の下方の遊技部品に当り難いので、遊技部品が損傷することが低減でき、遊技部品を保護することができる。また、被取付体を、遊技部品を保護する機構として使用することができるし、制御手段の落下防止機構としても使用することができる。
【０４０３】
また、制御手段を取り付ける際には、被取付体の載置部に上方から制御手段を載置して取り付け、制御手段を取り外す際には、引き出されて水平姿勢の被取付体の載置部の上方に制御手段を引き上げて取り外すので、制御手段の着脱の際に、制御手段を遊技部品に接触させることがなく、当該遊技部品を損傷させることが防止できる。
【０４０４】
その結果、制御手段（例えば、制御装置）の誤落下や接触による遊技部品（例えば、リールユニット）の損傷を低減できる遊技機を提供することができる。
【０４０５】
（３１）　前記（１）から（３０）のいずれか一つに記載の遊技機において、
前記遊技機はスロットマシンであることを特徴とする遊技機。
【０４０６】
前記（３１）に記載の遊技機によれば、図柄変動表示手段（例えば、リールユニット）の交換作業の邪魔にならず、制御手段（例えば、制御装置）の点検及び封印等の作業が容易であり、且つ、制御手段に対する不正行為を低減できるスロットマシンを提供できる。なお、スロットマシンの基本構成としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を動的表示した後に識別情報を確定表示する可変表示手段を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の動的表示が開始され、停止用操作手段（例えばストップボタン）の操作に起因して、あるいは、所定時間経過することにより、識別情報の動的表示が停止され、その停止時の確定識別情報が特定識別情報であることを必要条件として、遊技者に有利な特別遊技状態を発生させる特別遊技状態発生手段とを備えた遊技機」

となる。この場合、遊技用媒体はコイン、メダル等が代表例として挙げられる。
【０４０７】
　なお、本明細書に開示する種々の発明に関して、全ての構成要素について種々の組み合わせが可能であり、他の構成要件がなくても単独で発明として成立する点に留意されたい。
【産業上の利用可能性】
【０４０８】
　以上のように、この発明は、スロットマシン等の遊技機に適している。
【符号の説明】
【０４０９】
　１１　…本体（筐体）
　１１ａ…開口部（開口）
　１２　…前面扉（扉）
　２５　…リールユニット（図柄変動表示手段）
　７０　…主制御装置（制御手段）
　７１　…ケース上（第１ケース体）
　７２　…ケース下（第２ケース体）
　７３　…主制御基板（制御基板）
　７４　…基板ケース（基板収容ケース）
１００　…取付台（変位支持手段、隠蔽露出変更支持手段、変位保護手段）
１１０　…固定ベース（第３支持部）
１２０　…回動枠体（第２支持部）
１２５　…スライド支持部
１２６　…水平保持部
１３０　…スライド枠体（第１支持部、被取付体）
１３５　…延出部（破壊部品落下防止手段、載置部）
１３７　…支持用延出片（載置部）
１３６　…ピン挿入孔（挿入部）
１４０　…姿勢変更機構部（姿勢変更手段）
１４１　…表向き傾斜姿勢保持部（表向き傾斜姿勢保持手段）
１５０　…封止部材（封止手段）
１６６　…ケース封止解除用被切断部（封止解除用被破壊部）
１９０　…別封止部材（封印手段、封止手段）
１９２　…別被封止部（被封止部）
１９３　…二重かしめピン（係止部材）
１９６　…取付解除用被切断部（抑止解除用被破壊部、封止解除用被破壊部）
２００　…取付台（変位支持手段、隠蔽露出変更支持手段、変位保護手段）
２１０　…固定ベース（第３支持部）
２２０　…リンク枠体（第２支持部）
２２６　…水平保持部
２３０　…支持枠体（第１支持部、被取付体）
２３５　…延出部（破壊部品落下防止手段、載置部）
２３７　…支持用延出片（載置部）
２４０　…姿勢変更機構部（姿勢変更手段）
２４１　…表向き傾斜姿勢保持部（表向き傾斜姿勢保持手段）
３００　…引出姿勢規制部（引出姿勢規制手段）
３１０　…延出固定部材